野々市町中南部土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書3

粟田遺跡（第12・15次調査）

2008

石川県野々市町教育委員会

野々市町中南部土地区画整理組合

粟田遺跡（第12・15次調査）

2008

石川県野々市町教育委員会
野々市町中南部土地区画整理組合

A～F全景（南から）

G・H区全景（東から）

6号竪穴建物AW(15)⑤完掘(北から)

土坑AW(15)2214青磁碗・青花碗出土状況

例　言

1　本書は、粟田遺跡(第12・15次)埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2　遺跡の所在地は、石川県石川郡野々市町粟田地内である。
3　調査原因は野々市町中南部土地区画整理事業にともなうものである。
4　調査にかかる費用は、野々市町中南部土地区画整理組合が負担した。
5　調査は、野々市町中南部土地区画整理組合からの依頼を受けて野々市町教育委員会が実施した。
6　現地調査は、平成12・17年度に実施した。遺跡名・面積・期間・担当者は下記のとおりである。

平成12年度　粟田遺跡(第12次)　面　積　680㎡
期　間　平成12年6月30日～平成12年8月2日
担当者　布尾和史　野々市町教育委員会文化課　主事
永野勝章　野々市町教育委員会文化課　主事

平成17年度　粟田遺跡(第15次)　面　積　3,339㎡
期　間　平成17年5月16日～平成17年12月6日
担当者　永野勝章

7　出土品整理は平成12・17・18・19年度に野々市町教育委員会が実施した。
8　報告書の刊行は平成19年度に野々市町教育委員会文化振興課が実施した。編集・執筆は永野勝章(野々市町教育委員会文化振興課　主査)が行った。
9　現地調査から出土品整理、報告書刊行に至るまでには地元の方々をはじめとして下記の機関、個人の協力を得た。(五十音順、敬称略)

岩瀬由美、垣内光次郎、柿田祐司、布尾和史、布尾幸恵、藤澤良祐、藤田邦雄、(財)石川県埋蔵文化財センター、野々市町中南部土地区画整理組合、野々市町都市計画課

10　本書についての凡例は下記のとおりである。
(1)　方位は座標北を指し、座標は国土交通省告示の平面直角座標第Ⅶ系に準拠している。
(2)　水平基準は海抜高であり、T．P．(東京湾平均海面標高)による。
(3)　出土遺物番号は、遺跡ごとに本文・観察表・挿図・写真で対応する。
(4)　挿図の縮尺は図に示すとおりである。また、写真図版における遺物の縮尺は統一していない。

11　調査に関する記録と出土遺物は、野々市町教育委員会が一括して保管・管理している。

目　　次

第１章　調査の経過 …… 1
　第１節　調査の経過 …… 1
　第２節　発掘作業の経過 …… 1
　第３節　整理作業の経過 …… 2
　第４節　調査体制 …… 2
第２章　調査の成果 …… 3
　第１節　調査と報告の方法 …… 3
　第２節　遺跡の概要 …… 4
　第３節　基本層序 …… 4
　第４節　遺　構 …… 4
　　(1)縄文・弥生時代の遺構　(2)古代の遺構　(3)中世の遺構　(4)近世の遺構
　第５節　遺　物 …… 16
　　(1)縄文・弥生時代の遺物　(2)古代の遺物　(3)中世の遺物　(4)近世の遺物
第３章　総　括 …… 18
遺物観察表 …… 20
図面図版　遺構・遺物実測図 …… 25

挿図目次

第１図　年次別調査区位置図 …… 1
第２図　調査区図・グリッド図(1/1,500) …… 25
第３図　縄文時代遺構全体図(1/1,200) …… 26
第４図　古代遺構全体図(1/1,200) …… 27
第５図　遺構実測図AW(15)1949・51・1534、
　AW(12)①・②・③・④・⑤(1/40、1/80) …… 28
第６図　遺構実測図AW(12)⑥AW(15)①・③(1/80) …… 29
第７図　遺構実測図AW(15)②・④(1/80) …… 30
第８図　遺構実測図AW(15)⑤・⑥(1/80) …… 31
第９図　遺構実測図AW(15)⑦・⑧(1/80) …… 32
第10図　遺構実測図AW(15)⑨・⑩(1/80) …… 33
第11図　遺構実測図AW(15)⑪・⑫、AW(12)①
　(1/80、1/40) …… 34
第12図　遺構実測図AW(15)①(1/40・1/80) …… 35
第13図　遺構実測図AW(15)②(1/40・1/60) …… 36
第14図　遺構実測図AW(15)③(1/60) …… 37
第15図　遺構実測図AW(15)④(1/60) …… 38
第16図　遺構実測図AW(15)⑤(1)(1/60) …… 39
第17図　遺構実測図AW(15)⑥(2)(1/60) …… 40
第18図　遺構実測図AW(15)786・843・1398・1467・1536
　(1/40) …… 41
第19図　遺構実測図AW(15)A(1/80) …… 42
第20図　遺構実測図AW(15)B・C(1/80) …… 43
第21図　遺構実測図AW(15)D・218(1/80、1/40) …… 44
第22図　遺構実測図AW(15)E・F(1/80) …… 45
第23図　中世遺構全体図(1/1,200) …… 46
第24図　近世遺構全体図(1/1,200) …… 47
第25図　遺構実測図AW(15)2009・2012・2014
　(1/40・1/60) …… 48
第26図　遺構実測図AW(15)2040・2052・2053・2058
　(1/40) …… 49
第27図　遺構実測図AW(15)2065・2114 (1/40) …… 50
第28図　遺構実測図AW(15)2149 (1/50) …… 51
第29図　遺構実測図AW(15)2142・2173・2173－b・2192
　(1/60、1/40) …… 52
第30図　遺構実測図AW(15)2202・2201・2203・2214
　(1/80) …… 53
第31図　遺構実測図AW(15)2329(1/40) …… 54
第32図　遺構実測図AW(15)2005・2035・2043・2050・
　2059 (1/40) …… 55
第33図　遺構実測図AW(15)2160・2163・2169・2303・
　2371(1/40) …… 56
第34図　遺構実測図AW(15)2377・2409・2049・2068・
　2069・2207・2334・2346(1/40) …… 57

第35図　遺構実測図AW(15)2032・2034・2047・2062・2063 (1/40) ……58
第36図　遺構実測図AW(15)2071・2051・2216 (1/40)…59
第37図　遺構実測図AW(15)2174・2182・2183・2185・2194・2195(1) (1/80)……60
第38図　遺構実測図AW(15)2174・2182・2183・2185・2191・2195(2) (1/40)……61
第39図　遺構実測図AW(15)2414・2420 (1/60)……62
第40図　遺構実測図AW(15)2042・2102－a・2102－b・2102－c・2102－d・2102－e(1/60)……63
第41図　遺構実測図AW(15)2421・2437 (1/40)……64
第42図　遺構実測図AW(15)2435・2436・2151・2154 (1/40) ……65
第43図　遺構実測図AW(15)2422・2429・2431・2432・2433(1/40) ……66
第44図　遺構実測図AW(15)2001・2394(1/80) ……67
第45図　遺構実測図AW(15)2070・2147(1/120) ……68
第46図　遺物実測図(1)(2/3、1/3) ……69
第47図　遺物実測図(2)(1/3)……70
第48図　遺物実測図(3)(1/3)……71
第49図　遺物実測図(4)(1/3)……72
第50図　遺物実測図(5)(1/3)……73
第51図　遺物実測図(6)(1/3)……74
第52図　遺物実測図(7)(1/3)……75
第53図　遺物実測図(8)(1/3)……76
第54図　遺物実測図(9)(1/3)……77
第55図　遺物実測図(10)(1/3) ……78
第56図　遺物実測図(11)(1/3) ……79
第57図　遺物実測図(12)(1/3) ……80
第58図　遺物実測図(13)(1/3) ……81
第59図　遺物実測図(14)(1/3、1/6)……82
第60図　遺物実測図(15)(1/3) ……83
第61図　遺物実測図(16)(1/3) ……84
第62図　遺物実測図(17)(1/3) ……85
第63図　遺物実測図(18)(1/3) ……86
第64図　遺物実測図(19)(1/3) ……87
第65図　遺物実測図(20)(1/3) ……88
第66図　遺物実測図(21)(1/3、1/6)……89
第67図　遺物実測図(22)(1/3、1/6) ……90
第68図　遺物実測図(23)(1/3、1/6)……91
第69図　遺物実測図(24)(1/3) ……92
第70図　遺物実測図(25)(1/3) ……93
第71図　遺物実測図(26)(1/3) ……94
第72図　遺物実測図(27)(1/3) ……95
第73図　遺物実測図(28)(1/3) ……96

第１章　調査の経過

第１節　調査の経過

本書に収録する栗田遺跡第12・15次調査は野々市町中南部土地区画整理事業に伴うものである。この事業にかかる埋蔵文化財分布調査、発見された埋蔵文化財包蔵地に対する取扱い、法令手続きについては「野々市町中南部土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書１　栗田遺跡（第10次調査）・三納アラミヤ遺跡（第１・２次調査）・三納トヘイダゴシ遺跡（第１・３次調査）」を参照されたい。

栗田遺跡第12次調査は平成12年に680㎡を対象として行われた。野々市町と野々市町中南部土地区画整理組合は平成12年６月７日付けで埋蔵文化財発掘調査の委託契約を取り交わしている。発掘調査承諾書は平成12年６月７日付で野々市町中南部土地区画整理組合理事長から野々市町教育委員会教育長あてに出され、これを受け、埋蔵文化財保護法第58条の２第１項に基づき、平成12年６月７日付け教文第49号により野々市町教育委員会教育長から石川県教育委員会に報告した。現地調査は平成12年６月30日～同年８月２日にかけて実施、古代の集落遺跡であることが確認された。

栗田遺跡15次調査は平成17年度に3,339㎡を対象として行われた。平成17年５月２日に発掘調査の依頼が提出され、同日、町と組合との間で埋蔵文化財発掘調査委託契約が締結された。発掘調査承諾書は５月２日付けで野々市町中南部土地区画整理組合理事長から提出された。埋蔵文化財保護法第99条の第１項に基づく埋蔵文化財発掘調査報告は、平成17年５月２日付け教文第49号で野々市町教育委員会教育長から石川県教育委員会に報告した。現地調査は平成17年５月16日～同年12月６日にかけて行われ、古代・中世・近世の集落跡が確認されている。

第２節　発掘作業の経過

栗田遺跡（第12次調査・平成12年度）

６月30日　表土除去開始
７月６日　作業員による調査開始
７月27日　航測
８月２日　調査終了

栗田遺跡（第15次調査・平成17年度）

５月16日　表土除去開始（A区～D区）
５月25日　作業員による調査開始、遺構検出
６月８日　遺構掘削
７月14日　表土掘削（E・F区）
７月25日　野々市中学校職場体験（27日まで）
９月８日　航測（A～F区）
９月13日　A～F区調査終了
10月５日　表土除去（G・H区）
10月11日　作業員による調査開始、遺構検出
10月21日　遺構掘削
11月16日　AW(15)2214より青磁碗・青花碗が重なって出土
11月26日　遺構掘削終了
12月１日　航測

第１図　年次別調査区位置図

12月６日　調査終了

第３節　整理作業・報告書作成

整理作業は、平成12・17・18・19年度にわたって行った。
平成12年度は栗田遺跡（第12次）出土遺物の洗浄・記名・実測を行った。
平成17年度は栗田遺跡（第15次）出土遺物の洗浄を行った。
平成18年度は栗田遺跡（第15次）出土遺物の洗浄・記名・実測を行った。
平成19年度は発掘調査報告書作成のための図版作成・本文執筆・遺物写真撮影を行った。

第４節　調査体制

栗田遺跡（第12次）
　調査主体　野々市町教育委員会（教育長　田村昌俊）
　担当課　　野々市町教育委員会　文化課（課長　高本　実）
　調査期間　平成12年６月30日～平成12年８月２日
　対象面積　680㎡
　調査担当　布尾和史（野々市町教育委員会文化課　主事　県教育委員会文化財課より派遣）
　　永野勝章（野々市町教育委員会文化課　主事）
栗田遺跡（第15次）
　調査主体　野々市町教育委員会（教育長　田中　宮）
　担当課　　野々市町教育委員会　文化課（課長　中川保夫）
　調査期間　平成17年５月16日～同年12月６日
　対象面積　3,339㎡
　調査担当　永野勝章
整理・報告書作成作業（平成12・17・18・19年度）
　担　　当　布尾和史（平成15年３月31日まで）
　　永野勝章
　　大杉幸江・竹田倫子・野村祥子・長谷川啓子・増山明美
　　（野々市町教育委員会　臨時職員）
　　布尾幸恵
　　（平成16年４月１日から平成18年３月31日まで　野々市町教育委員会　臨時職員）

第２章　　調査の成果

第１節　調査と報告の方法

栗田遺跡は昭和63年に実施した分布調査によって発見された遺跡である。その後数次にわたって周辺の開発事業に伴う調査が行われた。平成10年、野々市町中南部土地区画整理事業が実施されることになり、これに先立って10月22日～11月６日にかけて分布調査を行った。

分布調査は事業区域内に平面１×１ｍの試掘坑を225箇所設定し、地山面が確認される深度まで掘削、平面および土層断面の観察を行った。その結果栗田遺跡に隣接する農地一帯から遺構や古代～近世遺物が検出されたため、この部分を栗田遺跡の一部と判断した。

区画整理事業に伴う発掘調査は平成11年度から平成17年度までに第10～15次の６次にわたって実施された。本書では都市計画道路及び街路部分を対象として実施したうちの第12・15次調査について報告を行う。

発掘調査では、栗田遺跡第15次調査については公共座標に基づく10×10ｍのグリッドを設定し、北西隅の杭番号でその区画を呼称した。遺構の掘削は、基本的に遺構を半裁して断面の観察を行って土色や堆積状況を観察し、必要に応じて写真や図面による記録保存を行った。

報告にあたっては、調査区が各年次や、築造道路の線形などによっていくつかに分かれることから第２図のように便宜上A～Ⅰ区と呼称しグリッド番号と併せて記載した。個々の遺構の名称は各遺構番号の前に栗田遺跡を示すAWと(12)、(15)といった調査年次を組み合わせ、それぞれ栗田遺跡(第12次)：AW(12)、(第15次)：AW(15)とする。個々の遺構の名称は時代・種類・グリッドに関係なく調査年次ごとに１から通しで調査番号を付けている。

遺構の説明は本文・図面図版・写真図版を用いる。遺構の種類にはピット・建物跡・溝・土坑・旧河川・流路などがあり、これらについて位置・分類・規模・形状・遺土の堆積状況・出土遺物・重複とその前後関係などを記述した。

遺物の総数は、パンケースで、第12次調査３箱、第15次調査23箱である。この中から遺構出土のものを中心に、残りの良いものや出土例の少ないものを選択して図化した。

遺物図版作成にあたっては個々の遺物を時代・器種・種別(または法量)毎にレイアウトしており、遺構出土の遺物については各遺構図版にも１／６(大型のものは１／12)で添付した。遺物図版の縮尺は原則１／３とし、石製品など大型のものは１／６で掲載した。

遺物の記述は、本文・観察表・図面図版・写真図版でおこなった。遺物の報告番号は遺跡単位に１から付与し、本文・観察表・図面図版・写真図版で共通する。

観察表は遺物の種類によって観察項目は異なるが、煩雑を避けるため表は統一の形式を取り、そのつど、外面色調：外、内面色調：内、釉色もしくは釉の種類：釉、と付して区別した。

縄文土器の型式名は『野々市町史　資料編』〔吉田2003〕で使用しているものを用いた。

古代における土器の器種名は、須恵器・土師器とともに、基本的には北陸古代土器研究会で使用するものに準じている。なお、煮炊具に関しては従来使用されてきた「甕」は使用せず、煮炊き機能のイメージから「釜」を使用し、小型を小釜、大型の長胴を釜とした〔小松市教委2002〕。土器編年・年代観は田嶋明人氏の1988年と1997年発表の文献をもとにしている〔田嶋1988、1997〕。

中世の土器・陶磁器は、名称・時期ともに土師器が藤田邦雄〔藤田1997〕、珠洲焼が吉岡康暢〔吉岡1994〕、瀬戸美濃が藤澤良祐〔藤澤1991〕、輸入青磁は上田秀夫〔上田1982〕、青花は小野正敏〔小野1982〕に準じた。

近世陶磁器は大半が肥前陶磁器で、〔九州近世陶磁学会2000、2001〕に準じている。

参考文献
石川考古学研究会・北陸古代土器研究会　1988　「シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題」
上田秀夫　1982　「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』2　日本貿易陶磁研究会
小野正敏　1982　「15～16世紀の染付碗、皿の分類と年代」『貿易陶磁研究』2　日本貿易陶磁研究会
九州近世陶磁学会　2000　『九州陶磁の編年』
小松市教育委員会　2002　「二ツ梨一貫山窯跡」
田嶋明人　1988　「古代土器編年軸の設定」『シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題（報告編）』石考研・北陸古代土器研究会
野々市町史編纂専門委員会　2003　『野々市町史　資料編1』　野々市町
藤澤良祐　1991　「瀬戸古窯址群Ⅱ－古瀬戸後期様式の編年」『瀬戸市歴史民俗資料館　研究紀要X、瀬戸市歴史民俗資料館
藤田邦雄　1997　「第2節　中世加賀国の土師器様相」中・近世の北陸』北陸中世土器研究会　柱書房
吉岡康暢　1994　『中世須恵器の研究』吉川弘文館

第2節　遺跡の概要

栗田遺跡第12・15次調査区は古代・中世・近世を主体とし、他に縄文・弥生時代の遺物を僅かながら出土している。古代の遺構・遺物は第12次調査区の全域及び第15次調査区の西側から出土している。一方中・近世の遺構・遺物は第15次調査区の東側に偏っている。以下時代ごとにその概要を述べる。

縄文・弥生時代はピットや土坑が検出された。遺構・遺物ともに少なく打製石斧の出土がやや目立つ。

古代は掘立柱建物・竪穴建物・土坑・ピット・溝などが検出された。建物は2・3棟ずつ点在して検出されている。主体となる時期は川崎編年Ⅱ3～Ⅴ1期である。遺物は須恵器・土師器を主体とし紡錘車などの鉄製品も出土している。

中世は竪穴状遺構・土坑・ピットなどが検出された。中世の遺構は当遺跡の南東に集中している。出土遺物から主体となる時期は15～16世紀であるが、13～14世紀の遺物も若干出土している。遺物は土師器皿・珠洲・加賀・越前・瀬戸・中国製陶磁や行火・五輪塔・砥石など石製品が出土している。

近世は土坑・ピット・溝が検出された。近世の遺構は中世遺構と同様に遺跡の南東に集中している。主体となる時期は17～18世紀である。遺物は肥前陶磁が主体を占めており、他に越中瀬戸が若干出土している。

第3節　基本層序

栗田遺跡(第12次)調査区では現状より盛土・旧耕土・旧床土・黒褐色土・淡褐色土・暗褐色土の順に堆積している(第11図)。栗田遺跡(第15次)西側調査区も、栗田遺跡第(12)次調査区とほぼ同じ土層で、現状から床土・旧耕土・褐灰色土・暗褐色土・黒褐色土の順で堆積している(第14図)。これらの調査区から検出された遺構・遺物のほとんどが古代のものであり暗褐色土～黒褐色土の包含層の時期は古代であると考えられる。一方栗田遺跡(第15次)東側調査区では様相が一変し、土層の体積状況は床土・灰色土・暗褐灰色土(礫を含む)となる(第29図)。この調査区の遺構・遺物は中近世を主体としており、灰色土・暗褐灰色土(礫を含む)の包含層は当該期のものと考えられる。

第4節　遺　構

(1)縄文・弥生時代の遺構(第3図)

a)土坑

AW(15)1949(第5図)

F区ZV2・ZV3グリッドに位置し、平面形は歪な楕円形を呈する。径240×120cm、深さは最深部で49cmを測る。覆土は明褐色土である。出土遺物は縄文土器(1～4)である。

b)ピット

AW(15)51(第5図)

A区ZX14グリッドに位置する。平面形は略円形で、径50×40cm、深さは20cmを測る。覆土は明褐色土である。出土遺物は打製石斧(15)である。

AW(15)1534(第5図)

D区ZZ7グリッドに位置する。平面形は略円形で、径60×50cm、深さは26cmである。覆土は黒褐灰色土である。出土遺物は弥生土器(5)である。

(2)古代の遺構(第4図)

a)掘立柱建物

栗田遺跡(第12・15次)調査では対象地西側に当たるA・B・C・D・E区から掘立柱建物18棟を検出している。調査区の制約から規模を明らかにできないものが多く、中には棚列となるものもあると思われる。

1号掘立柱建物AW(12)①(第5図)

I区ほぼ中央に位置する。桁行4間を確認しているが全体の規模は分からない。軸はN－10°－Wである。検出した長さは8.0m、柱間距離はそれぞれ2.0mを測る。柱穴は長方形から楕円形で、径130～140×70～80cm、深さは24～50cm、覆土は淡褐色粘質土・暗褐色粘質土を主とする。図示してはいないがAW(12)34からは土師器片が、AW(12)36からは須恵器片・土師器片がAW(37)からは鉄滓が出土している。

2号掘立柱建物AW(12)②(第5図)

I区1号掘立柱建物AW(12)①のすぐ南側に位置する2間の柱列である。全体の規模は不明である。軸はN－10°－Wである。検出した長さは4.3m、柱間距離は2.0・2.3mを測る。柱穴は円形・楕円形で、径80～120×60～80cm、深さは38～52cmである。遺物の出土はなかった。

3号掘立柱建物AW(12)③(第5図)

I区2号掘立柱建物AW(12)②の南側に位置する2間の柱列である。全体の規模は分からない。軸はN－10°－Wである。検出した長さは4.6m、柱間距離は2.2・2.4mを測る。柱穴は歪な円形で、径65～90×60～100cm、深さは22～50cmを測る。遺物の出土はなかった。

4号掘立柱建物AW(12)④(第5図)

I区南側に位置する4間の柱列である。全体の規模は不明である。軸はN－3°－Eである。検出した長さは8.7m、柱間距離は2.0・2.3・2.0・2.5mを測る。柱穴は歪な円形で、径58～66×40～66cm、深さは22～42cmを測る。遺物の出土はなかった。

5号掘立柱建物AW(12)⑤(第5図)

I区南側に位置する3間の柱列である。建物の大半が調査区外に在在すると見られ、全体の規模は不明である。軸はN－3°－Eである。検出した長さは7.4m、柱間距離は2.5・2.4・2.4mを測る。柱穴は歪な円形で、径40～98×78～94cm、深さは25～42cmである。遺物の出土はなかった。

6号掘立柱建物AW(12)⑥(第6図)

I区南側に位置する6間の柱列である。掘立柱建物として報告しているが棚列となる可能性もある。軸はN－1°－Eである。検出した長さは7.8m、柱間距離は1.5・1.5・1.0・1.7・1.1・1.0mとばらつきがある。柱穴は円形ないし楕円形で、径46～80×36～68cm、深さは22～38cm、覆土は淡褐色粘質土・暗褐

色粘質土を主とする。遺物の出土はなかった。

7号掘立柱建物AW(15)①(第6図)

A区ZX14グリッドに位置する側柱建物である。桁行3間、梁行は2間であるが北に伸びる可能性がある。軸はN－1°－Eである。桁行5.4m以上、梁行4.8mで、柱間距離は桁行1.7～2.0m、梁行2.4mを測る。柱穴は円形ないし楕円形で、径50～78×50～65cm、深さは28～48cm、覆土は暗褐色粘質土・黒褐色粘質土を主とする。2号竪穴建物AW(15)①からの建替えと思われる。遺物の出土はなかった。

8号掘立柱建物AW(15)②(第7図)

A区ZY14グリッドに位置する側柱建物である。桁行3間、梁行2間を検出しており、更に南に伸びているため全体の規模は分からない。軸はN－1°－Eである。桁行は6.3m以上、梁行は4.8m、柱間距離は桁行2.0～2.2m、梁行2.5・2.3mを測る。柱穴は円形ないし楕円形で、径46～68×44～60cm、深さは25～44cm、覆土は暗褐色粘質土・黒褐色粘質土を主とする。3号竪穴建物AW(15)②からの建替えと思われる。遺物の出土はなかった。

9号掘立柱建物AW(15)③(第6図)

B区ZZ12・A12グリッドに位置する桁行2間、梁行1間の側柱建物である。軸はN－1°－Eである。桁行は3.6m、梁行は1.8m、柱間距離は桁行・梁行とも1.8mである。柱穴は円形ないし楕円形で、径40～60×36～52cm、深さは26～56cm、覆土は暗褐色粘質土・黒褐色粘質土を主とする。遺物の出土はなかった。

10号掘立柱建物AW(15)④(第7図)

C区ZX10・ZX11グリッドに位置する側柱建物である。桁行3間、梁行2間を検出しており、更に南に伸びているため全体の規模は分からない。軸はN－1°－Wである。桁行は6.2m以上、梁行は4.4m、柱間距離は桁行2.0～2.1m、梁行2.2mを測る。柱穴は円形ないし楕円形で、径46～68×44～60cm、深さは37～53cm、覆土は暗褐色粘質土・黒褐色粘質土を主とする。遺物の出土はなかった。

11号掘立柱建物AW(15)⑤(第8図)

C区ZY10・ZY11グリッドに位置する側柱建物である。桁行2間を検出しており、更に南に伸びている。梁行は1間か。軸はN－6°－Wである。桁行は4.2m以上、梁行は5.0m、柱間距離は桁行2.1m、梁間2.5mを測る。柱穴は円形ないし楕円形で、径46～66×42～60cm、深さは38～72cm、覆土は暗褐色粘質土・黒褐色粘質土を主とする。遺物の出土はなかった。

12号掘立柱建物AW(15)⑥(第8図)

C区ZY10・ZY11グリッドに位置する側柱建物である。桁行4間、梁行3間を検出しており、更に北に伸びているため全体の規模は分からない。軸はN－3°－Wである。桁行は7.4m以上、梁行は5.4m、柱間距離は桁行1.8～2.0m、梁行1.8mを測る。柱穴は円形ないし楕円形で、径46～96×44～62cm、深さは30～48cm、覆土は暗褐色粘質土・黒褐色粘質土を主とする。遺物の出土はなかった。

13号掘立柱建物AW(15)⑦(第9図)

C区ZY10・ZY11・ZZ10・ZZ11グリッドに位置する側柱建物である。桁行2間、梁行1間を検出しており、更に北に伸びているため全体の規模は分からない。軸はN－8°－Wである。桁行は4.6m以上、梁行は5.6m、柱間距離は桁行1.8～2.0m、梁行2.8mを測る。柱穴は円形ないし楕円形で、径66～98×60～88cm、深さは37～53cm、覆土は暗褐色粘質土・黒褐色粘質土を主とする。遺物の出土はなかった。

14号掘立柱建物AW(15)⑧(第9図)

C区ZZ10・ZZ11・A10・A11グリッドに位置する側柱建物である。一部が調査区外であるが桁行4間、梁行2間になると思われる。軸はN－4°－Wである。桁行は8.4m、梁行は5.2m、柱間距離は桁行2.0～2.3m、梁行2.6mを測る。柱穴は円形ないし楕円形で、径52～64×46～54cm、深さは25～68cm、覆土は暗褐色粘質土・黒褐色粘質土を主とする。遺物の出土はなかった。5号竪穴建物AW(15)④と重複するが、

切り合いからAW(15) 8 の方が新しい。

15号掘立柱建物AW(15)⑨(第10図)

B区ZZ10・ZZ11・A10・A11グリッドに位置する側柱建物である。一部が調査区外であるが桁行４間、梁行２間になると思われる。軸はN－５°－Eである。桁行は8.0m、梁行は5.0m、柱間距離は桁行1.8～2.3m、梁行2.4・2.6mを測る。柱穴は円形ないし楕円形で、径40～86×32～64cm、深さは23～48cm、覆土は暗褐色粘質土・黒褐色粘質土を主とする。遺物の出土はなかった。５号竪穴建物AW(15)④を覆うように所在しており、建替えと考えられる。

16号掘立柱建物AW(15)⑩(第10図)

D区ZZ６・ZZ７・A７グリッドに位置する側柱建物である。桁行３間を検出しており、南北にそれぞれ伸びる可能性がある。梁行は柱穴が検出されていないため不明だが２間ないし３間と思われる。軸はN－９°－Wである。桁行は7.6m以上、梁行は6.7m、柱間距離は桁行2.4～2.7mを測る。柱穴は円形・楕円形・長方形があり、径74～122×68～96cm、深さは30～64cm、覆土は暗褐色粘質土・黒褐色粘質土・明褐色粘質土を主とする。AW(15)746より須恵器無台杯(27)・有台杯(46)・有台椀(76)が、また図示してはいないがAW(15)789より須恵器甕体部片が出土している。

17号掘立柱建物AW(15)⑪(第11図)

D区ZX６・ZX７・ZY６・ZY７グリッドに位置する側柱建物である。桁行３間梁行２間を検出しており、南に伸びている。軸はN－11°－Wである。桁行は6.0m以上、梁行は4.5m、柱間距離は桁行2.0m、梁行2.0・2.5mを測る。柱穴は円形・楕円形・長方形があり、径72～102×58～74cm、深さは16～52cm、覆土は暗褐色粘質土・黒褐色粘質土を主とする。遺物の出土はなかった。

18号掘立柱建物AW(15)⑫(第11図)

D区ZV７・ZW７グリッドに位置する。梁行２間のみの検出であり、建物の大半は南側の調査区外に伸びている。軸はN－10°－Wである。梁行は5.0m、柱間距離は2.5mを測る。柱穴は円形・楕円形で、径42～100×40～98cm、深さは27～69cm、覆土は明褐色粘質土・黒褐色粘質土を主とする。遺物の出土はなかった。

b)竪穴建物

１号竪穴建物AW(12)①(第11図)

I区南側に位置する。一部のみの検出で、大半が東側の調査区外に延びている。確認できた規模は3.5×0.4m、深度は約20cmで壁の立ち上がりは明瞭である。軸はN－３°－Eである。覆土は暗褐色粘質土を主とする。北西隅に北に伸びる溝があるが、焼土や炭化物は確認されずカマドや煙道に当たるかは不明である。土師器釜(135)が出土している。

２号竪穴建物AW(15)①(第12図)

A区ZX13・ZX14グリッドに位置する。平面形は長方形で、長軸4.2m、短軸3.2m、面積は13㎡である。深度は約20cmで壁の立ち上がりは明瞭である。軸はN－４°－Eである。覆土は暗褐色粘質土を主とする。中央部分には暗褐色粘質土と地山の混じった貼床が確認された。北東隅に焼土が広がっており、この部分がカマドになると思われる。須恵器無台杯(28・33)・杯(34・41)・有台杯(60)・土師器小甕(113・121)・釜(136・157)が出土した。

３号竪穴建物AW(15)②(第13図)

A区ZY14グリッドに位置する。長軸3.1m、短軸2.6m、面積は7.4㎡である。深度は約15cmで壁の立ち上がりはゆるやかである。軸はN－１°－Eである。覆土は暗褐色粘質土・黒褐色粘質土を主とする。カマドは北西隅に設けられており、規模は長さ72cm、幅84cmを検出した。カマドのある北西隅は他の三隅とは違い建物の内側に入り込んでいるため、全体の平面形は歪な方形を呈している。カマド付近から中央部分にかけて部分的に明褐色粘質土と地山の混じった貼床が確認された。須恵器無台杯(25)・杯(37)・

杯蓋(86)・土師器釜(129・132・137・141・143)が出土した。

4号竪穴建物AW(15)③(第14図)

C区ZZ11・A11グリッドに位置する。平面形は長方形で、長軸5.4m、短軸4.4m、面積は23.8㎡である。深度は約20cmで壁の立ち上がりは明瞭である。軸はN－5°－Eである。覆土は暗褐色粘質土・黒褐色粘質土を主とする。カマドは南東隅に設けられており、規模はおおむね長さ140cm、幅160cmとなる。貼床は中央から南側を中心に確認している。須恵器無台杯(29)・有台杯(56)・杯蓋(88・89)・土師器無台杯(105)・小釜(108・109)・釜(130・134)が出土した。

5号竪穴建物AW(15)④(第15図)

B区A10グリッドに位置する。平面形は長方形で、長軸5.0m、短軸3.6m、面積は18㎡である。深度は約25cmで壁の立ち上がりは明瞭である。軸はN－6°－Eである。覆土は暗灰褐色粘質土・明灰褐色粘質土・褐灰色粘質土を主とする。カマドは南東隅に設けられており、規模はおおむね長さ120cm、幅120cmとなる。貼床は中央から南側を中心に確認している。打製石斧(10)・須恵器杯(42)・有台杯(57)・杯蓋(87)・土師器小釜(111・126)・釜(145)が出土した。

6号竪穴建物AW(15)⑤(第16・17図)

C区ZX10・ZX11グリッドに位置する。平面形は長方形で、長軸4.9m、短軸4.4m、面積は21㎡である。深度は約30cmで壁の立ち上がりは明瞭である。軸はN－7°－Eである。覆土は暗灰色粘質土・黒褐色粘質土を主とする。カマドは南壁中央の楕東寄りに設けられており、南に煙道が伸びている。規模はおおむね長さ70cm、幅120cmとなる。貼床はほぼ全面に広がっている。須恵器杯蓋(90・93)・瓶類(99)・土師器椀(103・104)・鉢(106)・小釜(112・114・122)・釜(139・140・142・146)・甑(147)・鍋(149)・カマド構築材(152・154)・砥石(155・156)が出土した。

c)土坑

AW(15)786(第18図)

D区A6・A7グリッドに位置する。北側は調査区外に伸びている。平面形は楕円形を呈するものと思われる。検出した規模は1.9×1.2m、深度は20cmである。覆土は黒褐色粘質土である。遺構の表面を中心に須恵器有台杯(67)・盤(73)・杯蓋(81)・土師器小釜(110・118)・紡錘車(158)が出土している。

AW(15)843(第18図)

C区ZW10グリッドに位置する。平面形は楕円形である。規模は3.2×1.8m、深度は55cmである。覆土は明褐色粘質土で礫を含む。出土遺物はない。

AW(15)1398(第18図)

D区ZX7グリッドに位置する。南側は調査区外に伸びているため、全体の規模・平面形は不明である。検出した規模は2.0×1.4m、深度は5cmと浅い。覆土は黒褐色粘質土である。須恵器有台杯(50)が出土している。

AW(15)1467(第18図)

D区ZY6グリッドに位置する。北側は調査区外に伸びている。平面形は楕円形を呈するものと思われる。検出した規模は0.9×0.6m、深度は16cmである。覆土は黒褐色粘質土である。出土遺物はない。

AW(15)1536(第18図)

D区ZZ7グリッドに位置する。平面形は不整形である。規模は1.3×0.8m、深度は20～32cmである。覆土は黒褐色粘質土である。ピットAW(15)1534・AW(15)1535と重なるが、切り合いからAW(15)1534より古く、AW(15)1535より新しい。出土遺物はない。

d溝・平行溝群

AW(15)218(第21図)

B区A12～14グリッドに位置する。南北方向からほぼ直角に東に向きを変える。東側は調査区外となる

が、続きの部分が平成11年度に実施した栗田遺跡第11次調査区で確認されている。長さ16m以上、幅は50～64cm、深さは8～28cmである。土色は黒褐色粘質土を主体とする。出土遺物は須恵器の小片が数点出土したのみであり、図示するに堪えるものはない。

平行溝群A(第19図)

A・B区ZY14・ZZ13・ZZ14グリットに位置する。溝の長さは1.6～3.6m、幅は18～32cm、深さは3～10cmを測る。最大長は3.7m、最大幅は40cmである。覆土は黒褐色粘質土に黄色土粒を含むものが多い。方位はN－1～7°－Wである。土色や周辺の遺構の状況から古代のものと判断した。

平行溝群B(第20図)

C区ZY10・ZY11グリットに位置する。調査区の制約から全容は不明である。検出した溝の長さは1.5～3.0m、幅は18～28cm、深さは10～20cmを測る。覆土は黒褐色粘質土に黄色土粒を含むものを主体とする。方位はN－7°－Eである。東隣に平行溝群Cが所在するが、平行溝群Bとは方位が僅異なり別の群であろうか。また11号掘立柱建物AW(15)⑤とは重複するが、平面の切り合いから平行溝群のほうが先行する。土色や周辺の遺構の状況から古代のものと判断した。

平行溝群C(第20図)

B・C区ZY10・ZY11・ZZ10・ZZ11・A10・A11グリットに位置し、平行溝群Bとは隣接する。調査区の制約から全容は不明である。検出した溝の長さは0.8～6.6m、幅は20～36cm、深さは3～15cmを測る。覆土は黒褐色粘質土を主体とする。方位はN－8°－Wである。この辺りは13号掘立柱建物AW(15)⑦や5号竪穴建物AW(15)④などの掘立柱建物や竪穴建物の集中する地区であるが、切り合いから平行溝群はこれら建物群に先行するようである。土色や周辺の遺構の状況から古代のものと判断した。

平行溝群D(第21図)

A・B区ZZ6・ZZ7・A6・A7グリットに位置する。調査区の制約から全容は不明である。検出した溝の長さは1.4～6.4m、幅は16～24cm、深さは5～10cmを測る。覆土は黒褐色粘質土を主体とする。方位はN－3～6°－Wである。また16号掘立柱建物AW(15)⑩とは重複するが、切り合いがなく前後関係は分からない。土色や周辺の遺構の状況から古代のものと判断した。

平行溝群E(第22図)

C区ZV10・ZV11・ZW10グリットに位置する。調査区の制約から全容は不明である。検出した溝の長さは1.3～6.2m、幅は18～34cm、深さは5～15cmを測る。覆土は暗褐色粘質土を主体とする。方位はN－14°－Eである。土色や周辺の遺構の状況から古代のものと判断した。

平行溝群F(第22図)

C区ZV6・ZW5・ZW6・ZW7グリットに位置する。平均長2.4m、平均幅22cm、深さは3～10cmを測る。最大長は4.3m、最大幅は29cmである。覆土は黒褐色粘質土を主体とする。方位はN－20°－Eである。土色や周辺の遺構の状況から古代のものと判断した。

(3)中世の遺構(第23図)

a)竪穴建物状遺構

AW(15)2009(第25図)

G区I14・J14グリッドに位置する。AW(15)2006とは重複するが切り合いからAW(15)2009のほうが新しい。平面形は隅丸の長方形を呈する。径310×210cm、深さ30cmを測る。壁の立ち上がりは明瞭で、床面はほぼ平坦で、東側にはテラス状の段がありその中にピットがある。覆土は灰色粘質土である。輸入青磁碗(226)が出土した。

AW(15)2012(第25図)

G区J13・J14グリッドに位置する。AW(15)2014と重複しているため規模及び平面形は分からない。切

り合いからAW(15)2012のほうが古い。検出した規模は径560×200cm、深さは32cmを測る。壁の立ち上がりは明瞭で、南西にはテラス状の段がある。床面はほぼ平坦である。覆土は濃灰色粘土である。中世土師器皿(169)が出土した。

AW(15)2014(第25図)

G区J13・J14グリッドに位置する。東側が調査区外に伸びており、またAW(15)2012と重複しているため規模及び平面形は分からない。切り合いからAW(15)2012のほうが古い。検出した規模は径620×200cm、深さは25cmを測る。壁の立ち上がりは明瞭で、床面は平坦である。覆土は灰色粘土を主とする。中世土師器皿(180・189)が出土した。

AW(15)2040(第26図)

G区J12グリッドに位置する。平面形は長方形を呈する。径210×120cm、深さは35cmを測る。壁の立ち上がりは明瞭で、床面は平坦である。覆土は灰色粘質土である。中世土師器皿(191)が出土した。

AW(15)2052(第26図)

G区K12グリッドに位置する。AW(15)2053とは接している。平面形は隅丸方形を呈する。径290×250cm、深さは60cmを測る。壁の立ち上がりは明瞭で、床面は平坦である。東側にテラス状の段がある。覆土は灰褐色粘質土である。中世土師器皿(181)輸入青磁碗(225)輸入青磁盤(233)行火(366)が出土している。

AW(15)2053(第26図)

G区K12グリッドに位置する。AW(15)2052とは接している。平面形は隅丸の長方形を呈する。径210×140cm、深さは30cmを測る。壁の立ち上がりは明瞭で、床面は平坦である。北東にテラス状の段がある。覆土は暗灰色粘土である。中砥石(388)が出土した。

AW(15)2058(第26図)

G区J11グリッドに位置する。平面形は歪な長方形を呈する。径270×130cmで、確認面からの深さは6～10cmと浅い。壁の立ち上がりは緩く床面はほぼ平坦である。覆土は褐灰色粘質土である。行火(370)が出土した。

AW(15)2065(第27図)

G区J11グリッドに位置する。平面形は歪な隅丸方形を呈する。径310×300cmで、深さは20cmである。壁の立ち上がりは明瞭で、床面はほぼ平坦である。覆土は褐灰色粘質土である。中世土師器皿(190)が出土した。

AW(15)2114(第27図)

G区J10グリッドに位置する。平面形は不整形である。径380×220cmで、深さは20～90cmである。壁の立ち上がりは明瞭で、床面はほぼ平坦であるが、南側部分が一際深くなっている。覆土は暗褐灰色粘質土である。南側部分の上層～下層にかけて越前壺(214)が出土した。

AW(15)2142(第29図)

G区K10グリッドに位置する。東側が調査区外に伸びているため全体の規模や平面形は不明である。検出した規模は径780×140cmで、深さは30cmである。壁の立ち上がりは明瞭で、床面はほぼ平坦である。覆土は暗褐色粘質土である。越前甕(209)・越前壺(211)・鉄滓(409)が出土している。

AW(15)2149(第28図)

G区J9・K9グリッドに位置する。今次調査では遺構の東側部分の調査であるが、平成16年の調査で西側部分を調査しており、平面形は隅丸方形、全体の規模は径560×560cmであることを確認している。以下今次調査分についてのみ記述する。今次調査分の規模は560×440cm、深さは40cmである。壁の立ち上がりは明瞭で、床面はほぼ平坦である。北壁には1～3段の石列があり、また北壁中央から遺構の中央にかけても1段の石列がある。覆土は褐灰色粘砂質土を主体とする。水晶(360)が出土している。

AW(15)2173(第29図)

G区J8・J9グリッドに位置する。AW(15)2173－bと重複するが切り合いからAW(15)2173のほうが古い。平面形は不整形で、径300×190cmで、深さは35cmである。壁の立ち上がりは明瞭で、床面はほぼ平坦である。南側部分は深くなっている。覆土は灰褐色粘質土である。越前甕体部片が出土しているが小片のため図示していない。

AW(15)2192(第29図)

G区K8グリッドに位置する。AW(15)2194とAW(15)2202にそれぞれ切られており全体の規模・平面形は不明である。検出した規模は径200×160cmで、深さは50cmである。壁の立ち上がりは明瞭で、床面はほぼ平坦である。覆土は暗褐色強粘質土である。珠洲片口鉢の小片が出土している。

AW(15)2202(第30・31図)

G区K7グリッドに位置する。AW(15)2192・AW(15)2201を切っており、AW(15)2203には切られている。西隣の2214とも重複するが前後関係は分からなかった。平面形は隅丸方形を呈する。径720×680cmで、深さは40cmである。壁の立ち上がりは明瞭で、床面はほぼ平坦である。覆土は灰色強粘質土を主体とする。珠洲甕(203)・瀬戸美濃陶器碗(217)・石臼(348・350)・宝篋印塔(362)・石製品(363)が出土している。

AW(15)2329(第31図)

H区I12・J12グリッドに位置する。平面形は不整形である。径300×280cm、深さは30～55cmを測る。壁の立ち上がりは明瞭である。内部は南北に分かれ南側が一段低い。また数箇所にピット状の落ち込みがある。覆土は褐灰色粘砂質土である。宝篋印塔(357)・中砥石(390)が出土した。

b)土坑

AW(15)2005(第32図)

G区I14グリッドに位置する。平面形は不整形で土坑とピットが複合したものと思われる。径190×100cm、深さは25cmを測る。覆土は暗褐灰色粘質土である。中世土師器皿(196)が出土した。

AW(15)2035(第32図)

G区J13グリッドに位置する。AW2102－aに切られている。平面形は歪な長方形ないし楕円形を呈するものと思われる。検出した規模は170×100cm、深さは25cmを測る。覆土は暗褐灰色粘質土に礫が混じる。石臼(352)が出土した。

AW(15)2043(第32図)

G区J12グリッドに位置する。平面形は隅丸方形である。径120×100cm、深さは30cmを測る。覆土は灰褐色粘質土である。中世土師器皿の小片が出土している。

AW(15)2050(第32図)

G区J12グリッドに位置する。平面形は歪な隅丸方形である。径100×70cm、深さは20cmを測る。覆土は暗灰色粘質土である。石火(367)が出土している。

AW(15)2059(第32図)

G区J11グリッドに位置する。平面形は楕円形である。径100×80cm、深さは30cmを測る。覆土は暗灰色粘質土である。中世土師器皿の小片が出土している。

AW(15)2160(第33図)

G区K9グリッドに位置する。平面形は隅丸の長方形である。径280×90cm、深さは35cmを測る。覆土は灰色粘土に大小礫が混じる。珠洲片口鉢(201)が出土している。

AW(15)2163(第33図)

G区K9グリッドに位置する。AW(15)2163と接しているが前後関係は分からなかった。平面形は歪な楕円形である。径220×110cm、深さは50cmを測る。覆土は灰褐色粘質土を主とする。出土遺物がなく遺構の時期は明らかではないが、遺構の覆土から中世のものとして記載した。

AW(15)2169(第33図)

G区K９グリッドに位置する。平面形は不整形である。径160×120cm、深さは15～30cmである。覆土は淡暗褐色強粘質土を主体とする。出土遺物がなく遺構の時期は明らかではないが、遺構の覆土から中世のものとして記載した。

AW(15)2214(第30図)

G区J７・K７グリッドに位置する。AW(15)2202と重複しているが前後関係は分からなかった。平成16年の調査で本遺構の西側部分を調査しており、径250×130cmの平面形が隅丸の長方形を呈する土坑であることを確認している。以下今次調査分についてのみ記述する。今次調査分は本遺構の東側240×50cmで、深さは34cmである。壁の立ち上がりは明瞭で、床面はやや凹凸があり、北側が若干深くなっている。覆土は灰色強粘質土である。輸入青磁碗(232)・輸入青花碗(238)が重なって出土している。いずれも完形品であり埋納されたものと思われる。

AW(15)2303(第33図)

H区J12グリッドに位置する。平面形は楕円形である。径150×70cm、深さは25cmを測る。覆土は褐灰色粘質土である。輸入青磁碗(223)が出土している。

AW(15)2371(第33図)

H区I11グリッドに位置する。北側が調査区外に伸びているため平面形や全体の規模は不明である。検出した規模は径220×100cm、深さは５cm前後と浅い。覆土は褐灰色粘質土である。珠洲片口鉢(199)が出土している。

AW(15)2377(第34図)

H区I11グリッドに位置する。平面形は楕円形である。径140×70cm、深さは50cmを測る。覆土は褐灰色粘質土である。行火(368)が出土している。

AW(15)2409(第34図)

H区I11グリッドに位置する。北側が調査区外に伸びているため平面形や全体の規模は不明である。検出した規模は径300×200cm、深さは10cm前後である。覆土は褐灰色粘質土である。越前甕(208)が出土している。

(4)近世の遺構(第24図)

a)土坑

AW(15)2032(第35図)

G区J13グリッドに位置する。平面形はほぼ円形を呈する。径160×140cm、深さは25cmを測る。覆土は灰色粘土である。肥前磁器が出土しているが小片のため図示はしていない。

AW(15)2034(第35図)

G区J13グリッドに位置する。AW(15)2031・AW(15)2102－C・AW(15)2031に接しているが前後関係は分からなかった。平面形は楕円形である。径240×160cm、深さは55cmを測る。覆土は濃灰色粘土に鉄分が混じる。底部より竹の籠を検出した。他の部位は遺存していなかったが桶が設置されていたものであろう。このような例はAW(15)2034より約１m東に位置するAW(15)2102－aや、栗田遺跡第10次発掘調査のAW(10)122にも見られ、肥溜めとして用いられたものと思われる。出土遺物は中世土師器(174)・輸入白磁杯(222)・肥前磁器碗(244)・肥前磁器鉢(270)・肥前陶器碗(276)・瓦質火鉢(341)・行火(372)・中砥石(386)などはあるが、遺構の時期は17世紀後半～18世紀前半と考えられる。

AW(15)2047(第35図)

G区J12・K12グリッドに位置する。平面形は不整形である。３つの土坑が重複したものであろうか。径は260×170cm、深さは20～52cmを測る。覆土は褐灰色強粘質土である。肥前陶磁器が出土しているが小片のため図示はしていない。

AW(15)2051(第36図)

G区J12グリッドに位置する。北側はAW(15)2216に切られている。平面形は歪な楕円形になるものと思われる。検出した径は290×220cm、深さは45cmを測る。覆土は褐灰色粘質土である。行火(374)や図示していないが肥前磁器片が出土している。

AW(15)2062(第35図)

G区J11グリッドに位置する。AW(15)2063を切っている。平面形は不整形である。径は180×150cm、深さは20cmを測る。覆土は褐灰色強粘質土である。肥前陶器皿(304)が出土している。

AW(15)2071(第36図)

G区K11グリッドに位置する。東側が調査区外に伸びているため平面形や全体の規模は不明である。検出した径は340×280cm、深さは30～45cmを測る。覆土は淡褐灰色粘質土である。肥前磁器瓶(272)が出土している。

AW(15)2173－b(第29図)

G区J８・J９グリッドに位置する。AW(15)2173を切っている。平面形は不整形で、径190×90cm、深さは36cmである。覆土は淡褐灰色粘質土である。肥前磁器皿(306)が出土している。

AW(15)2174(第37・38図)

G区J８・K８グリッドに位置する。AW(15)2182・AW(15)2195を切っている。径280×160cm、深さ40cmを測る。覆土は褐灰色粘質土で礫が混じる。中世土師器(175・186)・瀬戸美濃卸皿(220)・産地不明の近世磁器蓋(332)・石臼(349)のほか、小片ながら越前甕・肥前陶器鉢や炉石・石鉢など多様な遺物が出土している。遺構の時期は近世と判断した。

AW(15)2182(第37・38図)

G区K８・K９グリッドに位置する。AW(15)2173－b・AW(15)2174・AW(15)2183・AW(15)2185・AW(15)2195に接しており、切り合いからAW(13)2195より新しく、その他の遺構より古い。平面形は不整形で、複数の土坑が重複していると思われる。検出した径は660×550cm、深さは20～50cmを測る。覆土は淡灰色粘砂質土である。中世土師器(176・184・192)・珠洲壺(204)・輸入青磁碗(224)・輸入青花皿(236)・肥前陶器碗(274)・石鉢(355)・行火(377)等が出土した。肥前陶器等近世陶磁器が見られるため近世の遺構としたが、遺物の主体は中世であり遺構の時期も中世に遡る可能性がある。

AW(15)2183(第37・38図)

G区K８・K９グリッドに位置する。東側が調査区外に伸びているため平面形や全体の規模は不明である。AW(15)2182を切っている。検出した径は500×100cm、深さは50cmを測る。覆土は褐灰色粘質土で礫が混じる。肥前磁器碗(250)・肥前陶器碗(290)・越中瀬戸向付(326)・五輪等水輪(364)が出土している。

AW(15)2185(第37・38図)

G区K８グリッドに位置する。AW(15)2182・AW(15)2195を切っている。平面形はほぼ円形である。径190×170cm、深さは50cmを測る。覆土は暗褐色粘質土である。肥前磁器碗(245)・肥前陶器捕鉢(317)・産地不明の瓶類(334)が出土している。

AW(15)2194(第37・38図)

G区K８グリッドに位置する。AW(15)2195を切っている。平面形は不整形で土坑が２つ重複したものと思われる。径420×220cm、深さは50～60cmを測る。覆土は暗灰色粘質土を主体とする。肥前磁器碗(241)が出土した。

AW(15)2195(第37・38図)

G区K８グリッドに位置する。AW(15)2182・AW(15)2186・AW(15)を切っており、AW(15)2174・AW(15)2185・AW(15)2194に切られている。平面形は楕円形ないし隅丸の長方形を呈するものと思われる。検出した径は550×300cm、深さは20cmを測る。覆土は灰色強粘質土を主体とする。珠洲片口鉢(197)・

肥前磁器小杯(252)・皿(258・265)・肥前陶器皿(305)・鉢(314)・産地不明の捕鉢(335)・土師器皿(337)・土錘(345)・が出土した。

AW(15)2414(第39図)

H区H11・H12グリッドに位置する。本遺構は第14次調査区と第15次調査区にまたがって検出されており、全体の規模は径520×440cm、平面形は歪な方形を呈している。ここでは第15次調査区分についてのみ記述する。AW(15)2420に切られており、検出した規模は径420×400cm、深さは20～40cmを測る。覆土は灰褐色粘質土を主体とする。出土遺物中、中世土師器皿(167)・輸入青花皿(237)・土錘(344)・行火(365)・炉石(380・382)を図示した。小片のため図示してはいないが、肥前陶磁器が定量出土しており近世の遺構と判断した。

AW(15)2420(第39図)

H区G11・G12・H11・H12グリッドに位置する。AW(15)2414を切っている。平面形は長方形である。径500×230cm、深さは30cmを測る。覆土は褐灰色強粘質土を主体とする。中央に一段の石列が南北方向に並んでいる。肥前陶器鉢(315)・木製品(404)が出土した。

AW(15)2102(第40図)

H区J12・J13グリッドに位置する。検出当初は1つの遺構としたが、掘削するに従って5つに分かれたため、それぞれAW(15)2102－a・AW(15)2102－b・AW(15)2102－c・AW(15)2102－d・AW(15)2102－eとする。

AW(15)2102－aはAW(15)2035を切っており、平面形はほぼ円形である。径220×200cm、深さ45cmを測る。AW(15)2034同様底部より竹の葉を検出しており、肥溜めとして用いられたものと思われる。中世土師器皿(193)・肥前陶器皿(307)・板状木製品(403)が出土している。

AW(15)2102－bはAW(15)2102－cと切り合う。平面形は隅丸の長方形を呈する。径180×130cm、深さ20～50cmを測る。内部は東側が一段低くなっている。小片のため図示していないが近世陶磁器や土師器片が出土している。

AW(15)2102－cはAW(15)2102－b・AW(15)2102－d・AW(15)2102－e・AW(15)2034・AW(15)2042と切り合う。本遺構の中心を占めているが、平面形は不整形で内部に石列が複雑に並び、本来は更に複数の遺構に分かれるのかもしれない。径740×580cm、深さ10～40cmを測る。肥前磁器碗(248)・小杯(253)・越中瀬戸丸碗(325)・砥石(398)が出土している。

AW(15)2102－dはAW(15)2042に切られている。平面形は不整形である。検出した規模は径220×120cm、深さ40～60cmを測る。産地不明の仏花瓶？(333)など近世陶器が出土している。

AW(15)2102－eはAW(15)2102－cと切り合っている。平面形は歪な方形を呈する。径140×100cm、深さ30～40cmを測る。土師器片が出土しているが小片のため図示してはいない。

AW(15)2042(第40・41図)

G区J12グリッドに位置する。AW(15)2102－c・AW(15)2102－dを切っている。平面形はほぼ円形である。径180×180cm、深さは60cmを測る。覆土は灰色粘質土である。中世土師器皿(170・194)・肥前陶器碗(275)が出土している。

AW(15)2421(第41図)

H区H11グリッドに位置する。北側は調査区外に伸びているため平面形や全体の規模は分からない。またAW(15)2437を切っている。検出した規模は径350×320cm、深さは30～40cmを測る。覆土は褐灰色強粘質土で礫が混じる。中世土師器皿(182)・産地不明の磁器瓶類？(271)・中砥石(400)が出土している。

AW(15)2437(第41図)

H区G11・H11グリッドに位置する。北側は調査区外に伸びているため平面形や全体の規模は分からない。またAW(15)2421に切られている。検出した規模は径570×500cm、深さは30cmを測る。覆土は黒灰

色強粘質土である。越前甕(212・213)・肥前陶器擂鉢(319・323)が出土している。

AW(15)2422(第43図)

H区G11グリッドに位置する。平面形は歪な楕円形である。径170×120cm、深さは40cmを測る。覆土は灰色粘土で礫が混じる。肥前磁器皿(262)・肥前陶器皿(294)・産地不明の陶器碗(331)が出土している。

AW(15)2429(第43図)

H区G11・G12グリッドに位置する。平面形は不整形である。2つの土坑が重複したものであろう。径160×100cm、深さは北側が5cmと浅く南側が70cmである。覆土は灰色粘質土である。加賀甕(207)・肥前陶器碗(273)の外、AW(15)2437で出土した肥前陶器擂鉢(320)の一部も出土している。

AW(15)2431(第43図)

H区G11グリッドに位置する。AW(15)2432に切られている。平面形は不整形である。検出した規模は径180×160cm、深さは10～30cmである。覆土は灰色粘質土である。出土遺物は加賀甕の小片1点のみであり中世遺構の可能性もあるが、土色から近世の遺構として報告した。

AW(15)2432(第43図)

H区G11グリッドに位置する。AW(15)2431・AW(15)2433を切っている。平面形は楕円形である。径180×110cm、深さは25cmである。覆土は灰色砂質土である。出土遺物は小片ではあるが土師器や肥前陶器があり、時期は近世と判断した。

AW(15)2433(第43図)

H区G11グリッドに位置する。AW(15)2432に切られているため平面形は不明である。検出した規模は径130×100cm、深さは25cmを測る。覆土は灰色粘質土である。出土遺物は肥前陶器の小片がある。

AW(15)2435(第42図)

H区G11・G12グリッドに位置する。AW(15)2436に切られている。平面形は不整形で複数の遺構が重複したものであろう。検出した規模は径460×180cm、深さは20～35cmを測る。覆土は暗褐灰色粘砂質土である。出土遺物はなく、土色から近世遺構と判断した。

AW(15)2436(第42図)

H区G11グリッドに位置する。AW(15)2436を切っている。平面形は歪な円形である。径180×160cm、深さは30cmを測る。覆土は暗褐灰色粘砂質土である。瀬戸天目碗(215)や肥前陶器碗が出土している。

c)溝

AW(15)2001(第44図)

G区I14・I15・J14・J15グリッドに位置する。向きは東西方向で西側は栗田遺跡第14次調査区続いている。幅180cm以上、深さは20～30cmである。覆土は淡青灰色粘砂質土である。越前壷(210)・肥前磁器碗(240)のほか肥前陶磁器等が出土している。

AW(15)2394(第44図)

H区I11・I12グリッドに位置する。向きは南北方向で南側は栗田遺跡第14次調査区続いている。今次調査で検出した長さは約7m、幅130cm、深さは45cmである。覆土は濁白灰色砂質土である。輸入青磁碗(227)・肥前磁器碗(249)・肥前磁器皿(254～257・263・264・268)・肥前陶器碗(278・287)・肥前陶器皿(296・300・308・311)・産地不明磁器碗(330)・瓦質香炉(340)・石製品方形鉢物(378)・砥石(399)のほか近世陶磁器が多く出土している。

AW(15)2070(第45図)

G区J11・K10・K11グリッドに位置する。東西方向からほぼ直角に曲がり北に流れる溝である。AW(15)2147と接しており、同一の区画溝と考えられる。幅は70cm、深さは6～30cmを測る。覆土は灰色粘土である。肥前磁器碗(242)・肥前陶器碗(281)・産地不明磁器碗(329)・土錘(343)・中砥石(394・395)のほか肥前陶磁器等が出土している。

AW(15)2147(第45図)

G区J10・K9・K10グリッドに位置する。AW(15)2070と接しており、同一の区画溝と考えられる。方向はほぼ南北を向き、途中でほぼ直角に西側に枝分かれする。幅は70cm、深さは25～30cmを測る。覆土は灰色粘土である。打製石斧(16)・瀬戸小杯(216)・瀬戸端反皿(218)・肥前陶器碗(277・285)・肥前陶器擂鉢(318)・越中瀬戸皿(328)・石鉢(353・354)・刀子(408)のほか肥前陶磁器等が出土している。

第5節　遺物

遺物の記述には、本文・観察表・図面図版・写真図版を用いる。当調査区からは縄文～近世までの遺物が出土している。

(1)縄文・弥生時代の遺物(第46～48図)

土　器(1～5)　1～4は縄文土器である。いずれも晩期の深鉢で砕片である。5は弥生土器の鉢である。時期は後期であろう。

石　器(6～18)　6は石鏃である。石材は輝石安山岩である。7～18は打製石斧である。石材は火山礫凝灰岩がもっとも多く、砂岩がこれに次ぐ。出土地点は15・16がピットからの出土で、その他は包含層や後代遺構の混入である。完形は6～11・17の7点で8は分銅形、そのほかは撥形である。12～16・18は欠損している。17・18は大型で弥生期のものと思われる。

(2)古代の遺物(第49～56図)

須恵器(19～99)　無台杯・有台杯・杯蓋・盤・椀・有台椀・有台皿・甕・瓶類が出土した。時期は田嶋編年のⅡ～Ⅴ期が多い。産地は辰口窯を中心に高松・末・小松窯のものが出土している。19～33は無台杯、34～44は底部が不明の杯類、45～71は有台杯、72～74は盤、75は椀、76は有台椀、77は有台皿、78～93は杯蓋、94～97は甕、98・99は瓶類である。

土師器(100～151)　有台杯(100)・有台椀(101)・椀(102～104)・無台杯(105)・鉢(106)・釜(107～146)・甑(147)・鍋(148・149)・カマド(150)・支脚(151)が出土した。出土した土師器の多くは釜・鍋などの煮炊具である。

石製品(152～156)　152～154はカマド構築材で、いずれも被熱痕が残る。155・156は砥石である。155は被熱痕が残る。

鉄製品(157～166)　157・158は紡錘車、159～163は釘状の鉄製品、164～166は鉄滓である。

(3)中世の遺物(第57～60図)

土　器(167～196)　中世土師器の皿は口縁部の残るものを中心に図化した。171・173・174・176・181・184・185・187・188・193は油煤痕の付着するものである。

陶磁器(197～238)　陶磁器は珠洲片口鉢(197～202)、甕(203)、壺(204)、加賀鉢(205・206)、甕(207)、越前甕(208・209・212・213)、壺(210・211・214)、瀬戸美濃天目碗(215・217)、小杯(216)、端反皿(218)、卸皿(219・220)、輸入品の白磁皿(221)、杯(222)、青磁碗(223～232)、盤(233・234)、青花皿(235～237)、碗(238)を図化した。

197～202は珠洲片口鉢である。197と200は卸目の磨耗が激しい。197は口縁端部の形状が内傾する三角頭で波状文が巡る。時期は吉岡編年のⅣ～Ⅵ期に当たる。203は甕の口縁部で吉岡Ⅲ期である。204は壺の体部で菊花状の押印が見られる。

205・206は加賀鉢である。205は12世紀後半である。206は底部で内面に菊花状の押印がある。207は甕

で時期は14世紀前半である。

越前は甕4点と壺3点を図化した。208は甕の体部で「本」と格子状の押印がある。また213には「上」と格子状の押印がある。214は壺で肩部から体部にかけて自然釉がかかる。時期は15～16世紀を主体とする。

215・217は瀬戸美濃天目碗である。216は小杯、218は端反皿、219・220は卸皿である。220は底部に回転糸切痕が残る。このうち216・217・218は大窯期のものである。

輸入磁器は白磁・青磁・青花の3種類である。白磁は皿を1点、杯を1点図示した。時期は15世紀である。222は底部で円盤状に打ち欠いてある。青磁は碗を10点、盤を2点図示した。223・226は連弁文を持つ。224は蓮文であろうか。225は口縁が外反する。227・228は内面見込みに花文の押印がある。232は完形で外面に線描連弁文が施され、内面見込みには中央に「虢」が、その周囲に花弁が描かれている。器形はやや歪んでいる。青磁は14世紀前半～16世紀中頃のものが多い。235・236・237は青花皿でいずれも口縁が外反し、草花文が描かれている。16世紀代である。238は景徳鎮民窯の碗である。完形で外面及び内面見込みに草花文が描かれており、高台内には宣徳年製の文字が見られる。16世紀前半である。

(4)近世の遺物(第61～66図)

陶磁器(239～336)　磁器は肥前の碗(239～251)、小杯(252・253)、皿(254～269)、鉢(270)及び産地不明の瓶類(271・272)を図示した。産地不明のものを除けば全て肥前である。陶器は肥前の碗(273～290)、皿(291～311)、鉢(312～316)、擂鉢(317～324)、越中瀬戸丸碗(325)、向付(326・327)、皿(328)を図示した。やはり肥前が多くを占め、越中瀬戸が若干含まれる。329～336は産地が不明なものである。

肥前磁器は17世紀前半から18世紀後半のものが出土しているが、主体となるのは17世紀後半～18世紀前半である。239・243・246は初期伊万里で246は外面が縦に鏑状に削りこまれ「福」の字が認める。240は外面にコンニャク印刻が施されている。253は高台内に「福」の銘款が入る。皿は内面見込みが蛇の目釉剥ぎのものが多い。

肥前陶器も肥前磁器同様17世紀から18世紀にかけてのものが多い。273～275は内外面に鉄釉を施す。277は外面には鉄釉が施され内面は透明釉で見込みに菊花文が入る。278・280は胎土目が残る。284・285は呉器手である。286～289は陶胎染付である。皿は砂目があるものが多く、胎土目のあるものも少量見られる。299・303・304は高台内に「×」の墨書がある。313～316は砂目のある鉢である。317～324は擂鉢で口縁の残る317～320は鉄釉が施される。

土師器皿(337・338)　近世土師器皿は2点図化した。どちらも型作り成形である。338は口縁部に油煤痕が付いている。

その他　339は軟質施釉陶器の乗燭、340は瓦質香炉、341は土器の火鉢である。

(5)その他の遺物(第66～73図)

土製品(268・282)　土製品では火鉢(268)と土錘(282)が各1点出土した。包含層からの出土である。

石製品(269～281・283～286)　砥石(269～276)、行火(277・285・286)、炉石(278～281・283・284)が出土した。砥石は274・275が鳴滝産の仕上げ砥石である。274は四面とも使用された痕があり、特に両側面の使用痕が著しい。275は表裏の二面に使用痕がある。その他の砥石は中砥石である。行火はすべて軽石凝灰岩で被熱のため赤化している。285・286は堀内光次郎氏の分類の行火Ⅰ種である。炉石はいずれも煤や赤化しており、被熱のため脆くなっている。

鉄製品(287～300)　鉄製品は14点出土している。出土地点はすべてⅡ区である。293・294は釘である。断面は方形を呈する。287～289・291・292・296・297・299・300は刀子である。断面はいずれも略三角形を呈している。

第3章　総　括

縄文・弥生時代

縄文時代の遺構は、縄文土器の出土したAW(15)1949・打製石斧の出土したAW(15)51、弥生時代の遺構は弥生時を出土したAW(15)1534のみで、当該期の遺構分布は極めて希薄であり人々の定住の跡を確認することはできない。しかし平成元・2年度に行われた栗田遺跡発掘調査では打製石斧素材採取地を検出しており、打製石斧やその母岩・剥片が出土している。今次の調査においても若干の打製石斧が出土し、僅かながらこの時代のおける人々の活動を窺うことができる。

古墳時代

今次の調査では古墳時代に比定できる遺構・遺物はない。既往の調査でも当該期の遺構は確認されておらず、流れ込みと思われる遺物が極少量しているのみである。

奈良・平安時代

栗田遺跡の主体を占める時期である。当該期の範囲は本遺跡の南東部分を除くほとんどが該当し、今次調査ではA～F及びI区に当たる。主要な建物として掘立柱建物17棟、竪穴建物6棟を検出しており、出土遺物や建物の主軸などから以下のとおりⅠ～Ⅳ期に区分できる。

Ⅰ期　1号竪AW(12)①・4号竪AW(15)③・5号竪AW(15)④・6号竪AW(15)⑤を主体とする。

Ⅱ期　2号竪AW(15)①・3号竪AW(15)②及び15号掘AW(15)⑨を主体とする。15号掘AW(15)⑨は遺物の出土はなく時期は判然としないが、5号竪AW(15)④を覆うように建てられており、切り合いはないものの、以前に調査された栗田遺跡や南隣するほぼ同時期の遺跡である下新庄アラチ遺跡では竪穴建物から掘立柱建物への移行が確認されていることから、今次調査でも竪穴建物に後続するものと思われ、特に5号竪AW(15)④とは主軸を揃えており直接的な建て替えであろう。

Ⅲ期　4号掘AW(12)④・5号掘AW(12)⑤・6号掘AW(12)⑥・7号掘AW(15)①・8号掘AW(15)②・10号掘AW(15)④・11号掘AW(15)⑤・12号掘AW(15)⑥・14号掘AW(15)⑧・15号掘AW(15)⑨を主体とする。いずれも掘立柱建物で主軸を真北～5°東に振る。柱穴からの遺物が出土していないため時期の特定は容易ではないが、7号掘AW(15)①と8号掘AW(15)②はそれぞれ2号竪AW(15)①・3号竪AW(15)②を覆うように重複しており、前述のように竪穴建物に後続するものと思われる。なお、5号掘AW(12)⑤と6号掘AW(12)⑥は重複しており時期差がある。

Ⅳ期　1号掘AW(12)①・2号掘AW(12)②・3号掘AW(12)③・13号掘AW(15)⑦・16号掘AW(15)⑩・17号AW(15)⑪を主体とする。主軸を西に8～12°振る。やはり柱穴に伴う遺物に乏しいため時期は判断しがたい。しかし以前に調査された栗田遺跡や下新庄アラチ遺跡では主軸を真北からやや東に振る掘立柱建物群→主軸を西に振る掘立柱建物群という変遷を見ることができ、当掘立柱建物群をⅢ期掘立柱建物群に後続するものと考えたい。

鎌倉・室町時代

前述のように中世の遺構・遺物は近世のそれと共に本遺跡の南東に限定されており、それ以外の場所では全く見つかっていない。出土遺物は13～14世紀のものも若干あるが、15～16世紀前半のものが主体を占める。主な遺構は竪穴状遺構・土坑であり、掘立柱建物についてはピットの密集する地区があり、また近世集落跡とも重複するため、見落としや、或いは痕跡が失われている可能性は十分にあるが、今次調査では確認していない。これは今次調査区の西隣で行われた栗田遺跡第10次調査と同じ様相であり、掘立柱建物が見られない部分に竪穴状遺構が密集している。

竪穴状遺構は長軸4m以下のAタイプ、長軸4mを超えるBタイプの両方が検出されている。栗田遺跡第10次調査は遺構の主体を13～14世紀としており、竪穴状遺構はいずれもAタイプである。野々市町北端に位置する長池キタノハシ遺跡は14世紀後半～16世紀前半を主体とし、竪穴状遺構はAタイプも若干あるが、多くが弧タイプであり、かつ貼床や石積といった内部施設が確認できる。今次調査ではA・Bの両タイプが検出されており、Bタイプには石積が伴うものも確認されている。このことから[野々市町2006]で指摘しているように、全体の方向性として「中世前半よりも後半で規模の拡大や内部施設の工夫がなされている傾向にある」といえるだろう。

江戸時代以降

栗田遺跡の近世集落跡も中世エリアとほぼ重複していて立地する。主な遺構は土坑と区画溝である。掘立柱建物は確認していない。土坑や区画溝からは定量の肥前陶磁器を出土しているほか、越中瀬戸も若干出土しており、集落の存続時期は出土遺物から概ね17世紀前半～18世紀前半と考えられる。

参考文献

(社)石川県埋蔵文化財保存協会　1991　『栗田遺跡発掘調査報告書』
石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター　2005　『末松遺跡』
野々市町教育委員会　1992　『栗田遺跡第二次発掘調査報告』
野々市町教育委員会　1998　『上新庄ニシウラ遺跡』
野々市町教育委員会　1999　『下新庄アラチ遺跡』
野々市町教育委員会　2000　『長池キタノハシ遺跡』
野々市町教育委員会　2000　『上林新庄遺跡　上林テラダ遺跡　上林古墳　下新庄タナカダ遺跡』
野々市町教育委員会　2003　『扇が丘ハワイゴク遺跡』
野々市町教育委員会　2003　『富樫館跡Ⅲ』
野々市町教育委員会　2006　『栗田遺跡(第10次)・三納アラミヤ遺跡(第1・2次)・三納トヘイダゴシ遺跡(第1・3次)
野々市町教育委員会　2007　『富樫館跡Ⅳ』
野々市町教育委員会　2007　『二納ニシヨサ遺跡(第1・2・4・6・7次)・三納アラミヤ遺跡(第3次)・藤平田ナカシンギジ遺跡(第1・3次)
野々市町史専門委員会　2003　『野々市町史　資料編1』　石川県野々市町
野々市町史専門委員会　2006　『野々市町史　通史編』　石川県野々市町
北陸中世土器研究会　1997　『中・近世の北陸』　桂書房

粟田遺跡(第12・15次)遺物観察表

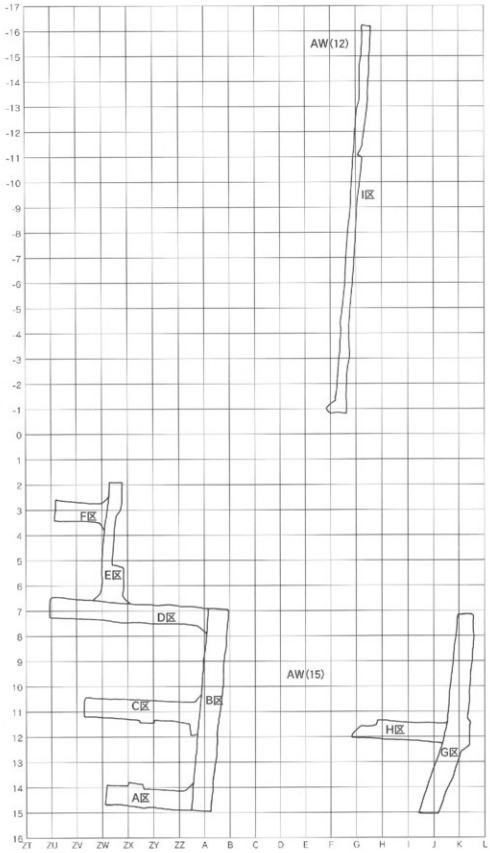
掲載番号	実測番号	出土地点	№ほか	種類	器種	口径長さ(mm)	器高幅(mm)	底径厚さ(mm)	残存率	色調	色調	備考
1	145	AW(15)1949		縄文土器	深鉢				小片	外：にぶい黄橙	内:褐	海綿骨針
2	144	AW(15)1949		縄文土器	深鉢				小片	外：にぶい黄橙	内:にぶい黄橙	海綿骨針
3	402	AW(15)1949		縄文土器	深鉢				小片	外：にぶい黄	内:黄灰	
4	403	AW(15)1949		縄文土器	深鉢				小片	外：にぶい黄橙	内:にぶい黄橙	
5	135	AW(15)1534		弥生土器	鉢				小片	外：にぶい赤褐	内:明赤褐	弥生時代後期
6	111	AW(15)E区	穀部表面	石器	石鏃	27	21	5	完形	外：	内:	2.3g、輝石安山岩
7	68	AW(15)B区	重機掘削	石器	打製石斧	162	92	39	ほぼ完	外：	内:	735g、緑色凝灰岩
8	95	AW(15)C区		石器	打製石斧	166	63	17	完形	外：	内:	安山岩、205g
9	96	AW(15)C区		石器	打製石斧	125	69	21	完形	外：	内:	砂岩、185g
10	50	AW(15)竪穴4	東西溝	石器	打製石斧	123	69	20	完形	外：	内:	火山礫凝灰岩、245g
11	391	AW(15)H区	H11グリッド	石器	打製石斧	137	85	33	完形	外：	内:	火山礫凝灰岩、380g
12	30	AW(15)27		石器	打製石斧	150	105	29	欠損	外：	内:	540g、珪化凝灰岩
13	199	AW(15)G区	I12グリッド	石器	打製石斧	142	98	29	欠損	外：	内:	砂岩、475g
14	31	AW(15)21		石器	打製石斧	129	86	31	欠損	外：	内:	490g、火山礫凝灰岩
15	32	AW(15)51		石器	打製石斧	116	79	34	欠損	外：	内:	335g、火山礫凝灰岩
16	179	AW(15)2147 a		石器	打製石斧	110	62	31	欠損	外：	内:	砂岩302g
17	66	AW(15)B区	南壁	石器	打製石斧	323	121	39	ほぼ完	外：	内:	火山礫凝灰岩、1630g
18	67	AW(15)B区	重機掘削	石器	打製石斧	252	122	38	欠損	外：	内:	砂岩、1220g
19	H11	AW(12)		須恵器	無台杯	113	39	90	全体1/3	外：灰	内:灰オリーブ	高松、田嶋Ⅳ2期
20	9	AW(15)竪穴1	拡張部包含層	須恵器	無台杯	120	36	80	底部完	外：灰白	内:灰黄	高松、田嶋Ⅳ2新期
21	131	AW(15)748		須恵器	無台杯	115	37	81	全体1/2	外：灰白	内:灰白	高松、田嶋Ⅳ2新期
22	78	AW(15)C区	重機掘削	須恵器	無台杯	129	32	86	全体1/3	外：灰	内:灰オリーブ	高松、田嶋Ⅳ期
23	10	AW(15)竪穴1	拡張部包含層	須恵器	無台杯	121	35	88	口縁1/5	外：灰黄	内:灰黄	高松、田嶋Ⅳ2新期
24	62	AW(15)B区	重機掘削	須恵器	無台杯	125	31	80	全体1/4	外：にぶい褐	内:灰白	末?、田嶋Ⅳ1～Ⅳ2古期
25	20	AW(15)竪穴2	お、す、南東、北西表面、重機掘削	須恵器	無台杯	130	35	80	全体1/2	外：灰白	内:灰黄褐	田嶋Ⅳ2期
26	140	AW(15)747		須恵器	無台杯	132	26	90	全体1/3	外：灰	内:灰	辰口、田嶋Ⅳ1期
27	54	AW(15)746	け	須恵器	無台杯	126	34	90	全体1/2	外：灰黄	内:灰黄	末、田嶋Ⅳ2期、海綿骨針
28	7	AW(15)竪穴1	わ	須恵器	無台杯	119	29	78	全体1/4	外：灰	内:灰	田嶋Ⅳ2新期
29	69	AW(15)竪穴3		須恵器	無台杯	126	28	77	全体1/2	外：黄灰	内:灰黄	辰口、Ⅲ期
30	19	AW(15)竪穴1	拡張部包含層	須恵器	無台杯			94	底部1/4	外：灰白	内:灰白	田嶋Ⅳ2新期
31	70	AW(15)竪穴3	拡張部包含層	須恵器	無台杯			79	底部1/2	外：黄灰	内:暗灰黄	高松?、田嶋Ⅳ期
32	142	AW(15)747		須恵器	無台杯			88	底部1/6	外：灰白	内:灰白	高松、田嶋Ⅳ2新～Ⅴ1期
33	4	AW(15)竪穴1	め	須恵器	無台杯			85	底部1/7	外：灰白	内:灰白	海綿骨針、田嶋Ⅳ2新期
34	2	AW(15)竪穴1	かまど	須恵器	杯	113			口縁1/4	外：灰	内:灰	海綿骨針、田嶋Ⅳ2新期
35	29	AW(15)13		須恵器	杯	123			口縁1/8	外：灰	内:黄灰	辰口、田嶋Ⅳ1～Ⅳ2古期
36	H9	AW(12)3	上層	須恵器	杯	134			口縁1/5	外：灰	内：暗灰黄	辰口、田嶋Ⅳ期
37	27	AW(15)竪穴2	南西表面	須恵器	杯	133			口縁1/8	外：灰白	内:灰黄	田嶋Ⅳ期
38	H17	AW(12)		須恵器	杯				小片	外：灰黄褐	内：灰黄褐	末?、田嶋Ⅳ期
39	77	AW(15)C区	内側溝北部	須恵器	杯	143			口縁1/6	外：灰白	内:灰白	辰口、田嶋Ⅲ期
40	132	AW(15)745		須恵器	杯	151			口縁1/4	外：黄灰	内:灰黄	辰口、田嶋Ⅳ期
41	1	AW(15)竪穴1	き	須恵器	杯	150			口縁1/10	外：灰褐	内:黄灰	田嶋Ⅳ2新期
42	52	AW(15)竪穴4	そ	須恵器	杯	156			口縁1/8	外：褐灰	内:褐灰	
43	138	AW(15)1496		須恵器	杯	145			口縁1/6	外：褐灰	内:灰黄	辰口、田嶋Ⅳ～Ⅴ期
44	H18	AW(12)1	上層	須恵器	杯	(140)			小片	外：灰	内：灰	末、田嶋Ⅳ期
45	141	AW(15)747		須恵器	有台杯	97	37	67	全体1/8	外：灰	内:灰	辰口、Ⅳ2期
46	136	AW(15)746	く	須恵器	有台杯	112	37	77	全体2/3	外：黄灰	内:黄灰	末、田嶋Ⅳ2期、海綿骨針
47	133	AW(15)1527		須恵器	有台杯	119	37	83	全体1/2	外：灰	内:灰	末、田嶋Ⅳ2期
48	H15	AW(12)	包含層北側	須恵器	有台杯	116	38	80	全体1/5	外：灰	内：灰	末、田嶋Ⅳ2期
49	H10	AW(12)		須恵器	有台杯	137	40	104	全体1/4	外：黄灰	内：黄灰	末、田嶋Ⅳ2期
50	130	AW(15)1398		須恵器	有台杯	136	37	12	全体1/4	外：灰黄	内:にぶい黄	辰口、田嶋Ⅳ2新期
51	H20	AW(12)	包含層北側	須恵器	有台杯	120	42	94	全体1/5	外：灰黄褐	内:灰黄褐	末、田嶋Ⅳ2期
52	120	AW(15)D区	重機掘削	須恵器	有台杯	115	43	82	全体1/3	外：灰白	内:灰白	辰口、田嶋Ⅳ2新期
53	63	AW(15)B区	重機掘削	須恵器	有台杯	130	47	87	全体3/5	外：灰白	内:灰白	末?、田嶋Ⅳ1～Ⅳ2古期
54	85	AW(15)竪穴5	包含層	須恵器	有台杯			97	底部5/6	外：黄灰	内:黄灰	辰口、田嶋Ⅱ3～Ⅲ期
55	110	AW(15)E区	穀部	須恵器	有台杯	158	66	104	全体1/3	外：灰白	内:灰白	
56	47	AW(15)竪穴3	あ	須恵器	有台杯	150	35	106	全体3/5	外：灰	内:灰黄	高松?、田嶋Ⅲ期
57	48	AW(15)竪穴4	し	須恵器	有台杯	152	34	104	完形	外：灰白	内:灰白	小松、田嶋Ⅱ3～Ⅲ期
58	151	AW(15)F区		須恵器	有台杯	170	48	124	全体1/9	外：褐灰	内:灰黄	
59	36	AW(15)A区	遺構検出	須恵器	有台杯			129	底部1/5	外：灰	内:灰黄褐	田嶋Ⅳ2期
60	12	AW(15)竪穴1		須恵器	有台杯			148	底部1/7	外：にぶい橙	内:にぶい赤褐	田嶋Ⅳ2新期
61	H14	AW(12)	包含層北側	須恵器	有台杯			108	底部1/3	外：黄灰	内：灰黄	高松、Ⅱ2～Ⅱ3期
62	H2	AW(12)10		須恵器	有台杯			85	底部1/5	外:褐灰	内：灰黄	辰口、田嶋Ⅳ2期
63	57	AW(15)742	表面	須恵器	有台杯			82	底部1/4	外：オリーブ黒	内:灰	末、田嶋Ⅳ2期
64	79	AW(15)953		須恵器	有台杯			81	底部5/12	外：灰	内:灰	高松、田嶋Ⅳ2期
65	H13	AW(12)	包含層北側	須恵器	有台杯			70	底部完	外：灰	内：灰	高松、田嶋Ⅳ2期
66	H7	AW(12)9	中層	須恵器	有台杯			92	底部1/3	外：灰	内：灰黄	辰口、田嶋Ⅳ2新期
67	53	AW(15)786	う	須恵器	有台杯			85	底部完	外：灰	内:灰	末、田嶋Ⅳ2期、海綿骨針
68	18	AW(15)竪穴1	拡張部包含層	須恵器	有台杯			70	全体1/2	外：にぶい褐	内:にぶい褐	海綿骨針、田嶋Ⅳ2新期
69	H12	AW(12)		須恵器	有台杯			78	底部9/10	外：灰黄	内：灰黄	高松?、田嶋Ⅴ2期
70	33	AW(15)A区	南壁	須恵器	有台杯			99	底部1/4	外：灰	内:灰白	辰口、田嶋Ⅳ2期
71	80	AW(15)953		須恵器	有台杯			106	底部1/4	外：灰	内:灰	辰口、田嶋Ⅳ2期
72	11	AW(15)竪穴1	拡張部包含層	須恵器	盤	149	29	120	全体1/8	外：灰	内:灰オリーブ	田嶋Ⅳ2新期
73	56	AW(15)786	え	須恵器	盤	156	23	110	全体1/12	外：灰	内:黄灰	末、田嶋Ⅳ2新期
74	13	AW(15)竪穴1	拡張部包含層	須恵器	盤	163	22	140	全体1/8	外：黄灰	内:黄灰	田嶋Ⅳ2新期
75	122	AW(15)790		須恵器	椀	127	37	48	全体1/2	外：灰白	内:灰白	辰口Ⅴ1期
76	58	AW(15)746	い	須恵器	有台椀			86	小片	外：黄灰	内:黄灰	小松?、田嶋Ⅳ2期
77	65	AW(15)B区	重機掘削	須恵器	有台皿			71	底部1/2	外：灰	内:灰オリーブ	小松、Ⅳ2期
78	125	AW(15)742		須恵器	杯蓋				小片	外：灰白	内:灰白	辰口、田嶋Ⅴ1期
79	H8	AW(12)20	上層	須恵器	杯蓋				小片	外：暗灰黄	内：暗灰黄	辰口、田嶋Ⅳ期
80	28	AW(15)88		須恵器	杯蓋	153			小片	外：黄灰	内:暗黄	高松、田嶋Ⅳ期
81	55	AW(15)786	い	須恵器	杯蓋	130	30		全体1/4	外：黄灰	内:黄灰	田嶋Ⅳ2新期
82	64	AW(15)B区	重機掘削	須恵器	杯蓋	128	25		小片	外：黄灰	内:灰黄	高松、田嶋Ⅳ2新～Ⅴ期
83	17	AW(15)竪穴1	拡張部包含層	須恵器	杯蓋	128	16		全体1/12	外：灰	内:灰	田嶋Ⅳ2新期
84	H19	AW(12)	包含層中央	須恵器	杯蓋				全体1/2	外：黄灰	内：灰白	辰口、田嶋Ⅳ1～Ⅳ2古期

掲載番号	実測番号	出土地点	No.ほか	種類	器種	口径長さ(mm)	器高幅(mm)	底径厚さ(mm)	残存率	色調	色調	備考
85	123	AW(15)1593		須恵器	杯蓋	140			全体2/3	外：灰	内:灰	辰口Ⅴ期
86	26	AW(15)竪穴2	南西表面	須恵器	杯蓋	143			小片	外：灰黄	内:灰黄	田嶋Ⅳ期
87	44	AW(15)竪穴4	かまど、つ	須恵器	杯蓋	167	28		全体3/4	外：黄灰	内:黄灰	小松、田嶋Ⅱ3期
88	45	AW(15)竪穴3	か	須恵器	杯蓋	161	28		完形	外：灰黄	内:灰黄	辰口、田嶋Ⅲ期
89	40	AW(15)竪穴3		須恵器	杯蓋	150			口縁1/5	外：黄灰	内:灰白	辰口、Ⅲ期
90	84	AW(15)竪穴5	包含層	須恵器	杯蓋	109	29	96	全体1/3	外：黄灰	内:灰黄	辰口、田嶋Ⅱ3～Ⅲ期
91	83	AW(15)竪穴5	な'、き、た'	須恵器	杯蓋	164	34	88	口縁1/12	外：灰白	内:灰	辰口、田嶋Ⅱ3～Ⅲ期
92	H1	AW(12)38	中層	須恵器	杯蓋	192			小片	外：灰	内：暗灰黄	小松、田嶋Ⅳ2期
93	86	AW(15)竪穴5		須恵器	杯蓋	169			全体1/4	外：黄灰	内:灰黄	辰口?、田嶋Ⅱ3～Ⅲ期
94	121	AW(15)D区	重機掘削	須恵器	甕				小片	外：灰黄	内:黄灰	
95	60	AW(15)283		須恵器	甕				小片	外：灰オリーブ	内:灰	
96	119	AW(15)D区	重機掘削	須恵器	甕				小片	外：灰オリーブ	内:暗灰黄	末、田嶋Ⅳ期
97	81	AW(15)953		須恵器	甕				小片	外：灰白	内:灰	辰口、7C後半～8C前半
98	71	AW(15)竪穴3	拡張部包含層	須恵器	広口瓶			173	小片	外：黒	内:灰オリーブ	田嶋Ⅳ2期
99	76	AW(15)竪穴5	や	須恵器	横瓶			94	底部1/7	外：灰黄	内:灰黄	辰口
100	72	AW(15)207		土師器	有台杯	159			口縁1/10	外：浅黄橙	内:浅黄橙	内外赤彩、8C前半
101	H16	AW(12)14	上層	土師器	有台椀	138	40	86	全体1/2	外：	内：	赤彩
102	143	AW(15)E区	重機掘削	土師器	椀				小片	外：赤褐	内:赤褐	内外赤彩
103	92	AW(15)竪穴5	かまど	土師器	椀	190			全体1/6	外：にぶい赤褐	内:にぶい赤褐	内外赤彩、田嶋Ⅱ3期
104	88	AW(15)竪穴5	東西帯(央)	土師器	椀			78	底部5/12	外：明赤褐	内:明赤褐	内外赤彩
105	41	AW(15)竪穴3	い	土師器	無台杯			95	底部1/4	外：にぶい橙	内:黒褐	
106	108	AW(15)竪穴5	南壁トレンチ、ち'	土師器	鉢				体部4/9	外：灰黄	内:暗灰黄	
107	139	AW(15)747		土師器	小甕	100			全体1/3	外：浅黄橙	内:灰褐	内外面煤付着、田嶋Ⅴ期
108	37	AW(15)竪穴3	貼床直上、こ、拡張部包含層	土師器	小甕	115	120	37	全体3/5	外：淡赤橙	内:灰褐	内外面煤付着、田嶋Ⅲ期
109	39	AW(15)竪穴3	き、く、け、貼床直上	土師器	小甕	132	124		全体1/4	外：黒褐	内:にぶい橙	海綿骨針、内外面煤付着、田嶋Ⅲ期
110	127	AW(15)786	お	土師器	小甕	128			口縁1/8	外：暗褐	内:にぶい橙	内外面煤付着、田嶋Ⅳ期
111	31	AW(15)竪穴4	ち	土師器	小甕	158			口縁1/3	外：にぶい橙	内:にぶい橙	海綿骨針、内外面煤付着、田嶋Ⅲ期
112	103	AW(15)竪穴5	わ'	土師器	小甕	160			口縁1/9	外：にぶい黄橙	内:浅黄橙	田嶋Ⅱ3～Ⅲ期
113	5	AW(15)竪穴1	ん	土師器	小甕				体部1/5	外：にぶい橙	内:浅黄橙	内外面煤付着
114	107	AW(15)竪穴5	南壁トレンチ、だ	土師器	小甕			60	底部4/9	外：にぶい黄橙	内:にぶい黄橙	海綿骨針
115	82	AW(15)982-b		土師器	小甕	144			小片	外：灰褐	内:にぶい黄橙	田嶋Ⅱ2～Ⅱ3期
116	146	AW(15)F区		土師器	小甕			53	底部1/6	外：浅黄橙	内:橙	
117	6	AW(15)竪穴1	北西	土師器	小甕			55	底部1/6	外：橙	内:にぶい褐	外面煤付着
118	126	AW(15)786	か	土師器	小甕			60	底部1/4	外：にぶい褐	内:にぶい橙	
119	H21	AW(12)24	壁	土師器	小甕			64	底部1/5	外：暗灰黄	内：淡黄	外面煤付着
120	124	AW(15)1490		土師器	小甕			57	底部ほぼ完	外：にぶい赤褐	内:にぶい橙	内外面煤付着、田嶋Ⅳ～Ⅴ期
121	3	AW(15)竪穴1	を	土師器	小甕			72	底部1/2	外：黒褐	内:黒褐	海綿骨針、田嶋Ⅳ2期
122	87	AW(15)竪穴5	じ	土師器	小甕			30	底部ほぼ完	外：にぶい黄褐	内:灰黄褐	外面煤付着
123	H4	AW(12)33		土師器	小甕			83	底部1/3	外：にぶい褐	内:橙	田嶋Ⅳ～Ⅴ期
124	73	AW(15)723	上層	土師器	小甕	159			口縁1/8	外：褐灰	内:にぶい橙	内外面煤付着、田嶋Ⅴ期
125	156	AW(15)1921		土師器	小甕	154			口縁1/10	外：にぶい黄橙	内:浅黄橙	内外面煤付着
126	49	AW(15)竪穴4	あ	土師器	小甕	178			全体1/4	外：にぶい橙	内:にぶい橙	海綿骨針、田嶋Ⅲ期
127	H6	AW(12)25	中層	土師器	甕	197			小片	外：橙	内：にぶい黄橙色	田嶋Ⅱ3～Ⅲ期
128	128	AW(15)1596		土師器	甕	197			小片	外：にぶい橙	内:にぶい橙	田嶋Ⅱ3～3期
129	25	AW(15)竪穴2	つ	土師器	甕	194			口縁1/6	外：灰白	内:灰白	田嶋Ⅳ期
130	42	AW(15)竪穴3	北東	土師器	甕	188			小片	外：浅黄橙	内:橙	田嶋Ⅲ期
131	61	AW(15)B区	重機掘削	土師器	甕	205			口縁1/8	外：橙	内:浅橙	内面煤付着、田嶋Ⅳ2期
132	21	AW(15)竪穴2	た、ち	土師器	甕	203			全体1/10	外：橙	内:にぶい黄褐	内面煤付着、田嶋Ⅳ期
133	34	AW(15)A区	北壁	土師器	甕	243			小片	外：橙	内:橙	
134	43	AW(15)竪穴3	東西帯	土師器	甕	220			小片	外：にぶい褐	内:にぶい橙	内面煤付着、田嶋Ⅲ期
135	H5	AW(12)竪穴		土師器	甕	237			口径1/6	外：にぶい褐	内:橙	田嶋Ⅱ3～Ⅲ期
136	8	AW(15)竪穴1	け'お'	土師器	甕	240			口縁1/10	外：橙	内:橙	田嶋Ⅳ2期
137	22	AW(15)竪穴2	に	土師器	甕	263			口縁1/12	外：にぶい黄橙	内:にぶい黄橙	外面煤付着、田嶋Ⅳ期
138	134	AW(15)1532		土師器	甕	260			小片	外：橙	内:橙	田嶋Ⅱ3～Ⅲ期
139	93	AW(15)竪穴5	と、づ、い'、東側南北帯	土師器	甕	214			全体1/4	外：にぶい橙	内:にぶい橙	外面煤付着、田嶋Ⅱ3～Ⅲ期
140	94	AW(15)竪穴5	b、b'、る'、を、ご'、ん'、東側南北帯(南)	土師器	甕	232			全体1/5	外：橙	内:橙	田嶋Ⅱ3～Ⅲ期
141	24	AW(15)竪穴2	な、て	土師器	甕				全体1/6	外：にぶい橙	内:橙	外面煤付着、田嶋Ⅳ期
142	74	AW(15)竪穴5	お'、お'、ぺ'、と、げ'、も'、い、南北帯、東西帯	土師器	甕	240	350	30	全体2/3	外：にぶい橙	内:橙	外面煤付着、田嶋Ⅱ3～Ⅲ期
143	23	AW(15)竪穴2	せ、そ、と、北西表面	土師器	甕				体部1/5	外：にぶい黄褐	内:にぶい黄褐	外面煤付着、田嶋Ⅳ期
144	59	AW(15)B区		土師器	甕				体部1/5	外：灰白	内:浅黄橙	
145	46	AW(15)竪穴4	さ	土師器	甕				底部ほぼ完	外：にぶい橙	内:にぶい橙	外面煤付着、田嶋Ⅲ期
146	106	AW(15)竪穴5	あ、が、や'、よ'、げ、東西帯中層、b	土師器	甕				底部ほぼ完	外：褐灰	内:にぶい黄橙	田嶋Ⅱ3期
147	104	AW(15)竪穴5	え'、う'	土師器	鍋か	252			口縁1/9	外：にぶい黄橙	内:にぶい黄橙	
148	137	AW(15)1496		土師器	鍋	382			小片	外：にぶい橙	内:にぶい橙	内外面煤付着、田嶋Ⅲ期
149	90	AW(15)竪穴5		土師器	鍋	(408)			小片	外：橙	内:橙	田嶋Ⅱ3～Ⅲ期
150	105	AW(15)竪穴5	拡張部包含層上層	土師器	移動式カマド	140			上部1/12	外：にぶい黄橙	内:にぶい黄橙	
151	91	AW(15)竪穴5	包含層	土師器	カマド支脚			84	全体1/3	外：にぶい黄褐	内:にぶい黄橙	海綿骨針
152	101	AW(15)竪穴5	き'	石製品	カマド構築部材	98	74	41		外：	内:	115g
153	100	AW(15)C区	き	石製品	カマド構築部材	51	74	24		外：	内:	軽石凝灰岩、60g
154	98	AW(15)竪穴5	め'	石製品	カマド構築部材	145	100	61	欠損	外：	内:	凝灰岩、575g
155	89	AW(15)竪穴5	d	石製品	砥石	56	52	43	欠損	外：	内:	凝灰岩、52g、被熱痕
156	99	AW(15)竪穴5	わ	石製品	砥石	71	37	28		外：	内:	80g

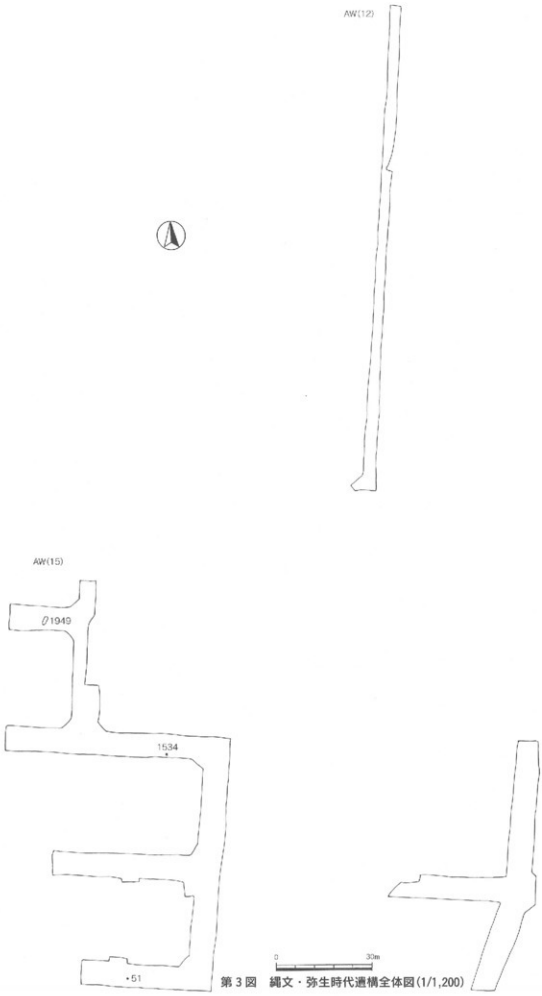
掲載番号	実測番号	出土地点	No.ほか	種類	器種	口径長さ(mm)	器高幅(mm)	底径厚さ(mm)	残存率	色調	色調	備考
157	404	AW(15)竪穴1	お'	鉄製品	紡錘車	127	48	49		外：	内：	57g
158	129	AW(15)786		鉄製品	紡錘車	59	52	50		外：	内：	34.8g
159	F3	AW(12)20	上層	鉄製品		76	18	15				8.6g
160	F6	AW(12)9	上層	鉄製品		39	12	11				2.3g
161	F1	AW(12)10		鉄製品		38	13	11				2.2g
162	97	AW(15)958		鉄製品		39	16	9		外：	内：	31g
163	109	AW(15)E区	壁	鉄製品		49	6	6		外：	内：	1.1g
164	F5	AW(12)9	上層	鉄製品		35	25	15				4.7g
165	F2	AW(12)41		鉄製品		27	25	16				12.7g
166	F4	AW(12)9	上層	鉄製品		22	23	22				3.6g
167	229	AW(15)2414		中世土師器	皿	59	15	(20)	全体1/9	外：浅黄橙	内：にぶい黄橙	
168	244	AW(15)2049		中世土師器	皿	66			口縁1/12	外：灰黄褐	内：灰黄褐	
169	240	AW(15)2012		中世土師器	皿	70			口縁4/9	外：浅黄橙	内：浅黄橙	14世紀後半
170	252	AW(15)2042		中世土師器	皿	70			全体1/3	外：にぶい橙	内：にぶい橙	
171	181	AW(15)2151		中世土師器	皿	71	17		口縁1/4	外：浅黄橙	内：浅黄橙	油煤痕
172	304	AW(15)2149-b		中世土師器	皿	70	20	24	全体1/6	外：にぶい黄橙	内：にぶい黄橙	海綿骨針
173	371	AW(15)2343		中世土師器	皿	75	21	(35)	全体11/12	外：にぶい黄橙	内：にぶい黄橙	16世紀前半、油煤痕
174	255	AW(15)2034		中世土師器	皿	78	23	26	全体1/6	外：にぶい黄橙	内：にぶい黄橙	15世紀前半、油煤痕
175	221	AW(15)2174		中世土師器	皿	78	20		全体1/6	外：灰白	内：浅黄橙	
176	180	AW(15)2182	南東	中世土師器	皿	(79)			口縁1/10	外：にぶい黄橙	内：浅黄橙	油煤痕
177	188	AW(15)2207		中世土師器	皿	76			口縁1/8	外：浅黄橙	内：浅黄橙	
178	195	AW(15)G区	J13グリッド	中世土師器	皿	76	22		全体1/5	外：明褐灰	内：明褐灰	
179	197	AW(15)G区	J13グリッド	中世土師器	皿	84			口縁1/8	外：灰白	内：にぶい橙	油煤痕
180	267	AW(15)2014		中世土師器	皿	84	17	60	全体1/9	外：浅黄橙	内：橙	13世紀後半～14世紀前半か
181	271	AW(15)2052		中世土師器	皿	86	20	50	全体1/3	外：灰白	内：灰白	油煤痕
182	347	AW(15)2421		中世土師器	皿	83			口縁1/6	外：にぶい橙	内：にぶい橙	
183	239	AW(15)2068		中世土師器	皿	90	24		口縁4/9	外：浅黄	内：黄灰	15世紀中頃
184	178	AW(15)2182	南東	中世土師器	皿	90			口縁1/12	外：浅黄橙	内：浅黄橙	油煤痕
185	196	AW(15)G区		中世土師器	皿	93			口縁1/7	外：浅黄橙	内：浅黄橙	油煤痕
186	224	AW(15)2174		中世土師器	皿	(95)			小片	外：にぶい橙	内：にぶい橙	
187	375	AW(15)2335		中世土師器	皿	(100)			小片	外：橙	内：橙	油煤痕
188	198	AW(15)G区	J13グリッド	中世土師器	皿	(100)	(23)		口縁1/8	外：浅黄橙	内：にぶい橙	油煤痕
189	266	AW(15)2014		中世土師器	皿	102			口縁1/9	外：にぶい橙	内：にぶい橙	13世紀後半～14世紀前半か
190	243	AW(15)2065		中世土師器	皿	104			口縁1/12	外：浅黄橙	内：浅黄橙	
191	245	AW(15)2040		中世土師器	皿	112			口縁1/12	外：にぶい黄橙	内：にぶい黄橙	海綿骨針
192	184	AW(15)2182	南西	中世土師器	皿	108			口縁1/10	外：明褐	内：明褐	
193	317	AW(15)2102-a		中世土師器	皿	115			口縁1/2	外：にぶい橙	内：にぶい橙	油煤痕
194	251	AW(15)2042		中世土師器	皿	122			口縁1/12	外：灰黄褐	内：にぶい黄橙	
195	326	AW(15)G区	J11・K11グリッド	中世土師器	皿	120			口縁1/6	外：灰黄褐	内：灰黄褐	
196	242	AW(15)2005		中世土師器	皿	162			口縁1/6	外：浅黄橙	内：浅黄橙	
197	310	AW(15)2196		珠洲	片口鉢			132	底部1/4	外：灰	内：灰	吉岡V期か、海綿骨針
198	219	AW(15)G区	重機掘削	珠洲	片口鉢			114	底部1/5	外：灰白	内：灰白	海綿骨針
199	358	AW(15)2372		珠洲	片口鉢				小片	外：灰	内：灰白	吉岡VI期
200	175	AW(15)G区		珠洲	片口鉢			123	底部1/4	外：灰	内：灰	吉岡V期
201	288	AW(15)2160		珠洲	片口鉢			108	底部1/6	外：灰	内：灰	吉岡IV期
202	394	AW(15)H区	H11グリッド	珠洲	片口鉢			126	底部1/6	外：灰	内：灰	海綿骨針、吉岡V期か
203	187	AW(15)2202	南	珠洲	甕				小片	外：褐灰	内：灰	吉岡II期
204	287	AW(15)2182	中央	珠洲	壺				小片	外：灰	内：灰	菊花状押印
205	102	AW(15)C区	西側包含層	加賀	鉢	306			小片	外：灰白	内：灰白	12C後半
206	413	AW(15)2203		加賀	鉢				小片	外：灰	内：灰	菊花状押印
207	354	AW(15)2429		加賀	甕				小片	外：にぶい赤褐	内：にぶい橙	14世紀前半
208	349	AW(15)2409		越前	甕				小片	外：灰	内：灰褐	16世紀、本：格子状押印
209	314	AW(15)2142		越前	甕			148	底部2/9	外：にぶい褐	内：灰褐	
210	248	AW(15)2001		越前	壺	148			口縁1/9	外：灰黄褐	内：灰	15世紀か
211	315	AW(15)2142		越前	壺			214	底部1/12	外：にぶい赤褐	内：にぶい赤褐	
212	339	AW(15)2437		越前	甕	(634)				外：にぶい赤褐	内：黄	15世紀初、342と同一個体か
213	342	AW(15)2437		越前	甕	(630)				外：にぶい赤褐	内：黄	15世紀初、339と同一個体か、上＋格子状押印
214	159	AW(15)2114-a		越前	壺	170	455	175	全体4/5	外：黒褐	内：灰オリーブ	15世紀後半～16世紀前半
215	348	AW(15)2436		陶器	天目碗	120			口縁1/12	釉：鉄釉	胎：浅黄橙	瀬戸
216	161	AW(15)2147-a		陶器	小杯	(83)			小片	釉：灰釉	胎：にぶい黄	瀬戸、藤澤大窯III期
217	186	AW(15)2202	北	陶器	天目碗	112			口縁1/10	釉：鉄釉	胎：黒	瀬戸美濃、大窯I期
218	160	AW(15)2147-a		陶器	端反皿	121	23	73	全体1/4	釉：灰釉	胎：灰白	瀬戸、大窯II期
219	218	AW(15)G区	重機掘削	陶器	卸皿	119			口縁1/10	釉：灰釉	胎：灰白	瀬戸、14世紀後半
220	223	AW(15)2174		陶器	卸皿			85	底部1/4	外：淡黄	内：淡黄	瀬戸、14世紀後半
221	373	AW(15)2343		中国白磁	皿	83	17	43	全体1/2	釉：透明釉	内：灰白	15世紀後半
222	256	AW(15)2034		中国白磁	杯			38	底部完	外：灰白	内：灰白	15世紀、口縁状に打ち欠く
223	376	AW(15)2303		中国青磁	碗	(106)			小片	釉：青磁釉	胎：灰	16世紀前半
224	303	AW(15)2182	北	中国青磁	碗	141			口縁1/12	釉：青磁釉	胎：灰白	
225	268	AW(15)2052		中国青磁	碗	146			口縁1/7	釉：青磁釉	胎：灰オリーブ	15世紀前半
226	241	AW(15)2009		中国青磁	碗	(140)			小片	釉：青磁釉	胎：オリーブ灰	15世紀中頃
227	377	AW(15)2394		中国青磁	碗			53	底部1/4	釉：青磁釉	胎：灰白	16世紀前半
228	193	AW(15)G区	J13グリッド	中国青磁	碗			58	底部1/3	外：灰オリーブ	内：灰オリーブ	15世紀前半
229	170	AW(15)2154		中国青磁	碗			49	底部2/3	釉：青磁釉	胎：灰オリーブ	15世紀後半
230	204	AW(15)G区	J13・J14グリッド	中国青磁	碗			77	底部1/5	釉：青磁釉	胎：灰白	16世紀前半
231	290	AW(15)2149-d		中国青磁	碗			60	底部1/3	釉：青磁釉	胎：灰白	15世紀後半～16世紀初め
232	411	AW(15)2214	西壁際	中国青磁	碗	108	70	49	完形	釉：青磁釉	胎：灰白	16世紀前半
233	260	AW(15)2052		中国青磁	盤	(234)			口縁1/14	釉：青磁釉	胎：暗オリーブ	15世紀中頃
234	206	AW(15)G区	K15グリッド	中国青磁	盤			84	底部1/4	釉：青磁釉	胎：灰白	14世紀前半
235	401	AW(15)G区	重機掘削	中国青花	皿	115		64	底部1/6	釉：透明釉	胎：灰白	16世紀前半
236	286	AW(15)2182	中央	中国青花	皿			60	底部1/9	釉：透明釉	胎：灰白	16世紀前半
237	228	AW(15)2414		中国青花	皿	113			口縁1/2	釉：透明釉	胎：灰白	16世紀前半
238	412	AW(15)2214	西壁際	中国青花	碗	122	61	46	完形	釉：透明釉	胎：灰白	篆書銘、16世紀前半
239	213	AW(15)G区	重機掘削	磁器	碗	100			口縁1/5	釉：透明釉	胎：灰白	肥前、17世紀前半
240	247	AW(15)2001		磁器	碗	93			口縁1/3	釉：透明釉	胎：明緑灰	肥前、18世紀前半、コンニャク印判
241	291	AW(15)2194		磁器	碗			36	底部1/3	釉：透明釉	胎：灰白	肥前、17世紀中頃
242	265	AW(15)2090		磁器	碗			51	底部1/3	釉：透明釉	胎：灰白	肥前、17世紀後半
243	212	AW(15)G区	重機掘削	磁器	碗			46	底部1/3	釉：透明釉	胎：灰白	肥前、17世紀後半

掲載番号	実測番号	出土地点	№ほか	種類	器種	口径長さ(mm)	器高幅(mm)	底径厚さ(mm)	残存率	色調	色調	備考
244	236	AW(15)2034		磁器	碗			45	底部1/2	釉：透明釉	胎：灰白	肥前、17世紀後半
245	296	AW(15)2185		磁器	碗	104			口縁1/18	釉：青磁釉	胎：灰白	肥前、17世紀
246	323	AW(15)G区	J11・K11グリッド	磁器	碗			59	底部1/3	釉：透明釉	胎：灰白	肥前、17世紀前半
247	390	AW(15)H区	H11グリッド	磁器	碗			44	底部完	釉：透明釉	胎：灰白	肥前、17世紀後半～18世紀後半
248	257	AW(15)2102-c	石列内	磁器	碗			45	底部1/4	釉：青磁釉	胎：灰白	肥前、17世紀中頃
249	381	AW(15)2394		磁器	碗			44	底部2/3	釉：透明釉	胎：灰白	肥前、17世紀中頃
250	163	AW(15)2183		磁器	碗			46	底部1/2	釉：透明釉	胎：明褐灰	肥前、17世紀後半
251	114	AW(15)D区	北壁	磁器	碗			44	全体2/3	釉：透明釉	胎：灰白	肥前、17世紀後半
252	311	AW(15)2195		磁器	小杯			30	底部完	釉：透明釉	胎：灰白	肥前、17世紀後半
253	169	AW(15)2102-c		磁器	小杯			31	底部1/2	釉：透明釉	胎：灰白	肥前、17世紀後半
254	226	AW(15)2394	上層	磁器	皿	121			口縁1/9	釉：透明釉	胎：灰白	肥前、17世紀後半～18世紀前半
255	370	AW(15)2394		磁器	皿			50	底部完	釉：透明釉	胎：灰白	肥前、17世紀後半～18世紀前半、蛇の目釉剥ぎ
256	364	AW(15)2394		磁器	皿	126	31	44	底部1/2	釉：透明釉	胎：灰白	肥前、18世紀、蛇の目釉剥ぎ
257	378	AW(15)2394		磁器	皿	133			口縁1/4	釉：透明釉	胎：灰白	肥前、18世紀
258	305	AW(15)2195		磁器	皿			54	底部1/3	釉：透明釉	胎：灰白	肥前、17世紀前半～中頃
259	393	AW(15)H区	H11グリッド	磁器	皿			47	底部1/2	釉：青磁釉	胎：灰白	肥前、18世紀、蛇の目釉剥ぎ
260	216	AW(15)G区	重機掘削	磁器	皿			45	底部1/2	釉：透明釉	胎：灰白	波佐見、17世紀後半～18世紀前半、蛇の目釉剥ぎ
261	321	AW(15)G区	J11・K11グリッド	磁器	皿	126	38	46	底部完	釉：青磁釉	胎：灰白	肥前、17世紀後半～18世紀前半、蛇の目釉剥ぎ
262	332	AW(15)2422		磁器	皿	130	40	48	全体1/4	釉：透明釉	胎：灰白	肥前、18世紀、蛇の目釉剥ぎ
263	369	AW(15)2394		磁器	皿			43	底部完	釉：透明釉	胎：灰白	肥前、17世紀後半～18世紀前半、蛇の目釉剥ぎ
264	360	AW(15)2394		磁器	皿	123	45	46	底部完	釉：透明釉	胎：灰白	肥前、18世紀、蛇の目釉剥ぎ
265	306	AW(15)2195		磁器	皿			108	底部1/9	釉：透明釉	胎：灰白	肥前、18世紀後半
266	397	AW(15)H区	I11グリッド	磁器	皿	180			口縁1/9	釉：透明釉	胎：灰白	肥前、17世紀後半
267	379	AW(15)2394		磁器	皿	121			口縁1/6	釉：透明釉	胎：灰白	肥前（波佐見）17世紀～18世紀
268	231	AW(15)2394	下層	磁器	皿			44	底部完	釉：透明釉	胎：灰白	肥前、蛇の目釉剥ぎ
269	389	AW(15)H区	北壁	磁器	皿			42	底部1/2	釉：青磁釉	胎：灰白	肥前、18世紀
270	237	AW(15)2034		磁器	鉢			136	小片	釉：透明釉	胎：灰白	肥前、17世紀後半
271	345	AW(15)2421		磁器	不明				小片	釉：青磁釉	胎：灰白	産地不明
272	253	AW(15)2071		磁器	不明			73	底部完	釉：青磁釉	胎：明緑灰	肥前か
273	353	AW(15)2429		陶器	碗	118	71	58	全体1/4	釉：鉄釉.銅釉	胎：灰白	肥前、17世紀前半
274	185	AW(15)2182	南西	陶器	碗			47	底部完	釉：鉄釉	胎：黒	肥前、17世紀中頃
275	250	AW(15)2042		陶器	碗			42	底部1/4	釉：鉄釉	胎：灰白	肥前、17世紀前半
276	234	AW(15)2034		陶器	碗	109			口縁1/12	釉：灰釉	胎：浅黄	肥前、京焼風、17世紀後半～18世紀前半
277	176	AW(15)2147-a		陶器	碗			44	底部1/3	釉：鉄釉	胎：黒褐	肥前、17世紀中頃
278	368	AW(15)2394		陶器	碗			50	底部完	釉：灰釉	胎：褐灰	肥前、17世紀前半、胎土目
279	214	AW(15)G区	重機掘削	陶器	碗	95	62	46	全体1/2	外：	胎：にぶい黄橙	肥前、18世紀
280	280	AW(15)2154		陶器	碗			46	底部完	釉：灰釉	胎：にぶい橙	肥前、17世紀前半、胎土目
281	264	AW(15)2070		陶器	碗				底部1/3	釉：灰釉	胎：灰白	肥前、18世紀前半、焼成不良
282	153	AW(15)1921		陶器	碗			46	底部完	釉：白泥	胎：灰オリーブ	肥前、17世紀
283	157	AW(15)1921		陶器	碗			42	底部1/3	釉：白泥	胎：赤灰	肥前
284	203	AW(15)G区	J13・14グリッド	陶器	碗	101			口縁1/10	釉：透明釉	胎：灰白	肥前、呉器手、17世紀後半～18世紀前半
285	298	AW(15)2147-a	西	陶器	碗			40	底部1/18	釉：灰釉	胎：灰黄	肥前、呉器手、17世紀後半～18世紀前半
286	215	AW(15)G区	重機掘削	陶器	碗			41	底部2/3	釉：透明釉	胎：暗青灰	肥前、陶胎染付、18世紀
287	363	AW(15)2394		陶器	碗			42	底部完	釉：透明釉	胎：灰	肥前、陶胎染付、18世紀
288	154	AW(15)1921		陶器	碗	113			口縁1/3	釉：透明釉	胎：オリーブ灰	肥前、陶胎染付、18世紀
289	118	AW(15)1372		陶器	碗	105			小片	釉：透明釉	胎：灰	肥前、陶胎染付、18世紀
290	164	AW(15)2183		陶器	碗			46	底部1/3	釉：灰釉	胎：灰白	肥前、17世紀前半、砂目
291	322	AW(15)G区	J11・K11グリッド	陶器	皿			35	底部完	釉：灰釉	胎：にぶい橙	肥前、17世紀前半
292	115	AW(15)旧用水		陶器	皿			47	底部4/5	釉：灰釉	胎：灰白	肥前、17世紀
293	194	AW(15)G区	J13グリッド	陶器	皿			39	底部1/4	釉：灰釉	胎：灰オリーブ	肥前、17世紀前半、砂目
294	330	AW(15)2422		陶器	皿	108			口縁1/7	釉：灰釉	胎：灰白	肥前、17世紀前半
295	209	AW(15)G区	重機掘削	陶器	皿	118	33	34	全体1/3	釉：灰釉	胎：黄灰	肥前、17世紀前半、砂目
296	380	AW(15)2394		陶器	皿	130			口縁1/9	釉：銅緑釉	胎：灰白	肥前（嬉野）17世紀～18世紀
297	210	AW(15)G区	重機掘削	陶器	皿			44	底部完	釉：灰釉	胎：にぶい黄橙	肥前、17世紀前半、胎土目
298	200	AW(15)G区	J13・14グリッド	陶器	皿			47	底部完	釉：透明釉	胎：灰白	肥前17世紀前半、砂目
299	183	AW(15)2151		陶器	皿			40	底部1/2	釉：灰釉	胎：にぶい黄	肥前、17世紀前半、砂目、溶着
300	366	AW(15)2394		陶器	皿			40	底部完	釉：灰釉	胎：灰白	肥前17世紀前半、胎土目
301	217	AW(15)G区	重機掘削	陶器	皿			40	底部1/2	釉：灰釉	胎：にぶい橙	肥前、17世紀前半、砂目
302	208	AW(15)G区	重機掘削	陶器	皿	130			口縁1/6	釉：灰釉	胎：黄灰	肥前、17世紀前半、砂目
303	182	AW(15)2151		陶器	皿	120	36	39	全体4/5	釉：灰釉	胎：灰黄	肥前、17世紀前半、砂目、[illegible]
304	238	AW(15)2062		陶器	皿	114	30	(43)	全体8/9	釉：灰釉	胎：灰黄	肥前、17世紀前半、砂目、[illegible]
305	307	AW(15)2195		陶器	皿			44	底部1/3	釉：灰釉	胎：にぶい橙	肥前、17世紀前半、胎土目
306	172	AW(15)2173-b		陶器	皿			34	底部完	釉：灰釉	胎：明褐灰	肥前、17世紀前半、胎土目
307	316	AW(15)2102-a		陶器	皿			50	底部完	釉：鉄釉	胎：黄灰	肥前、17世紀前半、砂目
308	362	AW(15)2394		陶器	皿			48	底部1/2	釉：鉄釉	胎：褐灰	肥前、17世紀前半、砂目
309	117	AW(15)1372		陶器	皿			49	底部1/2	釉：銅緑釉	胎：オリーブ灰	肥前、18世紀
310	388	AW(15)H区	北壁	陶器	皿			50	底部2/3	釉：銅緑釉	胎：灰白	肥前、18世紀、蛇の目釉剥ぎ
311	365	AW(15)2394		陶器	皿			45	底部完	釉：灰釉	胎：にぶい褐	肥前、17世紀前半
312	392	AW(15)H区	H11グリッド	陶器	鉢			88	底部1/3	釉：灰釉	内：灰白	肥前、17世紀
313	328	AW(15)G区	J11・K11グリッド	陶器	鉢			100	底部1/6	釉：灰釉	胎：灰白	肥前、17世紀前半、砂目
314	309	AW(15)2195		陶器	鉢			104	底部1/3	釉：灰釉	胎：淡赤橙	肥前、17世紀前半、砂目
315	356	AW(15)2420	西	陶器	鉢			67	底部1/4	釉：灰釉	胎：灰褐	肥前、17世紀前半、砂目
316	330	AW(15)G区	J11・K11グリッド	陶器	鉢			139	底部1/3	釉：白泥	胎：明赤褐	肥前、17世紀前半、砂目
317	297	AW(15)2185		陶器	擂鉢	284			口縁1/18	釉：錆釉	胎：褐灰	肥前、17世紀前半
318	299	AW(15)2147-a	西	陶器	擂鉢	288			口縁1/18	釉：鉄釉	胎：にぶい橙	肥前、17世紀前半
319	341	AW(15)2437、2429		陶器	擂鉢	302			口縁1/4	釉：鉄釉	胎：にぶい赤褐	肥前、17世紀前～中
320	211	AW(15)G区	重機掘削	陶器	擂鉢	337			口縁1/10	釉：鉄釉	内：にぶい赤褐	肥前、17世紀後半
321	396	AW(15)H区	I11グリッド	陶器	擂鉢			120	底部1/3	外：にぶい赤褐	内：橙	肥前、17世紀前半
322	116	AW(15)旧用水		陶器	擂鉢			80	底部1/5	外：灰赤	内：灰赤	肥前
323	340	AW(15)2437		陶器	擂鉢			104	底部1/2	外：にぶい橙	内：橙	肥前、17世紀前～中
324	395	AW(15)H区	I11グリッド	陶器	擂鉢			100	底部1/2	外：にぶい橙	内：にぶい橙	肥前、17世紀前半
325	167	AW(15)2102-c		陶器	丸碗	98			口縁1/8	釉：鉄釉	胎：暗赤褐	越中瀬戸、17世紀
326	162	AW(15)2183		陶器	向付	107	30	56	全体1/2	釉：鉄釉	胎：褐	越中瀬戸、17世紀

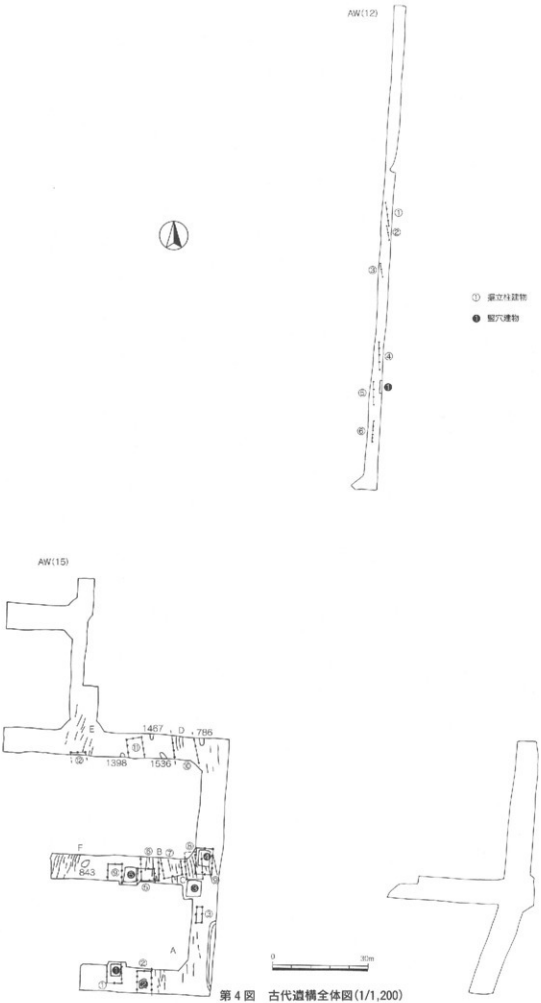
掲載番号	実測番号	出土地点	No.ほか	種類	器種	口径長さ(mm)	器高幅(mm)	底径厚さ(mm)	残存率	色調	色調	備考
327	205	AW(15)G区	J13・14グリッド	陶器	[illegible]付			44	底部1/2	釉：鉄釉	胎：暗赤褐	越中瀬戸、17世紀
328	300	AW(15)2147-a	西	陶器	皿				小片	釉：鉄釉	胎：浅黄橙	越中瀬戸、17世紀前半
329	260	AW(15)2070	k11グリッド	磁器	碗	112	64	48	全体2/3	釉：灰釉	胎：オリーブ黄	産地不明
330	359	AW(15)2394		磁器	碗	114	71	56	底部1/2	釉：灰釉,鉄釉	胎：灰白	産地不明
331	351	AW(15)2422		陶器	碗	103			口縁1/12	釉：鉄釉,灰釉	胎：灰白	
332	222	AW(15)2174		陶器	蓋	115	38	91	全体1/4	釉：白泥	胎:灰黄	産地不明
333	171	AW(15)2102-d		陶器	仏花瓶か					外：暗赤褐	内:暗赤褐	産地不明
334	295	AW(15)2185		磁器	瓶類			60	底部完	釉：透明釉	胎：灰白	産地不明
335	308	AW(15)2195		陶器	擂鉢			112	底部1/6	釉：錆釉	胎：浅黄橙	産地不明
336	113	AW(15)H区	壁切り	陶器	不明	188	84	112	全体1/2	外：黒褐	内:黒褐	産地不明
337	312	AW(15)2195		土師器	皿	133			口縁1/12	外：にぶい黄橙	内:橙	
338	325	AW(15)G区	J11・K11グリッド	土師器	皿	119	22	50	底部完	外：にぶい黄橙	内:にぶい橙	油煙痕、18世紀後半
339	207	AW(15)G区	K10グリッド	軟質施釉陶器	秉燭	68			口縁1/6	釉：灰釉	胎：浅黄橙	19世紀
340	361	AW(15)2394		瓦質土器	香炉	129	(51)	128	口縁1/12	外：暗灰	内:灰白	
341	235	AW(15)2034		瓦質土器	火鉢				小片	外：にぶい橙	内:にぶい黄橙	
342	202	AW(15)G区	J13・14グリッド	土製品	土錘	38	45	44	完形	外：にぶい赤褐	内:にぶい赤褐	内径16mm
343	261	AW(15)2070		土製品	土錘	41	32		欠損	外：浅黄橙	内:灰白	内径14mm
344	225	AW(15)2414		土製品	土錘	25	34			外：にぶい黄橙	内:にぶい黄橙	内径13mm
345	313	AW(15)2195		土製品	土錘	39	30	20	全体1/2	外：浅黄橙	内:浅黄橙	内径18mm
346	386	AW(15)H区	北壁	土製品	土人形	38	31	21	欠損	外：	内:	21.7g
347	329	AW(15)G区	J11・K11グリッド	石製品	石臼(上臼)	192	170	87	欠損			3110g、16世紀
348	276	AW(15)2202	南	石製品	石臼	158	261	113	欠損	外：	内:	3950g
349	220	AW(15)2174		石製品	石臼(上臼)	301		97		外：	内:	火山礫凝灰岩、2500g
350	277	AW(15)2202	南	石製品	石臼	61	189		欠損	外：	内:	745g
351	274	AW(15)2203		石製品	石臼	163	125	81	欠損	外：	内:	1380g
352	273	AW(15)2005		石製品	石臼(下臼)	163	182	87	欠損	外：	内:	2650g
353	173	AW(15)2147-a		石製品	石鉢	210	144		口縁1/8	外：	内:	火山礫凝灰岩、1610g、15世紀
354	301	AW(15)2147-a	西	石製品	石鉢	116	122	41	欠損	外：	内:	凝灰岩560g
355	177	AW(15)2182	南東	石製品	石鉢	262			口縁1/6	外：	内:	345g
356	385	AW(15)H区	I11グリッド	石製品		148	148	65	欠損	外：	内:	1650g、台座
357	336	AW(15)2329		石製品	宝篋印塔	165	122	83	欠損	外：	内:	1390g、基礎
358	279	AW(15)		石製品		178	207	80	欠損	外：	内:	2730g
359	410	AW(15)2196		石製品	五輪塔	245	173	177	欠損	外：	内:	火輪、5800g
360	409	AW(15)2149		石製品	五輪塔	219	222	140	ほぼ完	外：	内:	水輪、8300g
361	282	AW(15)2195		石製品		122	149	150		外：	内:	4140g
362	281	AW(15)2302		石製品	宝篋印塔	138	134	134	欠損	外：	内:	後に転用
363	275	AW(15)2202	南	石製品		162	134	102	欠損	外：	内:	2950g
364	280	AW(15)2183		石製品	五輪塔	233	218	98	欠損	外：	内:	水輪、4145g
365	227	AW(15)2414		石製品	行火	44	75	28	欠損	外：	内:	70.4g
366	270	AW(15)2052		石製品	行火	72	85	37		外：	内:	126g
367	283	AW(15)2050		石製品	行火	104	105	39	欠損	外：	内:	200g
368	338	AW(15)2377		石製品	行火	99	99	39	欠損	外：	内:	凝灰岩250g
369	327	AW(15)G区	J11・K11グリッド	石製品	行火	83	69	51	欠損	外：	内:	軽石凝灰岩160g
370	259	AW(15)2058		石製品	行火	69	87	43	欠損	外：	内:	軽石凝灰岩105g
371	278	AW(15)2148		石製品	行火	136	156	94	欠損	外：	内:	489g
372	233	AW(15)2034		石製品	行火	83	88	51	欠損	外：	内:	軽石凝灰岩、220g
373	324	AW(15)G区	K11グリッド	石製品	行火	106	123	38		外：	内:	軽石凝灰岩350g
374	285	AW(15)2051		石製品	行火	86	104	78	欠損	外：	内:	軽石凝灰岩230g
375	293	AW(15)2149-c		石製品	行火	91	92	25	欠損	外：	内:	140g、天井部分
376	337	AW(15)2334		石製品	行火	87	72	63	欠損	外：	内:	軽石凝灰岩150g
377	302	AW(15)2182	北	石製品	行火	75	78	75	欠損	外：	内:	軽石凝灰岩100g
378	383	AW(15)2394		石製品	方形鉢物	64	67	38	欠損	外：	内:	170.2g
379	284	AW(15)G区	K8グリッド	石	炉石	183	143	88	欠損	外：	内:	1380g
380	335	AW(15)2414		石製品	炉石	165	137	177	欠損	外：	内:	凝灰岩1150g
381	190	AW(15)G区	J13グリッド	石製品	炉石	81	107	72	欠損	外：	内:	火山礫凝灰岩317g
382	334	AW(15)2414		石製品	炉石	161	130	91	欠損	外：	内:	凝灰岩1320g
383	408	AW(15)		炉石		224	202	92	欠損	外：	内:	2760g
384	407	AW(15)2195		炉石		322	138	106	欠損	外：	内:	5800g
385	374	AW(15)2346		石製品	仕上砥石	67	54	11	欠損	外：	内:	51.5g、鳴滝
386	254	AW(15)2034		石製品	中砥石	67	52	31	欠損	外：	内:	126g、凝灰岩、天草
387	155	AW(15)1921		石製品	砥石	73	42	14		外：	内:	黒色片岩70.2g
388	258	AW(15)2053		石製品	中砥石	39	34	19	欠損	外：	内:	30g、凝灰岩、浄教寺か
389	331	AW(15)G区	J11・K11グリッド	石製品	中砥石	49	40	14	欠損	外：	内:	35g、浄教寺
390	372	AW(15)2329		石製品	中砥石	67	41	20	欠損	外：	内:	77g、浄教寺
391	292	AW(15)2149-c		石製品	中砥石	60	39	35	欠損	外：	内:	90g、天草
392	387	AW(15)H区	北壁	石製品	砥石	51	30	11		外：	内：	28g
393	201	AW(15)G区	J13・14グリッド	石製品	砥石	73	39	10	完形	外：	内:	
394	263	AW(15)2070		石製品	中砥石	96	51	29	欠損	外：	内:	127g、仕上砥石代用、泥岩
395	262	AW(15)2070		石製品	中砥石	109	69	26	欠損	外：	内:	122g、仕上砥石代用、泥岩
396	189	AW(15)G区	J13グリッド	石製品	砥石	125	70	41	完形	外：	内:	砂岩530g
397	332	AW(15)G区	J11・K11グリッド	石製品	中砥石	103	49	29	完形	外：	内:	180g、浄教寺、被熱跡あり
398	168	AW(15)2102-c		石製品	砥石	97	55	25		外：	内:	凝灰岩158g
399	382	AW(15)2394		石製品	砥石	65	49	36	欠損	外：	内:	171.5g、備水
400	346	AW(15)2421		石製品	中砥石	80	60	46	欠損	外：	内:	220g、天草
401	384	AW(15)H区	I11グリッド	石製品	砥石	166	79	50	完形	外：	内:	660g
402	191	AW(15)G区		石製品	砥石	213	136	64	欠損	外：	内:	砂岩2560g
403	318	AW(15)2102-a		木製品		184	85	10	欠損	外：	内:	
404	357	AW(15)2420	西	木製品		194	33	12	欠損	外：	内:	
405	192	AW(15)G区	J13グリッド	鉄製品	釘	53	9	9		外：	内:	3.5g
406	406	AW(15)2195		鉄製品		47	32	13	欠損	外：	内:	12.9g
407	112	AW(15)E区	壁切り	鉄製品		105	29	12		外：	内:	87g
408	166	AW(15)2147-a	南	鉄製品	刀子	70	28	20		外：	内:	38.7g
409	405	AW(15)2142		鉄製品	鉄滓	64	38	29	欠損	外：	内:	95g



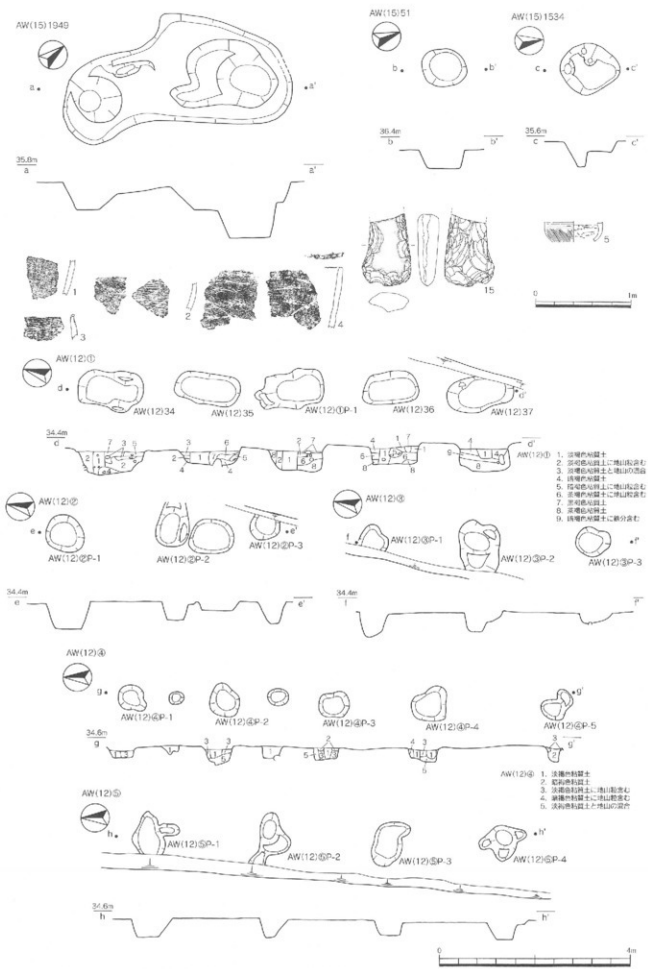
第2図　調査区図・グリッド図(1/1,500)



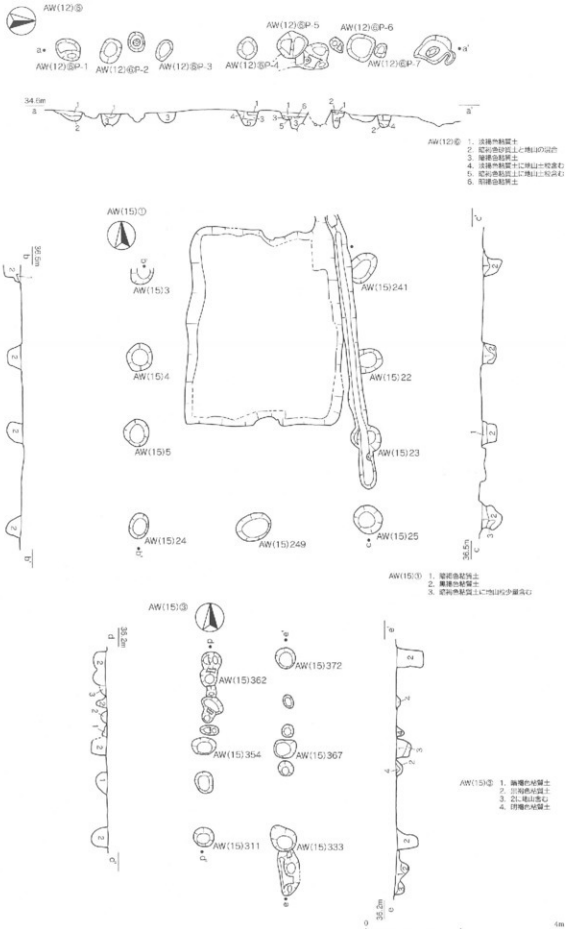
第３図　縄文・弥生時代遺構全体図(1/1,200)



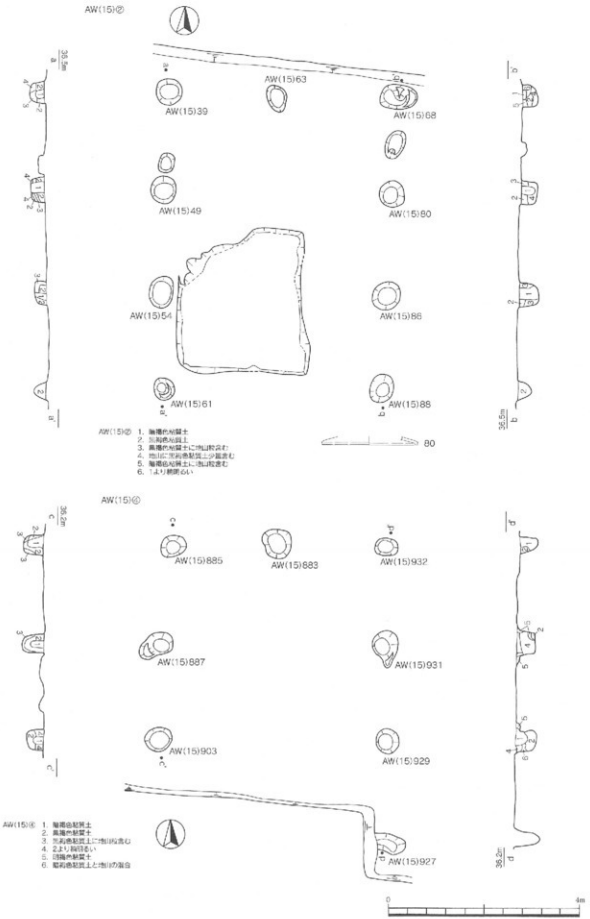
第４図　古代遺構全体図(1/1,200)



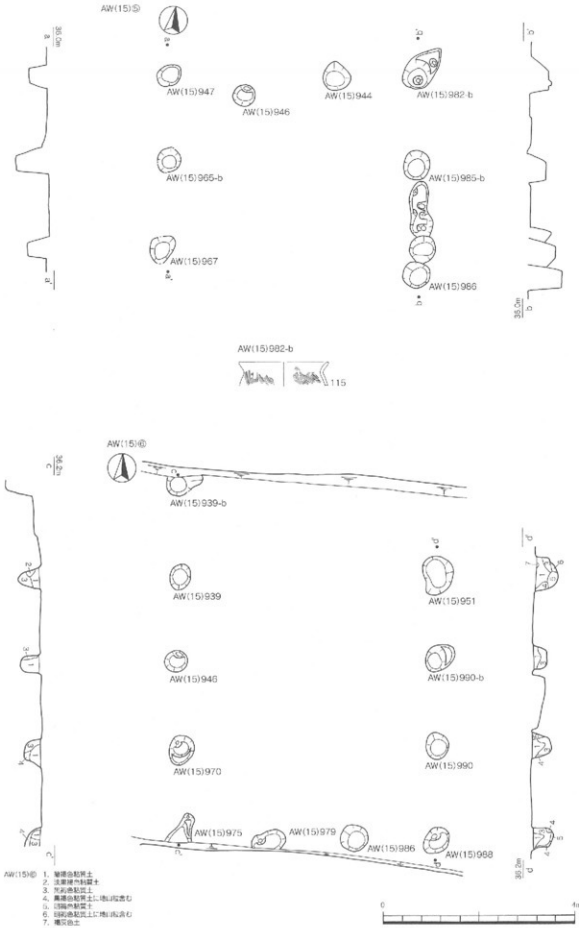
第５図　遺構実測図　土坑AW(15)1949、ピットAW(15)51・1534、掘立柱建物AW(12)①・②・③・④・⑤　(1/40、1/80)



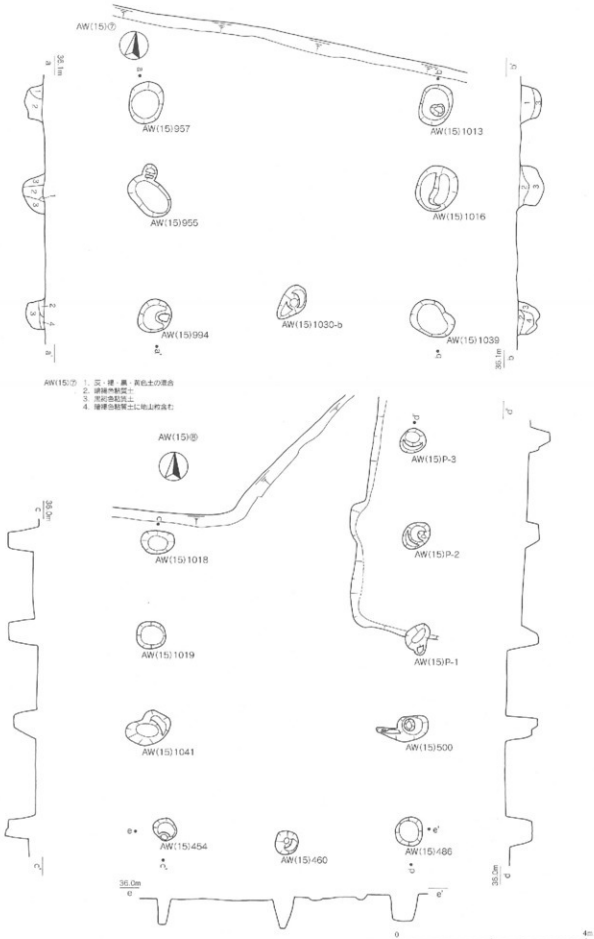
第 6 図　遺構実測図　掘立柱建物AW(12)⑤・AW(15)①・③　(1/80)



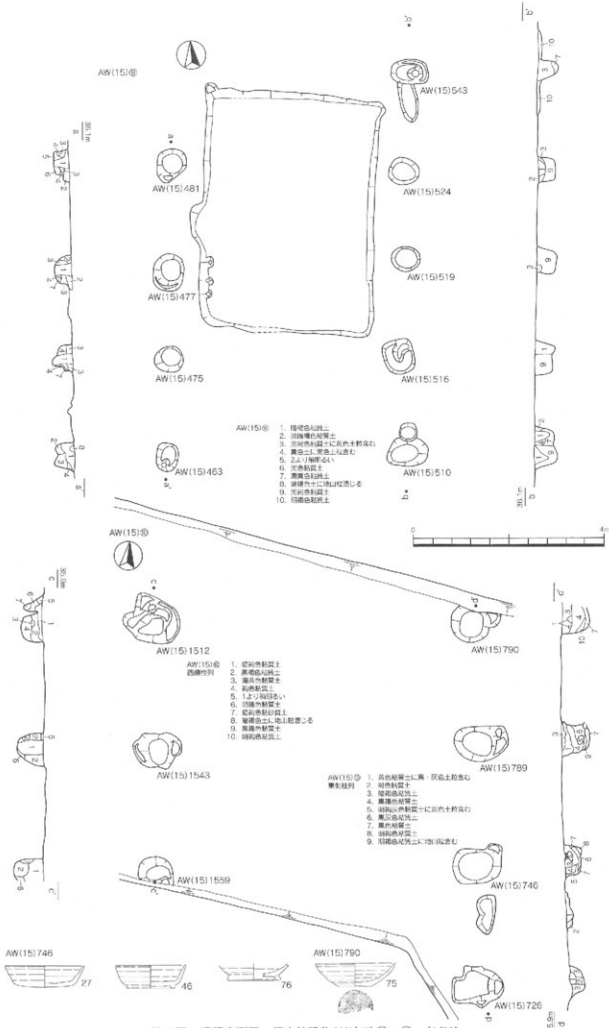
第７図　遺構実測図　掘立柱建物AW(15)②・④　(1/80)



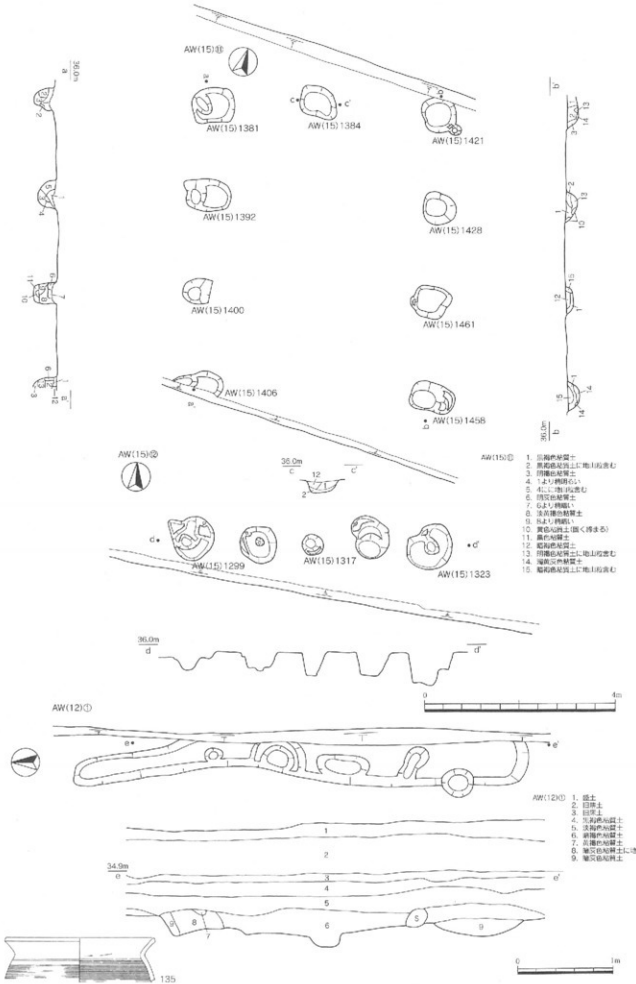
第 8 図　遺構実測図　掘立柱建物AW(15)⑤・⑥　(1/80)



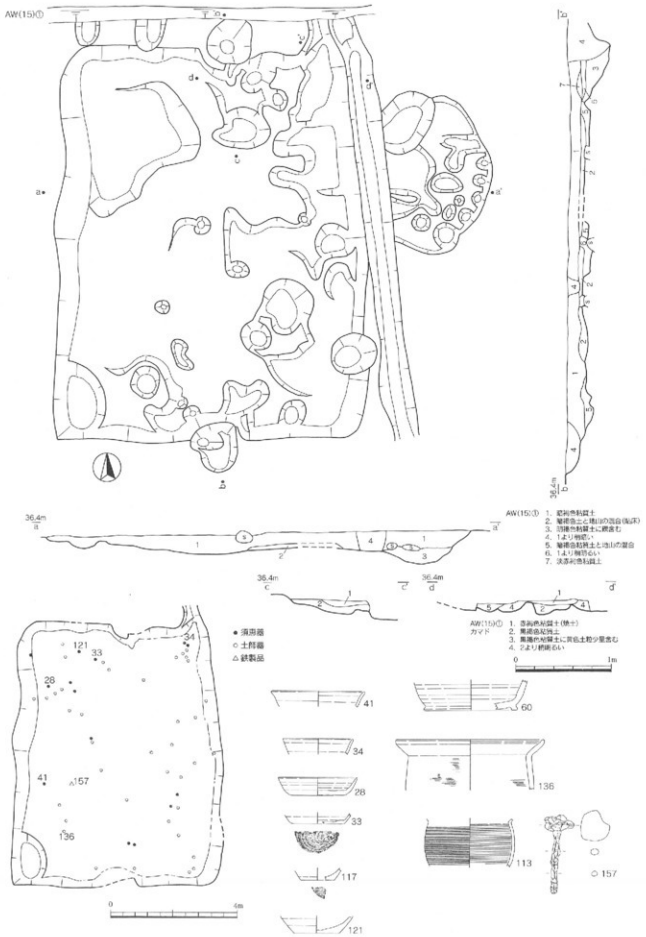
第 9 図　遺構実測図　掘立柱建物AW(15)⑦・⑧　(1/80)



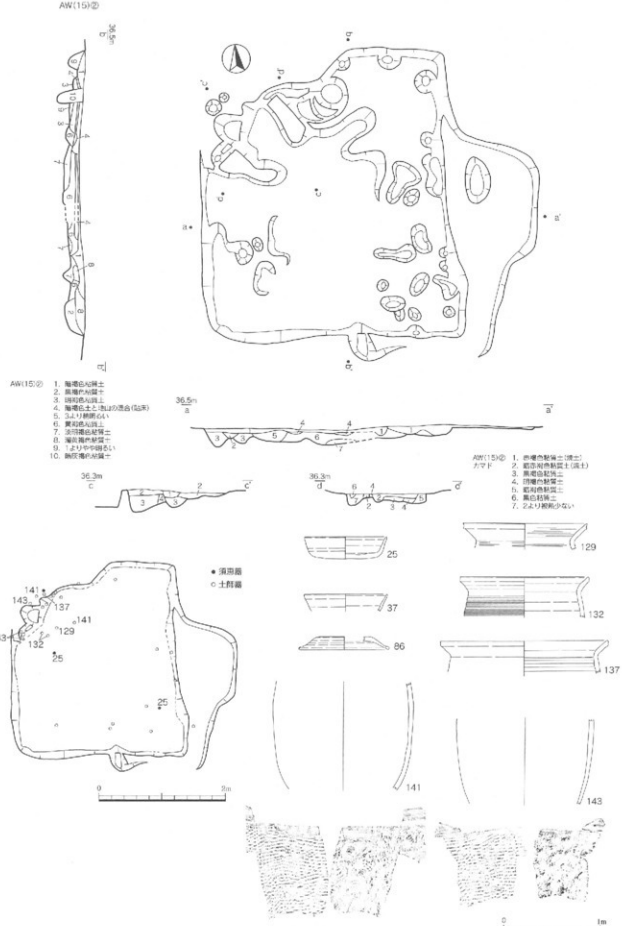
第10図　遺構実測図　掘立柱建物AW(15)⑨・⑩　(1/80)



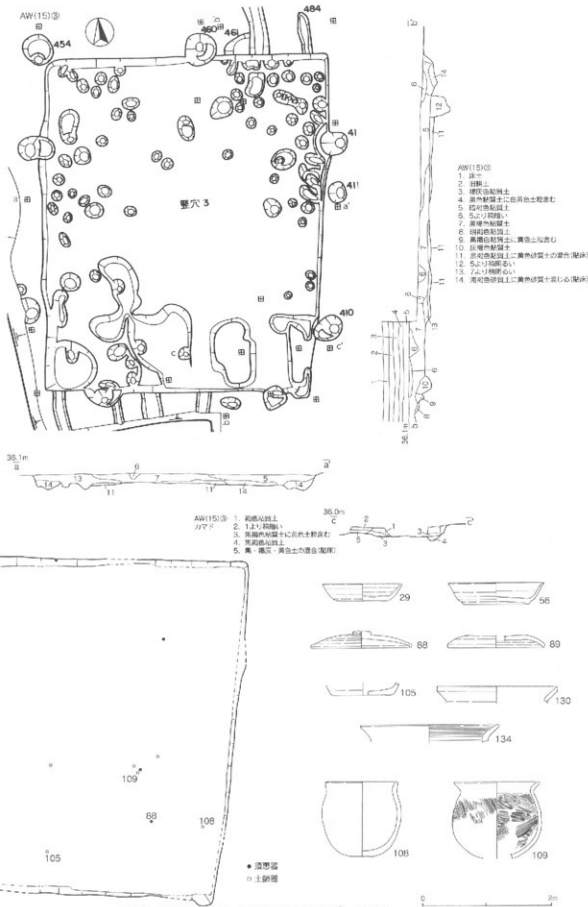
第11図　遺構実測図　掘立柱建物AW(15)⑪・⑫、竪穴建物AW(12)①　(1/80、1/40)

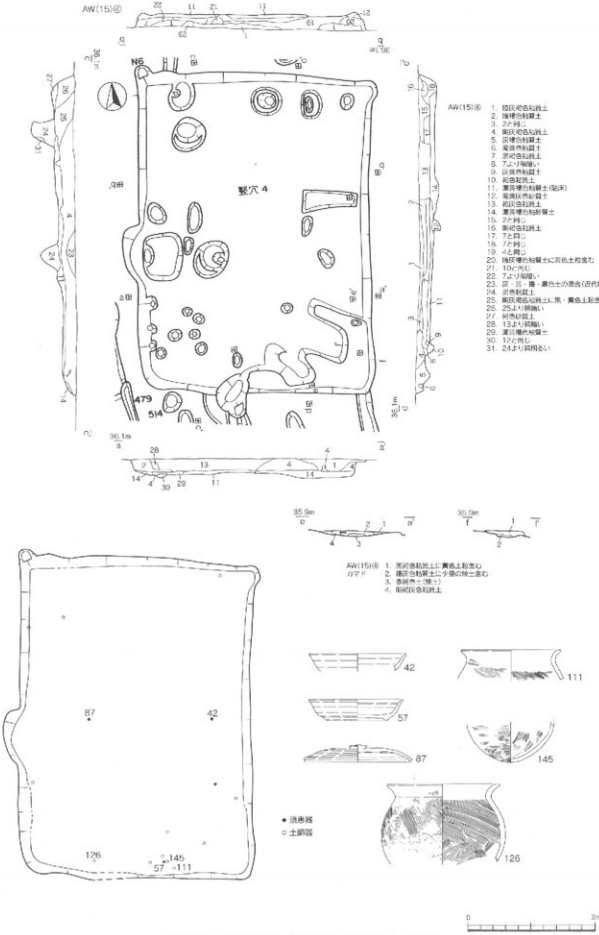


第12図　遺構実測図　竪穴建物AW(15)①　(1/40、1/80)

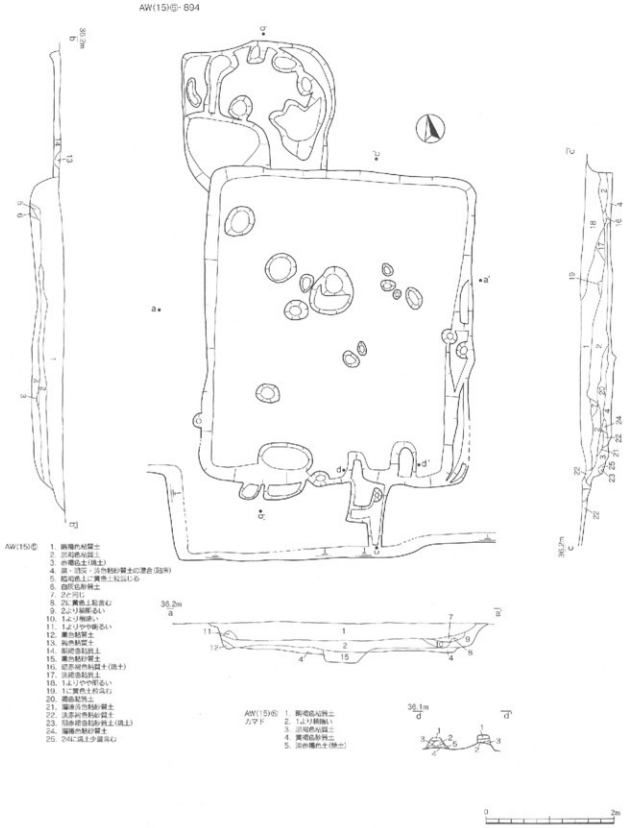


第13図　遺構実測図　竪穴建物AW(15)②　(1/40、1/60)

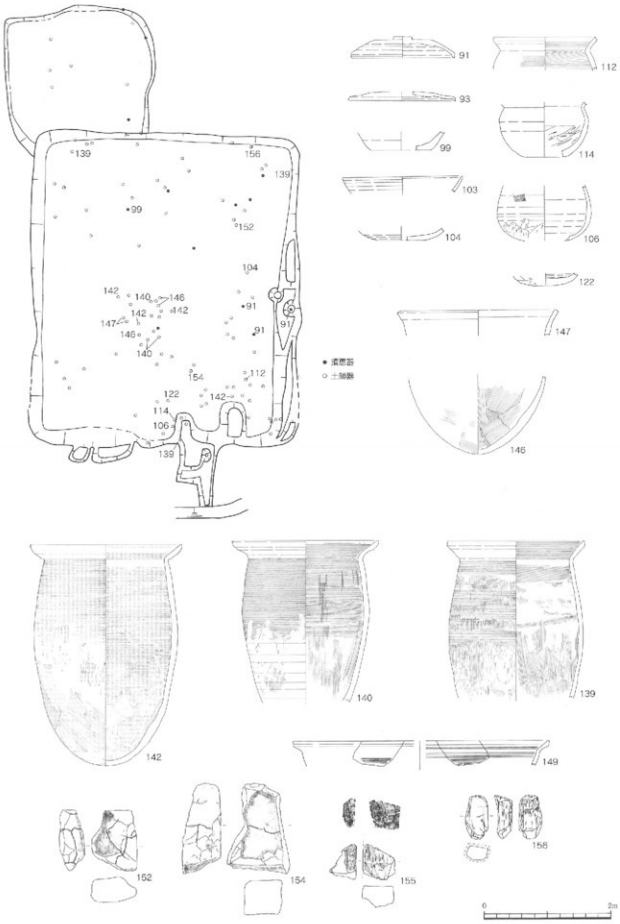

AW(15)③
竪穴 3
AW(15)③
1. 表土
2. 攪乱
3. 褐灰色粘質土
4. 黒色粘質土に白黄色土粒混む
5. 灰褐色粘質土
6. 5.より明暗い
7. 黒褐色粘質土
8. 明褐色粘質土
9. 黒褐色粘質土に黄色土塊混む
10. 灰褐色粘質土
11. 灰褐色粘質土に黄色砂質土の混合(貼床)
12. 5.より明暗やい
13. 7.より明暗やい
14. 灰褐色砂質土に黄色砂質土混む(貼床)
AW(15)③
カマド
1. 褐色灰質土
2. 1.より明暗い
3. 黒褐色粘質土に白色土粒混む
4. 黒褐色灰質土
5. 黒・褐灰・黄色土の混合(焼床)
29
56
88
89
105
130
134
106
109
108
88
105
156
109
● 遺物出土位置
□ 土師器
第14図　遺構実測図　竪穴建物AW(15)③　(1/60)



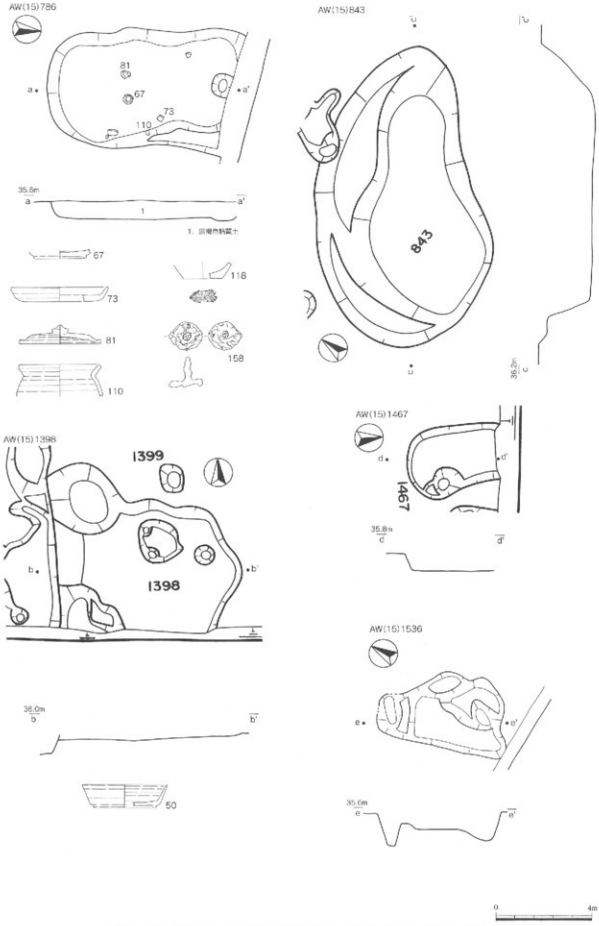
第15図　遺構実測図　竪穴建物AW(15)④　(1/60)



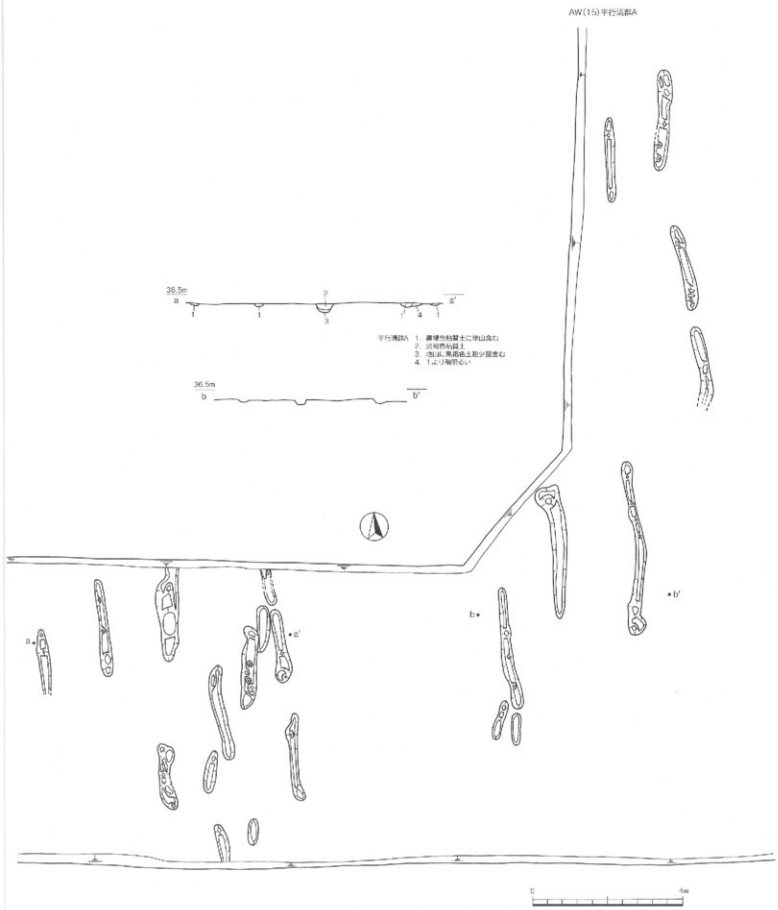
第16図　遺構実測図　竪穴建物AW(15)⑤(1)　(1/60)



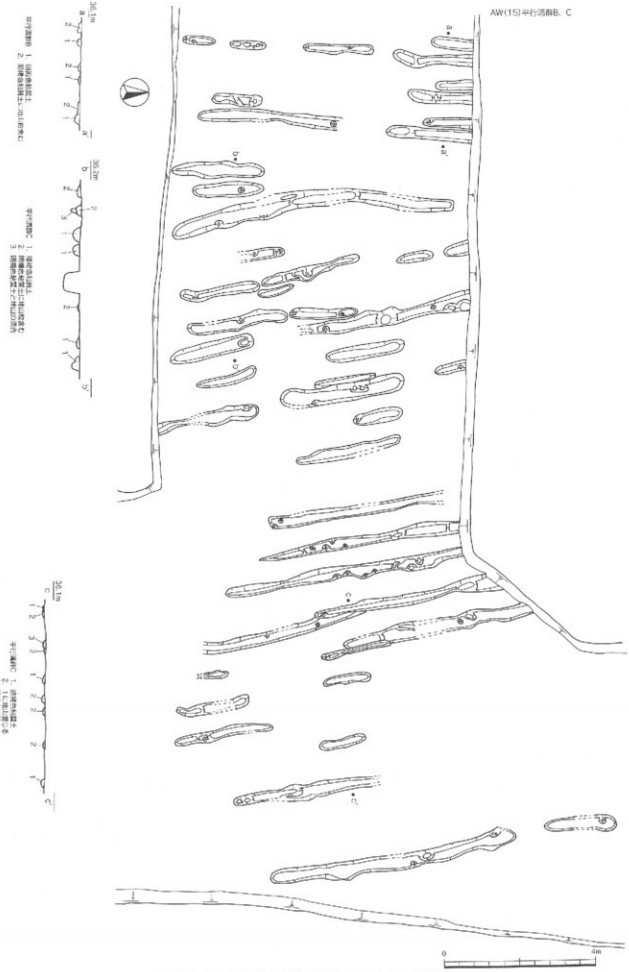
第17図　遺構実測図　竪穴建物AW(15)⑤(2)　(1/60)



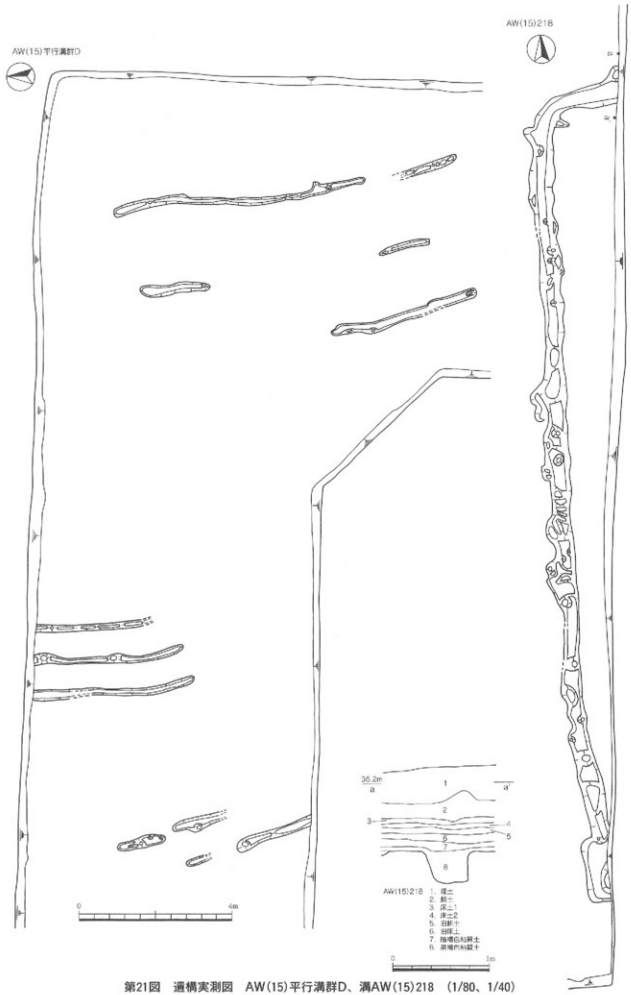
第18図　遺構実測図　土坑AW(15)786・843・1398・1467・1536　(1/40)



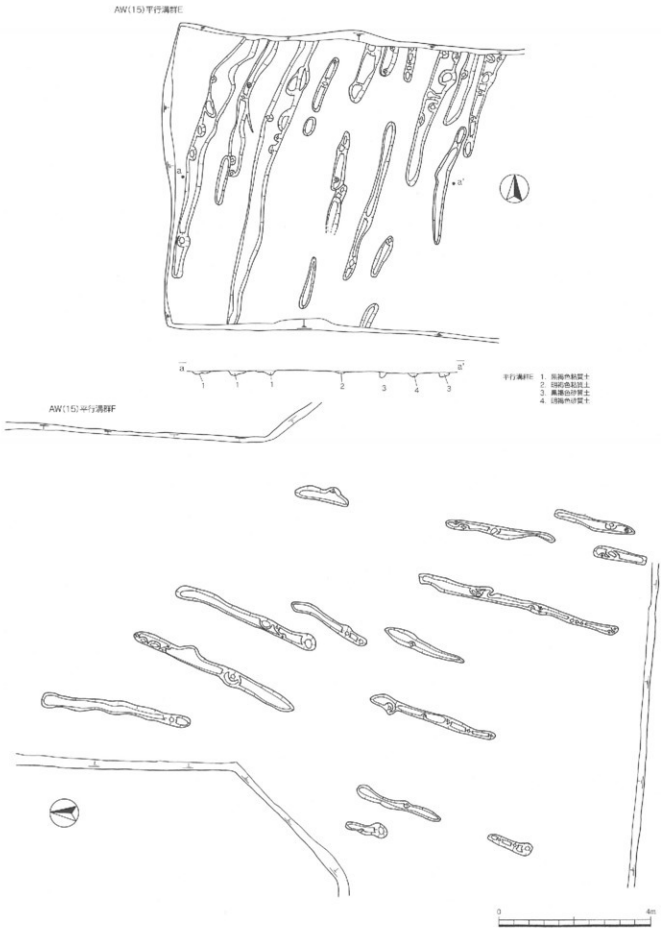
第19図　遺構実測図　AW(15)平行溝群A　(1/80)



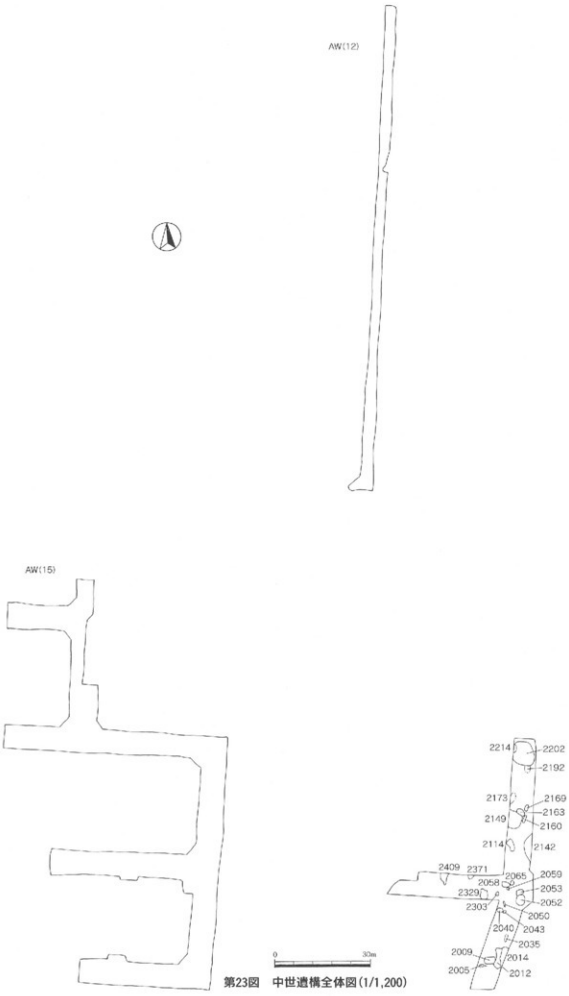
第20図　遺構実測図　AW(15)平行溝群B・C　(1/80)



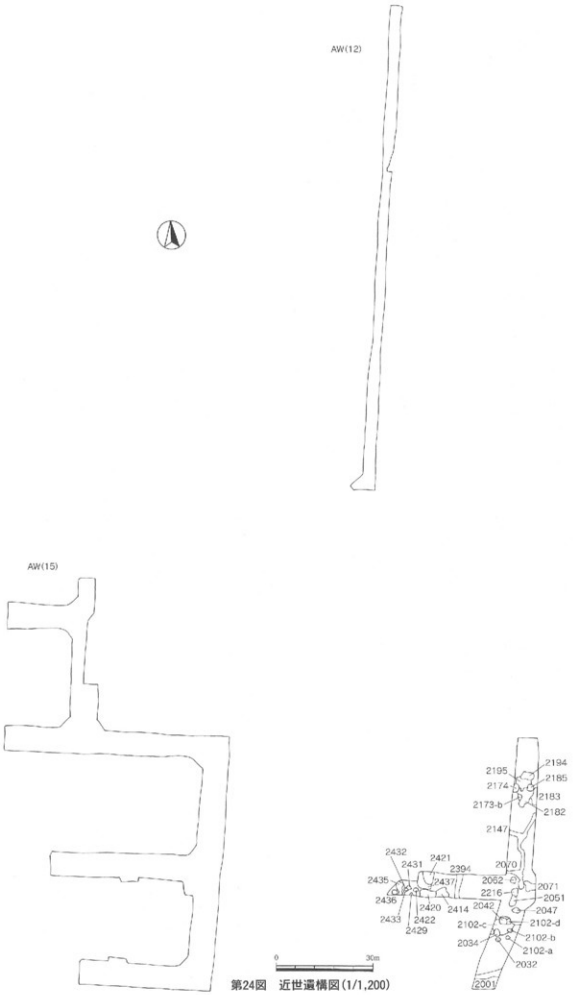
第21図　遺構実測図　AW(15)平行溝群D、溝AW(15)218　(1/80、1/40)



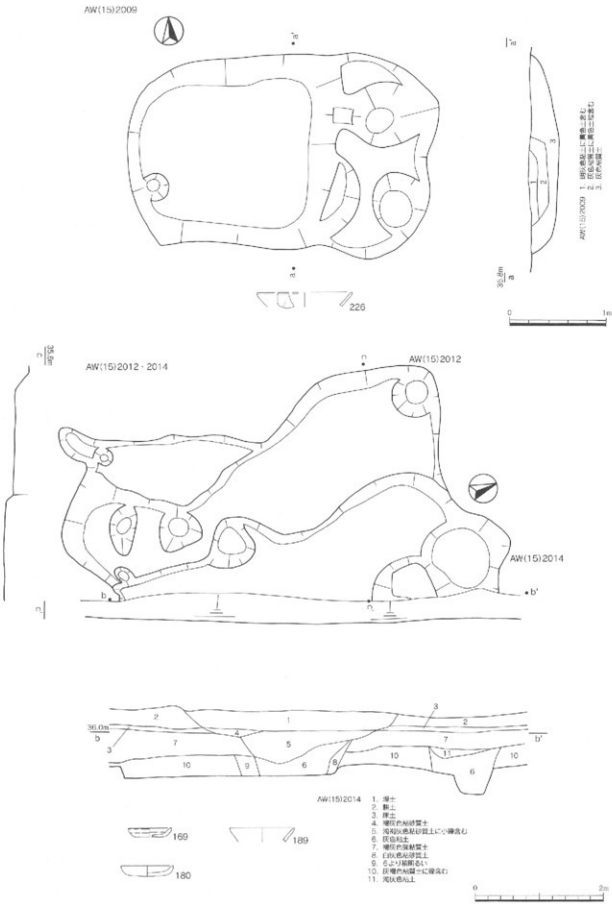
第22図　遺構実測図　AW(15)平行溝群E・F　(1/80)



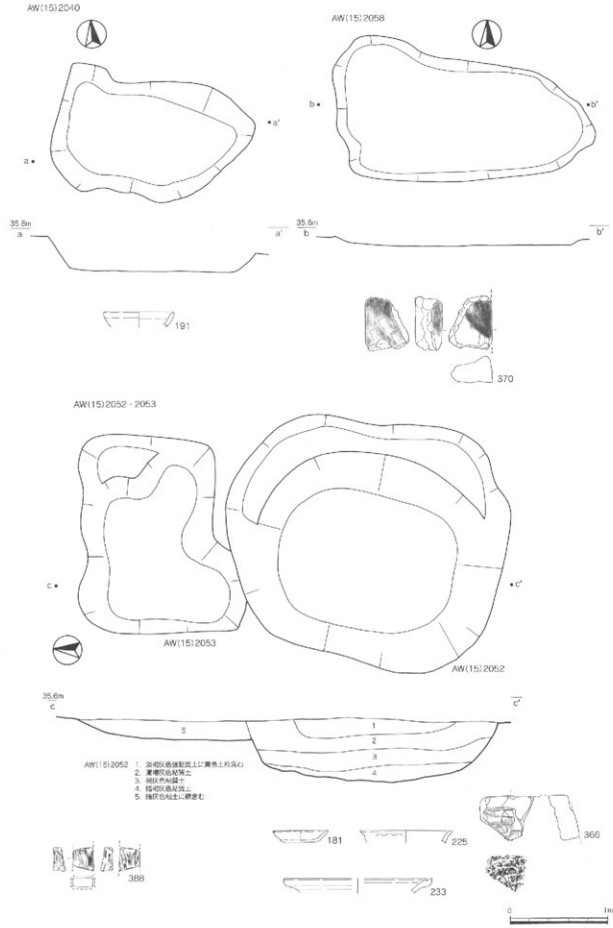
第23図　中世遺構全体図(1/1,200)



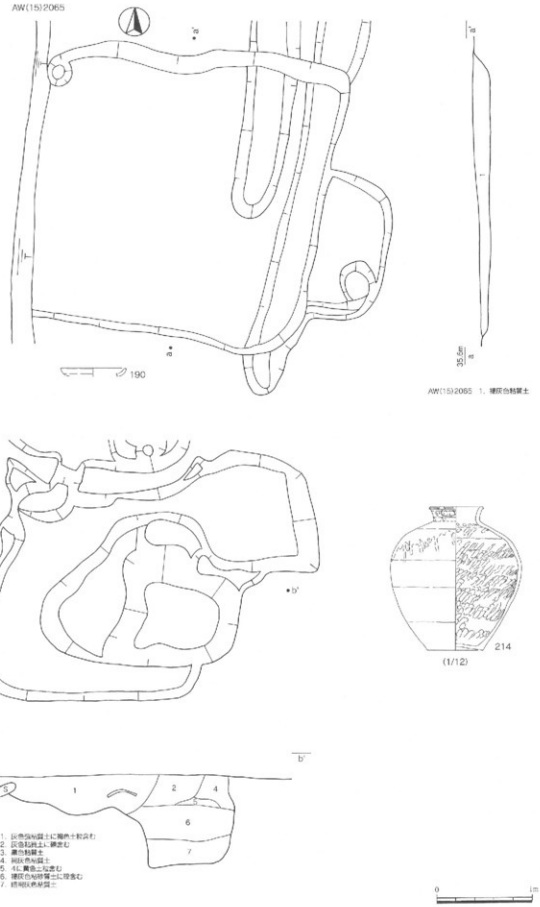
第24図　近世遺構図(1/1,200)



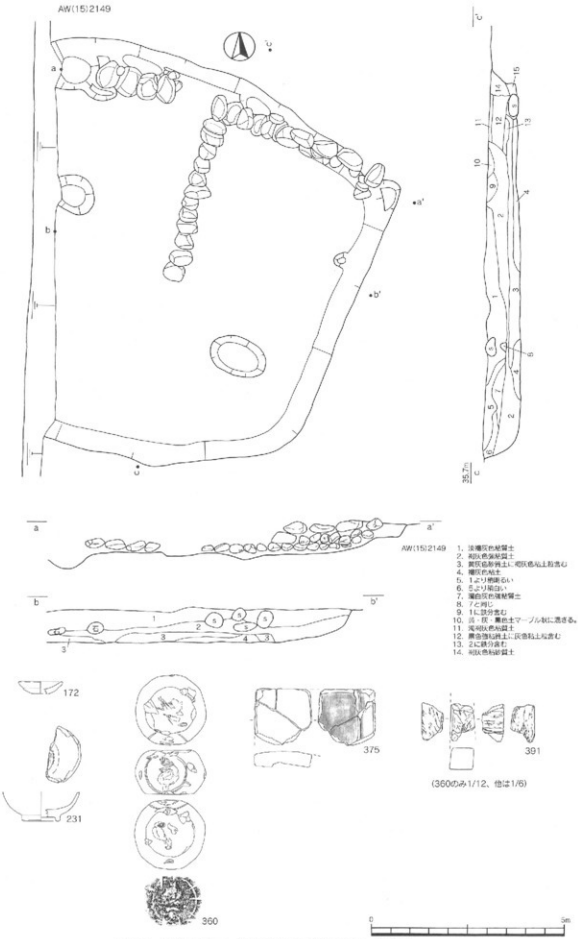
第25図　遺構実測図　竪穴状遺構AW(15)2009・2012・2014　(1/40、1/60)



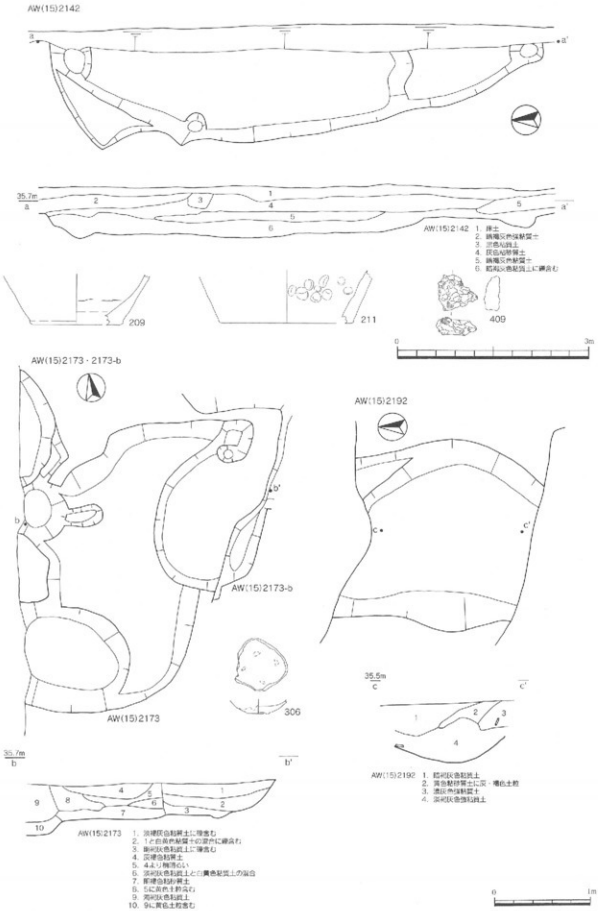
第26図　遺構実測図　竪穴状遺構AW(15)2040・2052・2053・2058　(1/40)



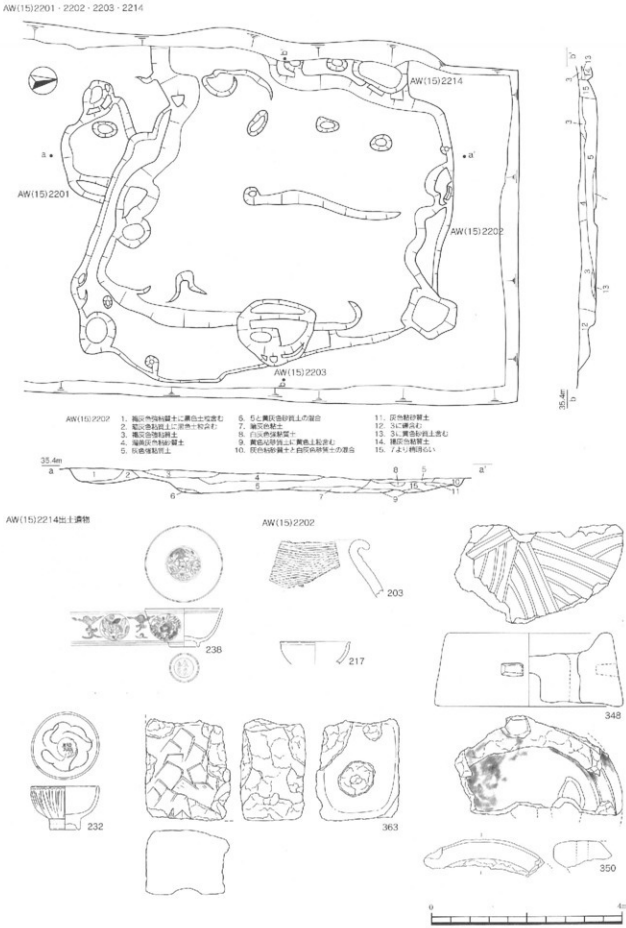
第27図　遺構実測図　竪穴状遺構AW(15)2065・2114　(1/40)



第28図　遺構実測図　竪穴状遺構AW(15)2149　(1/50)

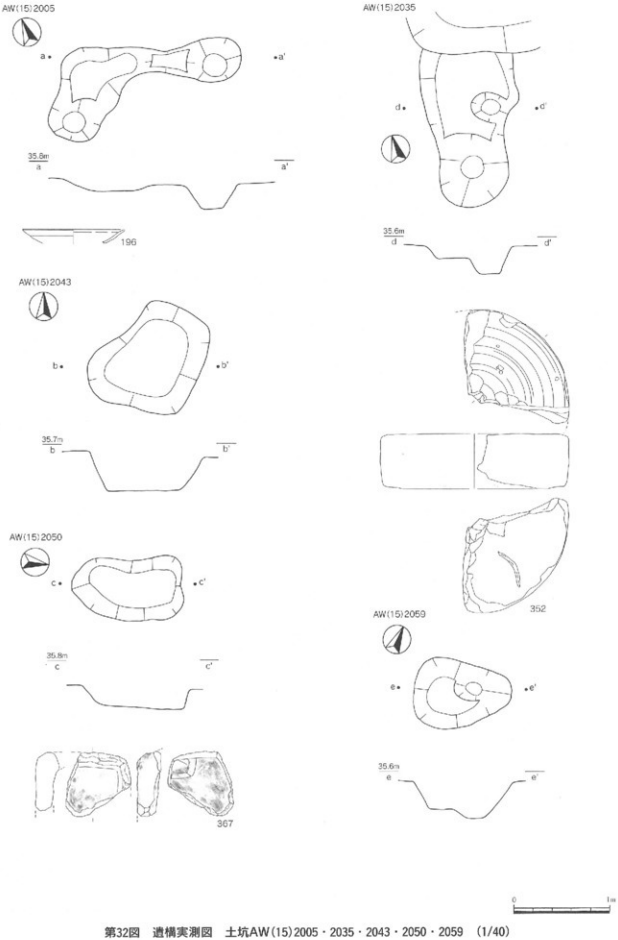


第29図　遺構実測図　竪穴状遺構AW(15)2142・2173・2173－b・2192　(1/60、1/40)

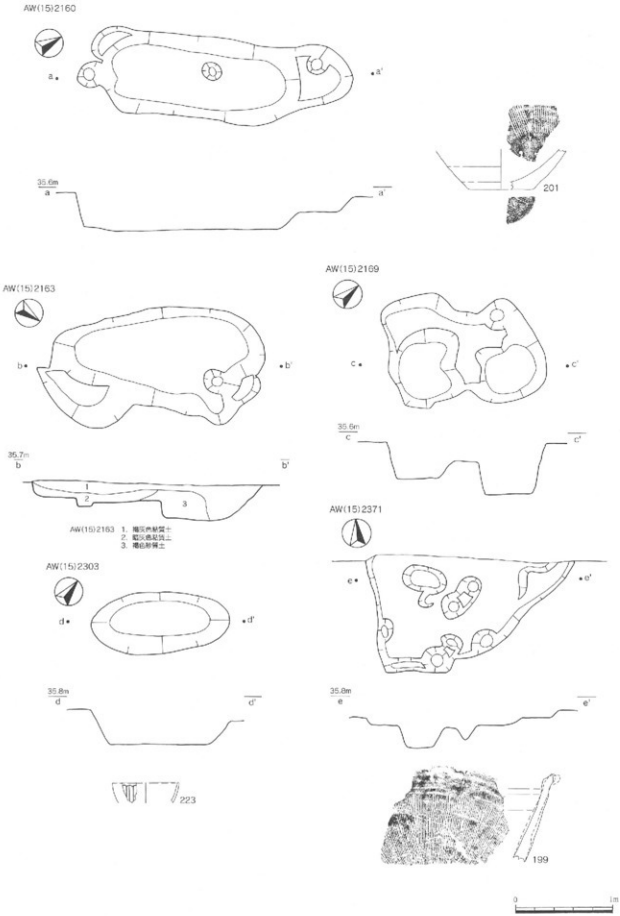


第30図　遺構実測図　竪穴状遺構AW(15)2202、土坑AW(15)2201・2203・2214　(1/80)

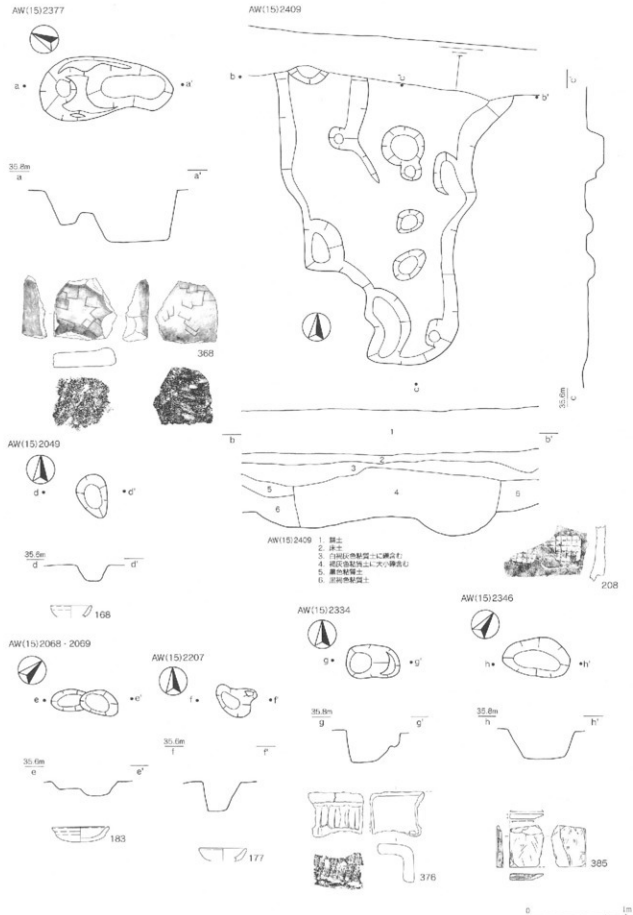
第31図　遺構実測図　竪穴状遺構AW(15)2329　(1/40)



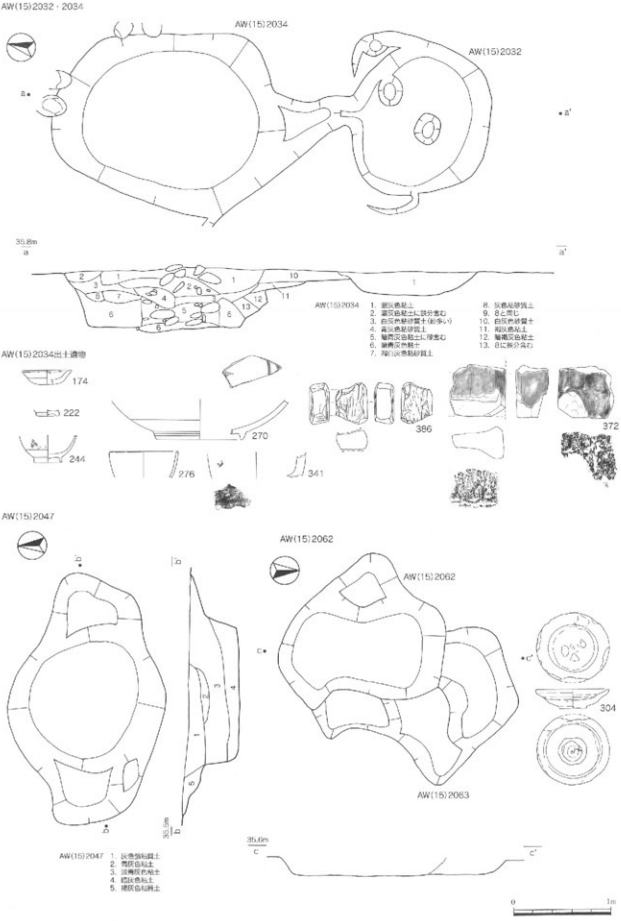
第32図　遺構実測図　土坑AW(15)2005・2035・2043・2050・2059　(1/40)



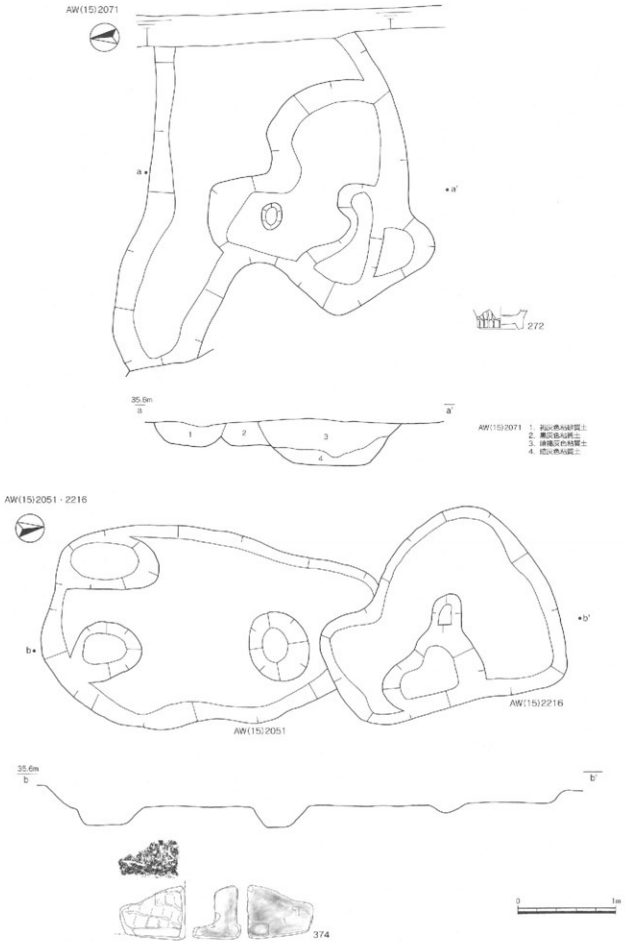
第33図　遺構実測図　土坑AW(15)2160・2163・2169・2303・2371　(1/40)



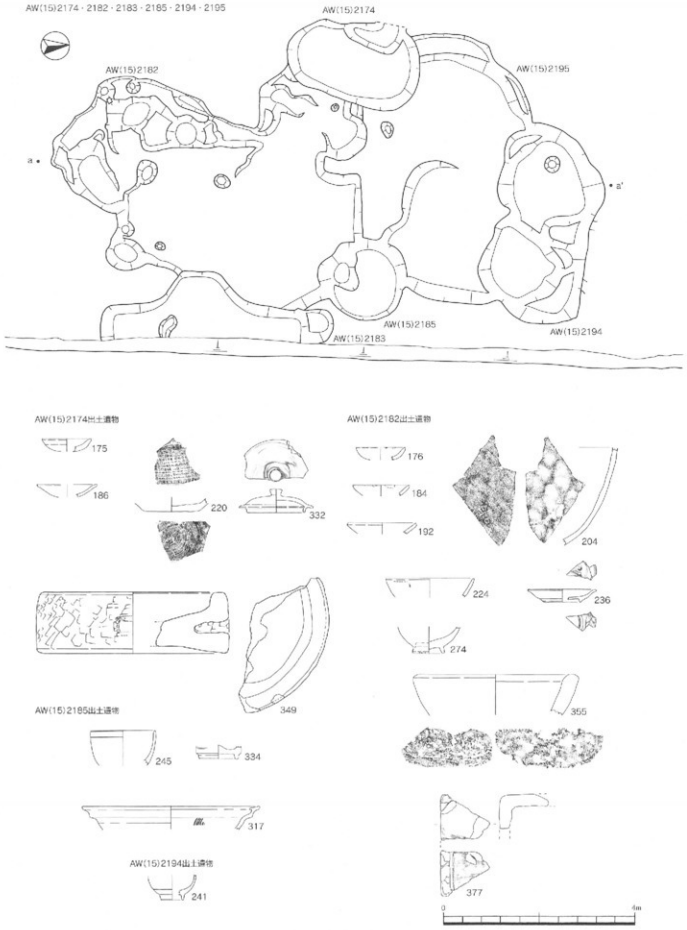
第34図　遺構実測図　土坑AW(15)2377・2409、ピットAW(15)2049・2068・2069・2207・2334・2346　(1/40)



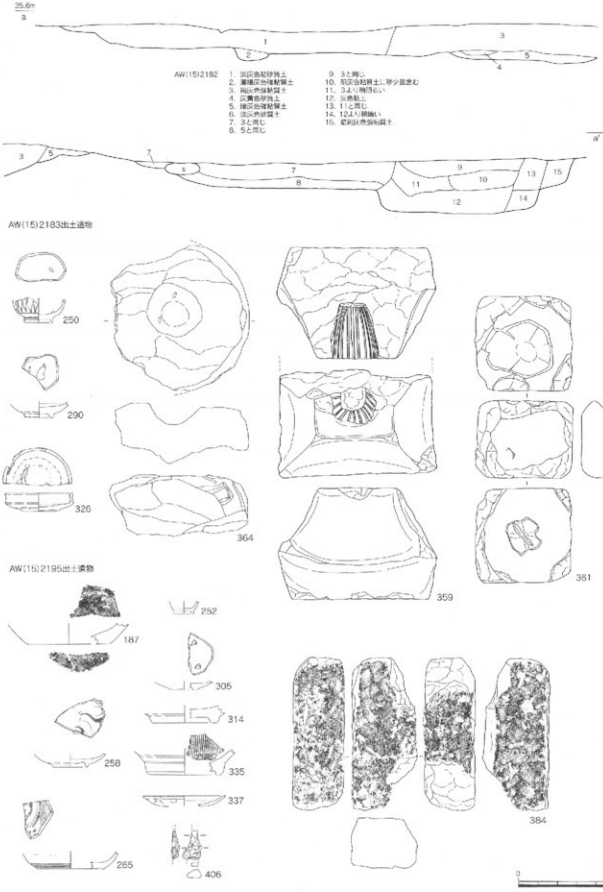
第35図　遺構実測図　土坑AW(15)2032・2034・2047・2062・2063　(1/40)



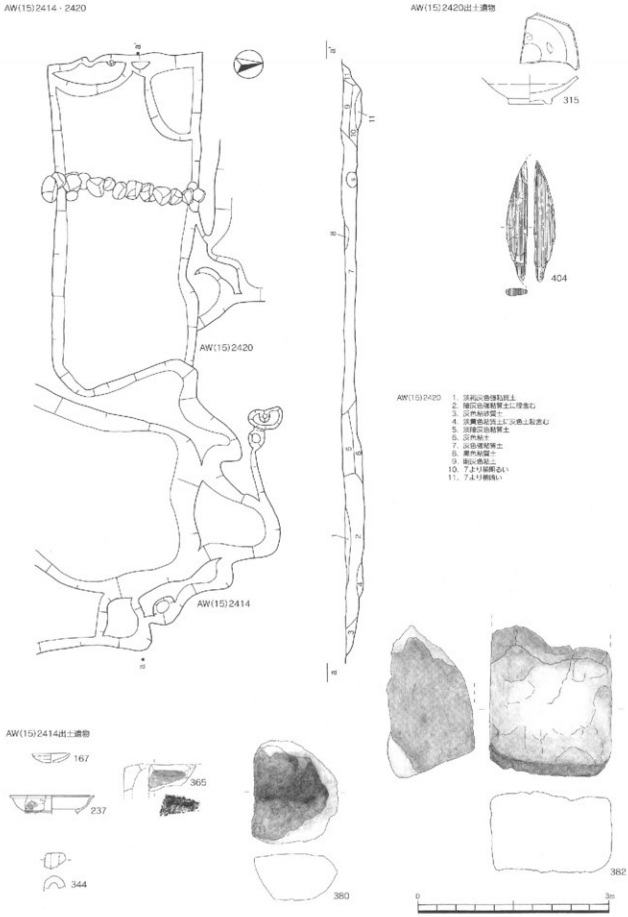
第36図　遺構実測図　土坑AW(15)2071・2051・2216　(1/40)



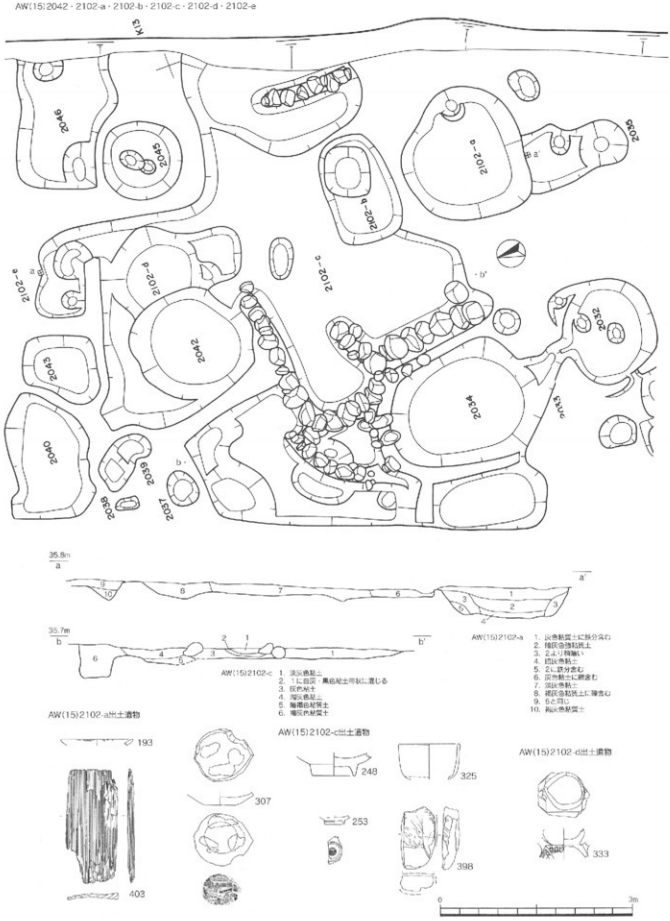
第37図　遺構実測図　土坑AW(15)2174・2182・2183・2185・2194・2195(1)　(1/80)



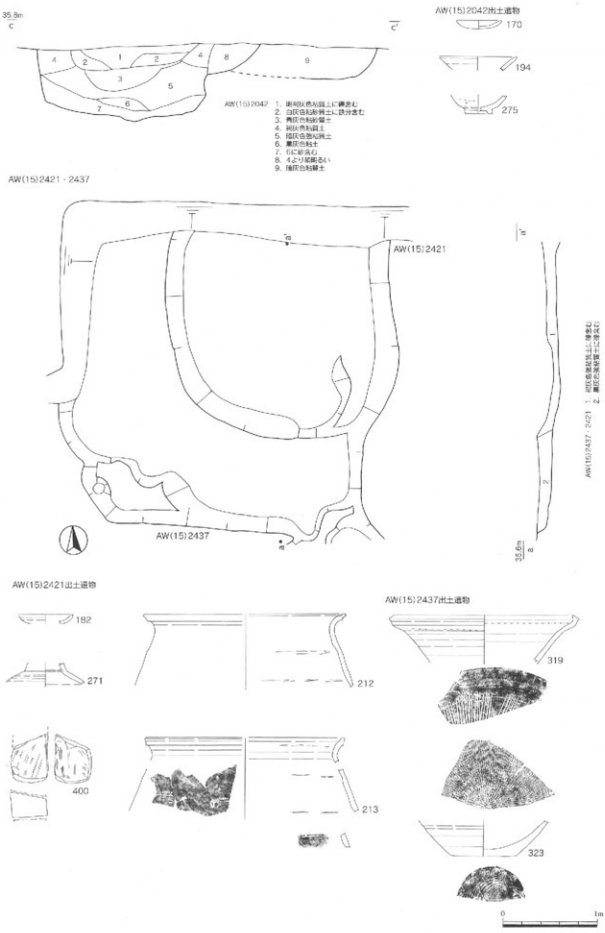
第38図　遺構実測図　土坑AW(15)2174・2182・2183・2185・2194・2195(2)　(1/40)



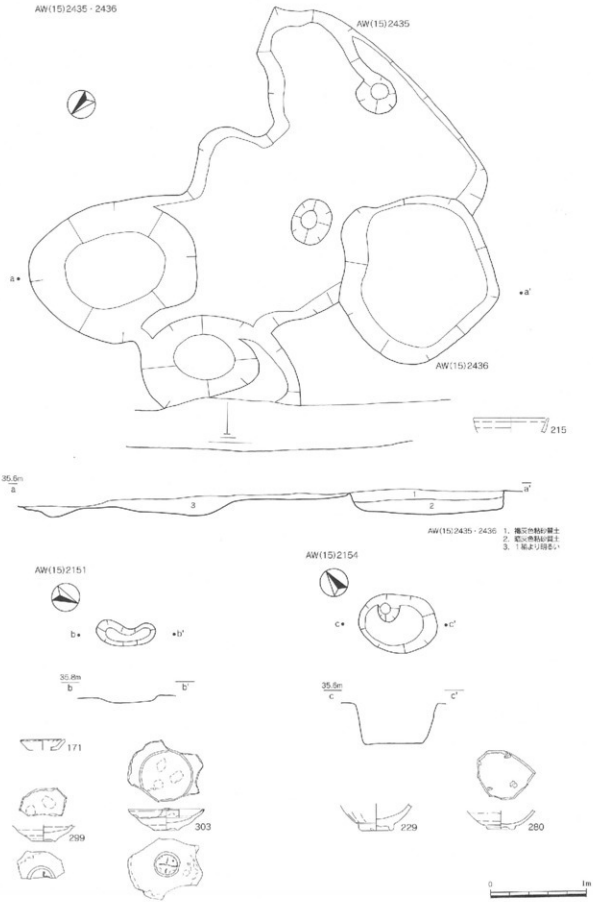
第39図　遺構実測図　土坑AW(15)2414・2420　(1/60)



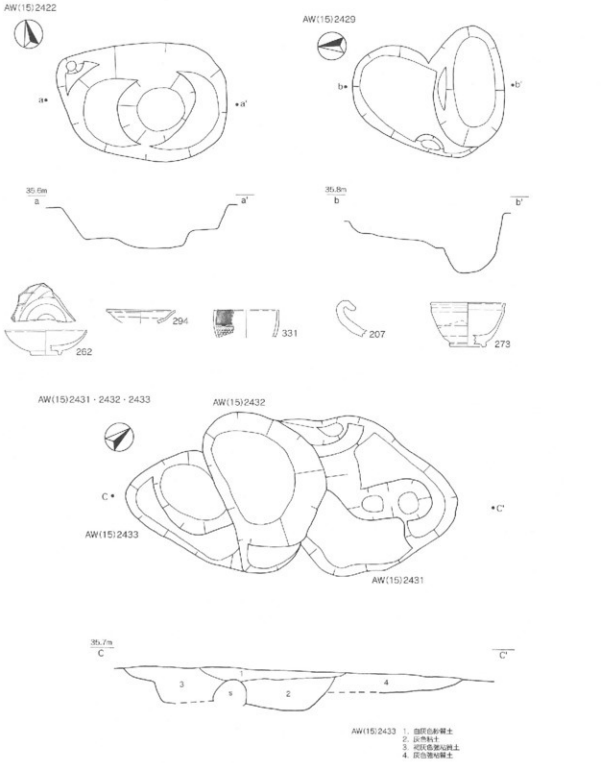
第40図　遺構実測図　土坑AW(15)2042・2102－a・2102－b・2102－c・2102－d・2102－e　(1/60)



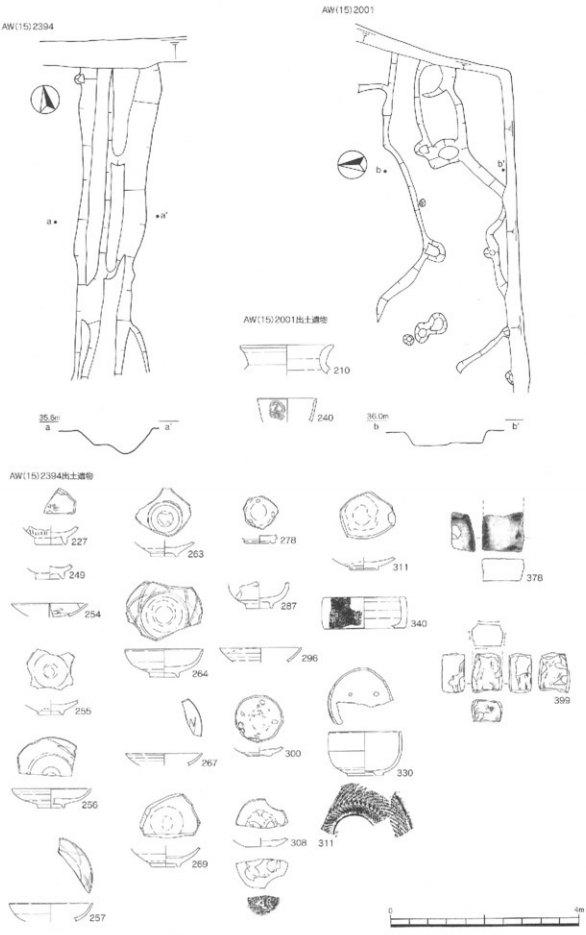
第41図　遺構実測図　土坑AW(15)2421・2437　(1/40)



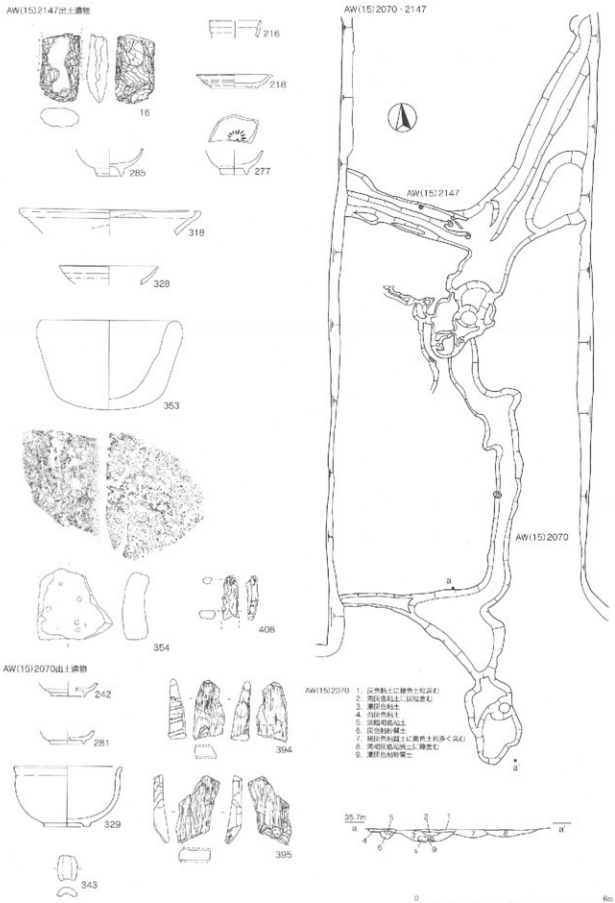
第42図　遺構実測図　土坑AW(15)2435・2436、ピットAW(15)2151・2154　(1/40)



第43図　遺構実測図　土坑AW(15)2422・2429・2431・2432・2433　(1/40)

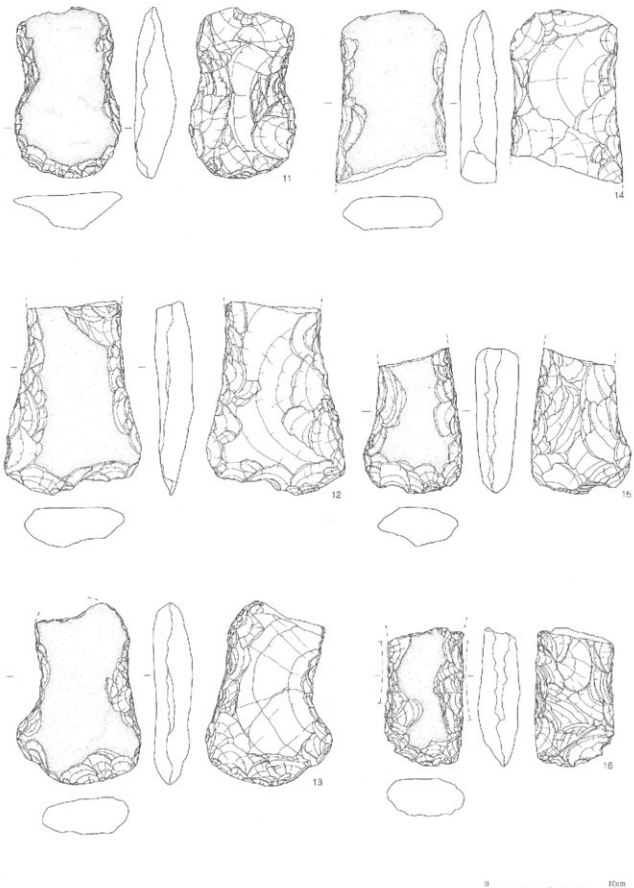


第44図　遺構実測図　溝AW(15)2001・2394　(1/80)

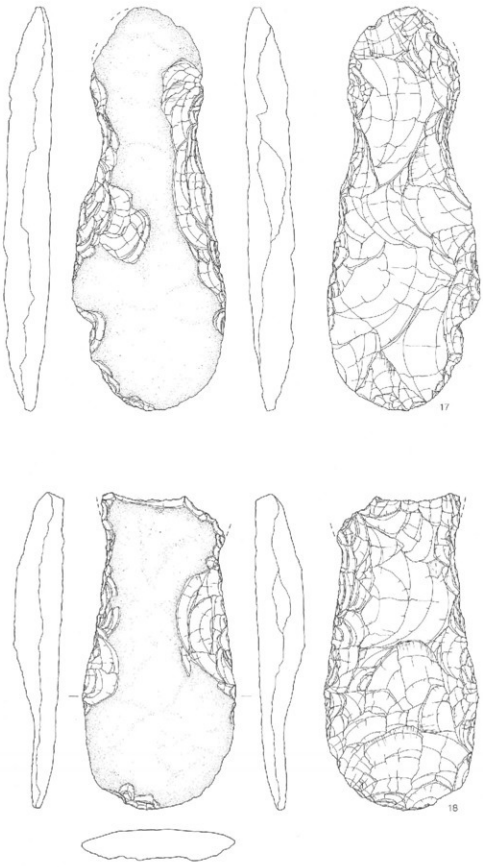


第45図　遺構実測図　溝AW(15)2070・2147　(1/120)

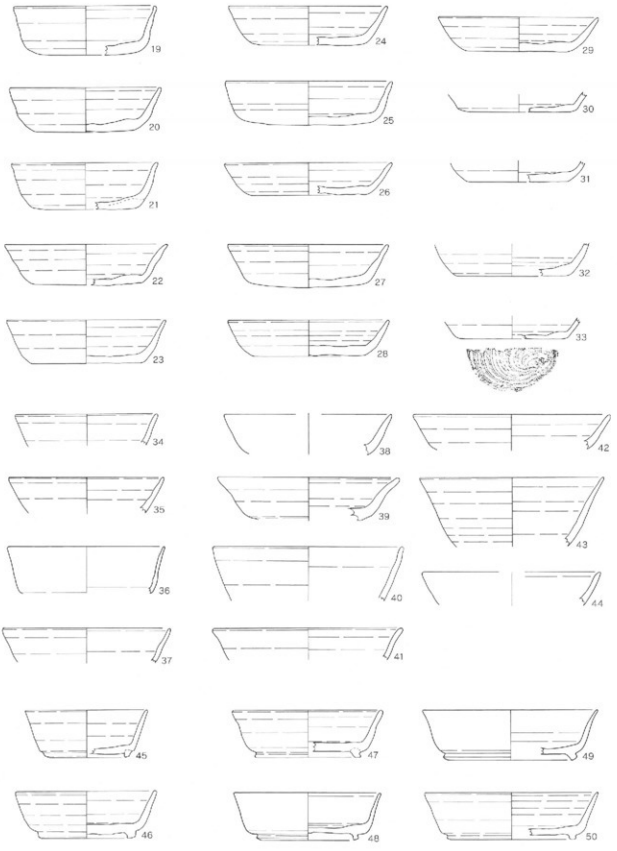
第46図　栗田遺跡（第12・15次）　遺物実測図（1）　（2/3、1/3）



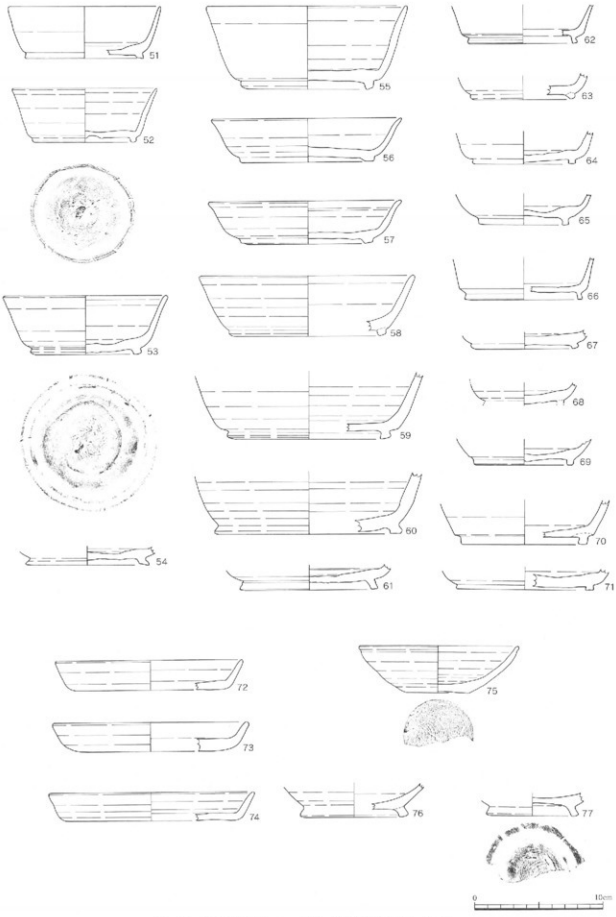
第47図　栗田遺跡（第12・15次）　遺物実測図(2)　(1/3)



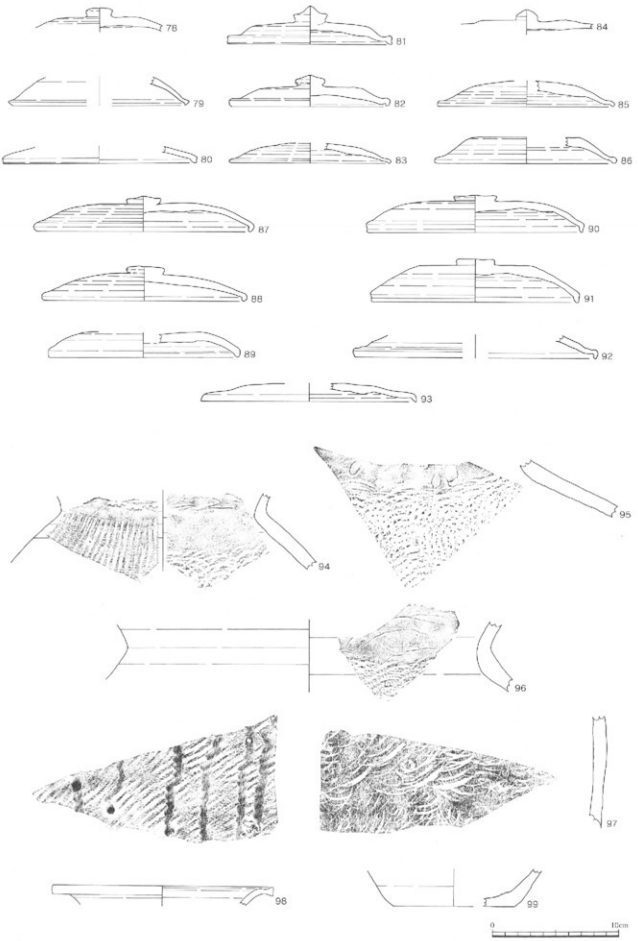
第48図　栗田遺跡（第12・15次）　遺物実測図（3）（1/3）



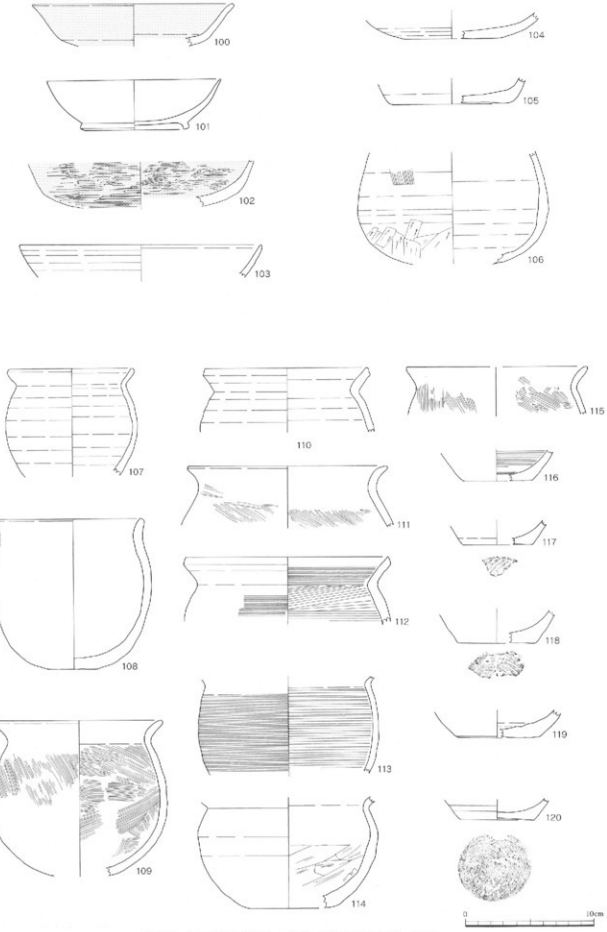
第49図　栗田遺跡（第12・15次）　遺物実測図(4)　(1/3)



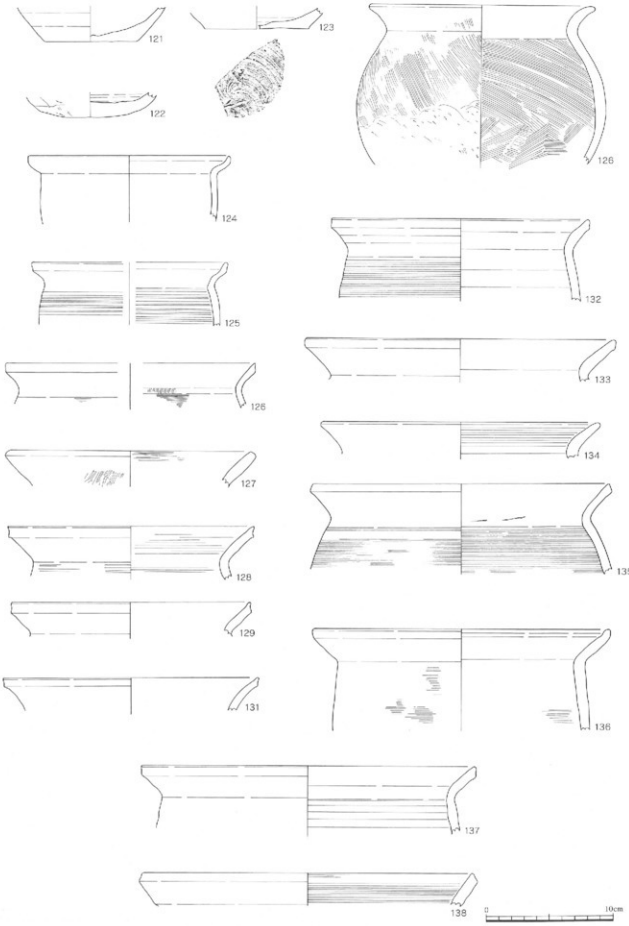
第50図　粟田遺跡(第12・15次)　遺物実測図(5)　(1/3)



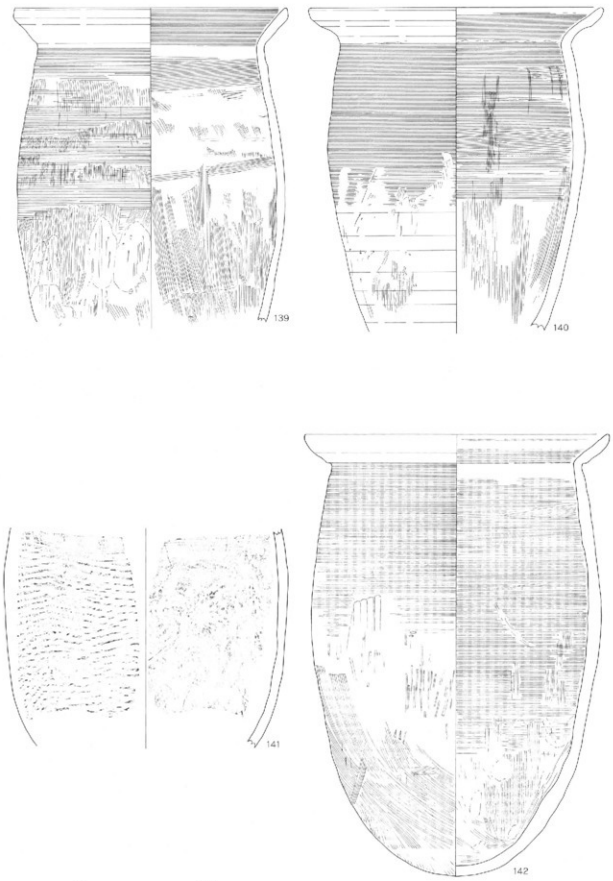
第51図　栗田遺跡（第12・15次）　遺物実測図(6)　(1/3)



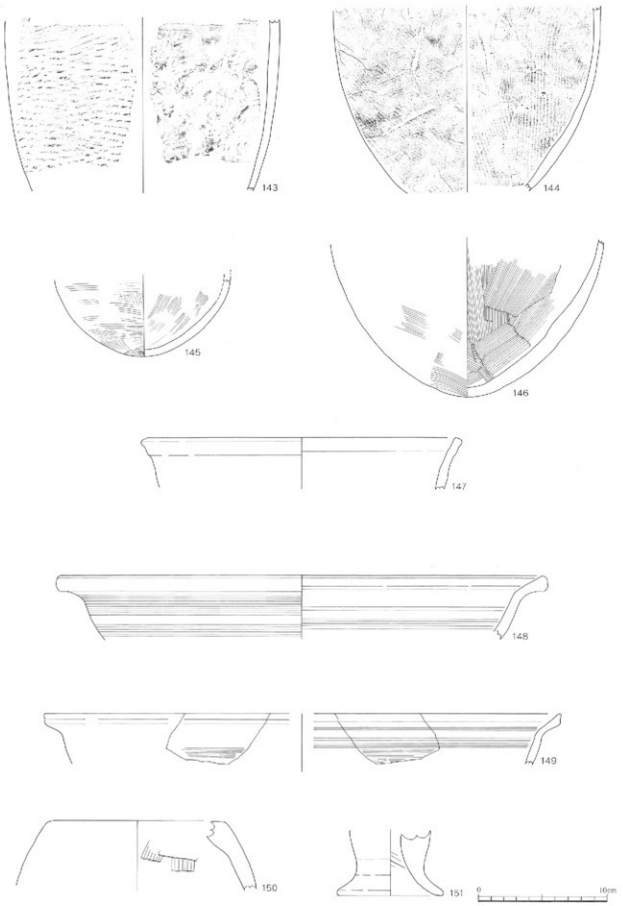
第52図　栗田遺跡(第12・15次)　遺物実測図(7)　(1/3)



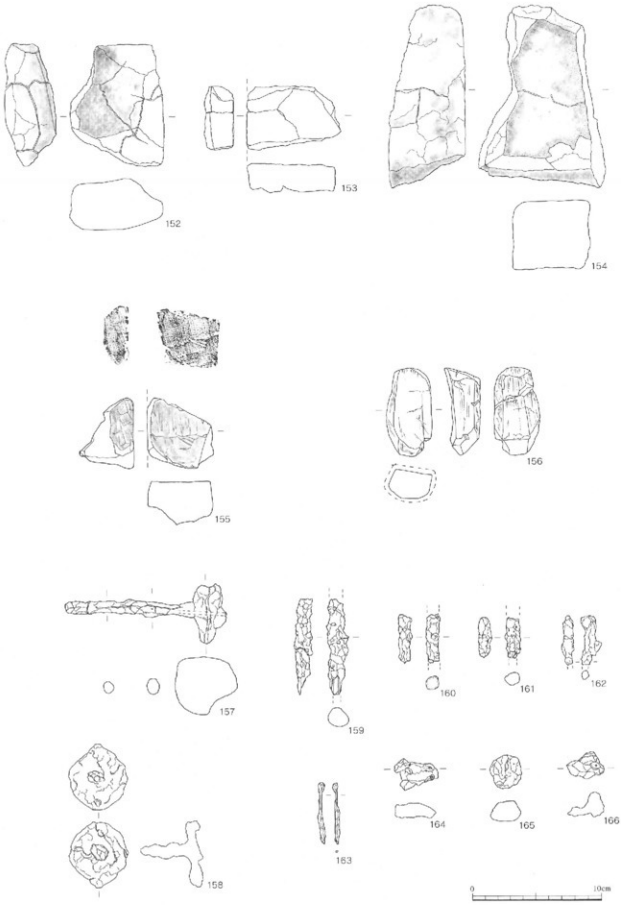
第53図　栗田遺跡（第12・15次）　遺物実測図(8)　(1/3)



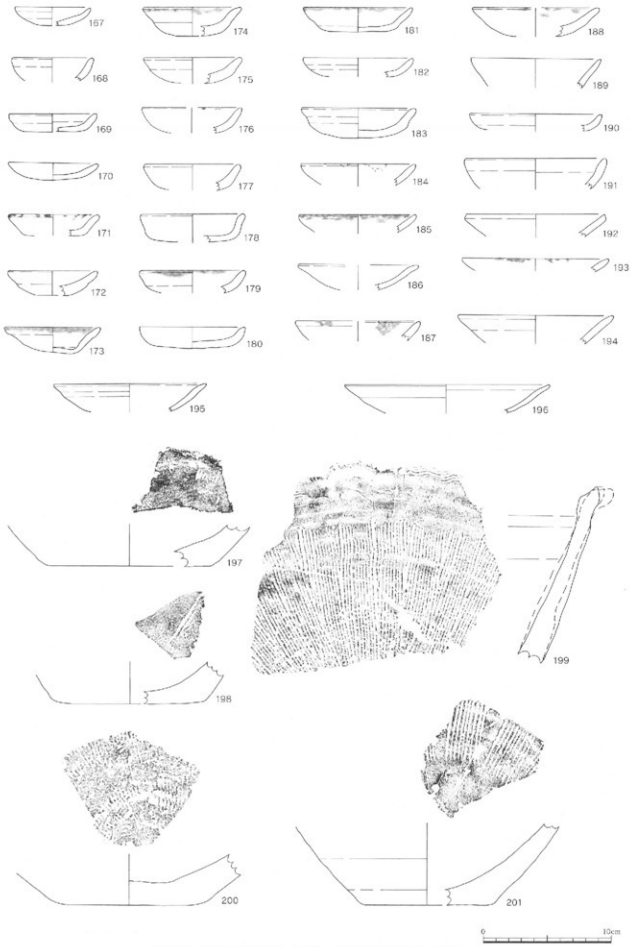
第54図　栗田遺跡（第12・15次）　遺物実測図（9）　（1/3）



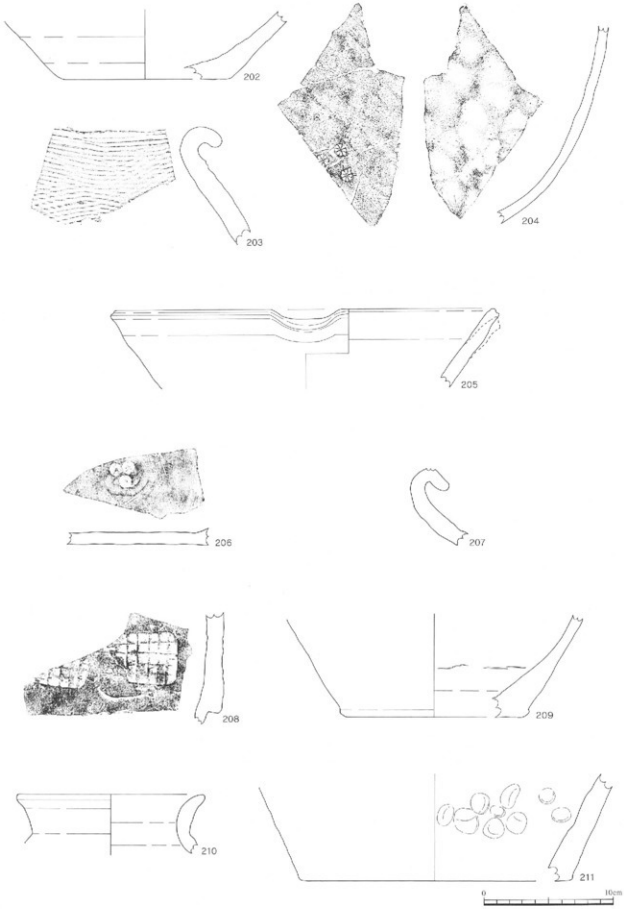
第55図　栗田遺跡（第12・15次）　遺物実測図(10)　(1/3)



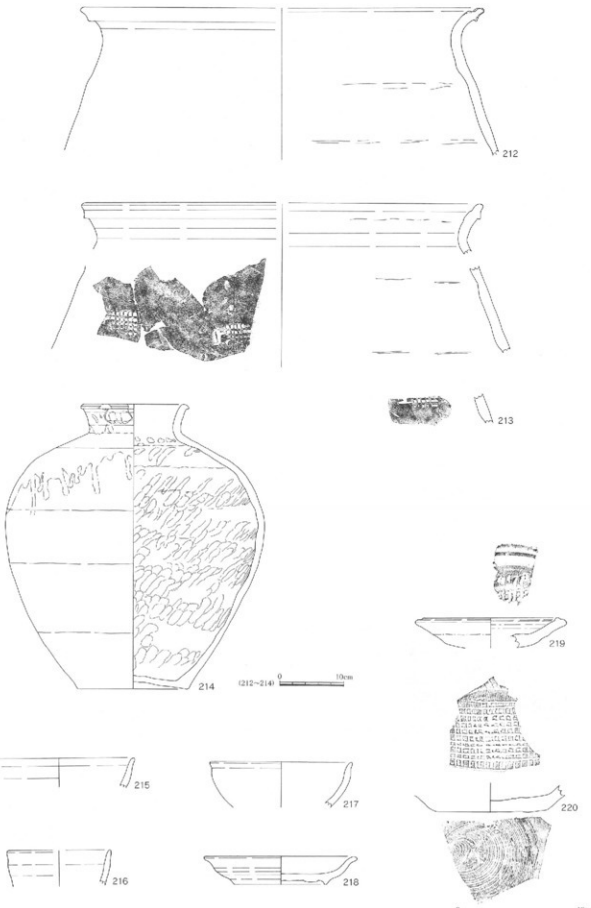
第56図　栗田遺跡(第12・15次)　遺物実測図(11)　(1/3)



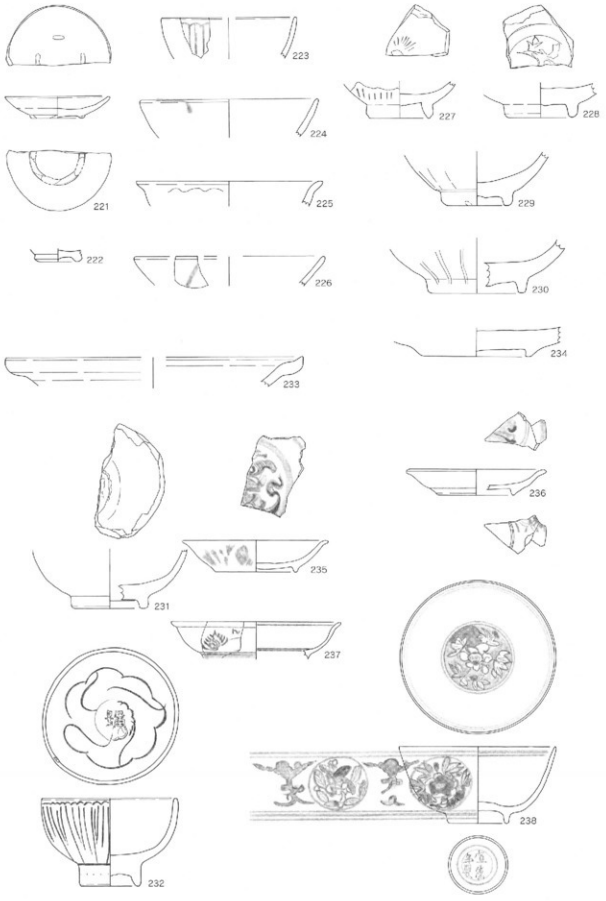
第57図　栗田遺跡（第12・15次）　遺物実測図(12)　(1/3)



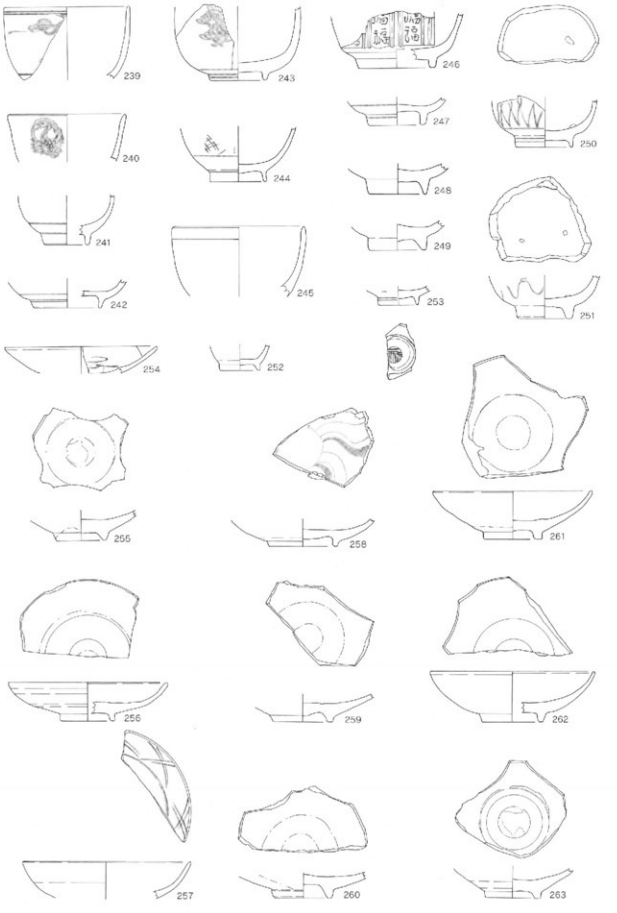
第58図　粟田遺跡(第12・15次)　遺物実測図(13)　(1/3)



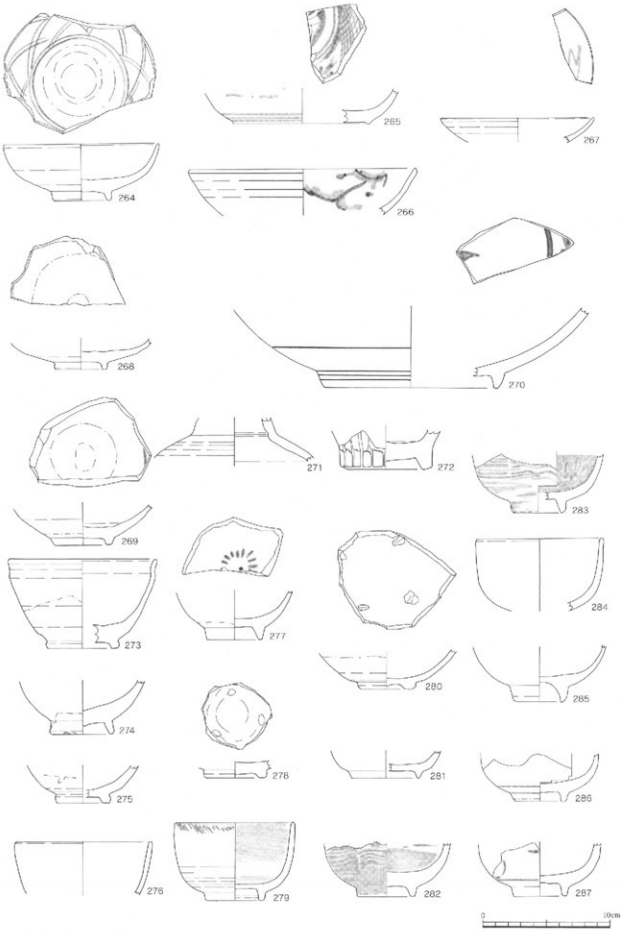
第59図　栗田遺跡(第12・15次)　遺物実測図(14)　(1/3、1/6)



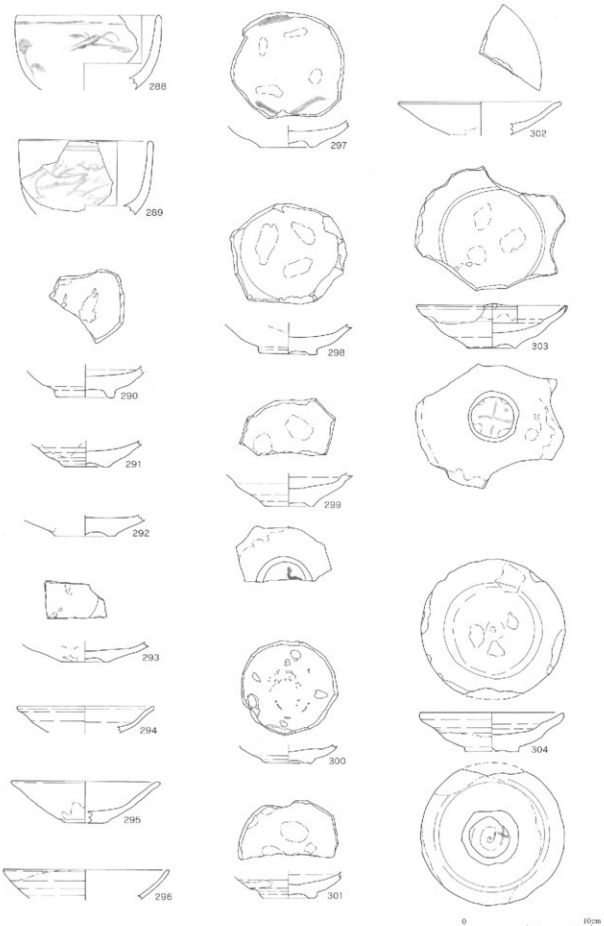
第60図　粟田遺跡（第12・15次）　遺物実測図(15)　(1/3)



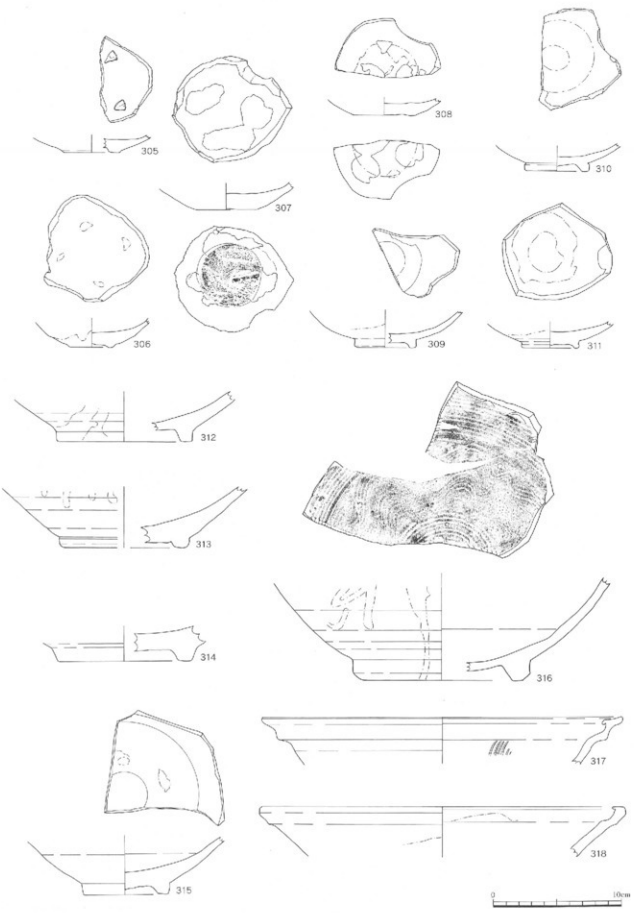
第61図　栗田遺跡（第12・15次）　遺物実測図(16)　(1/3)



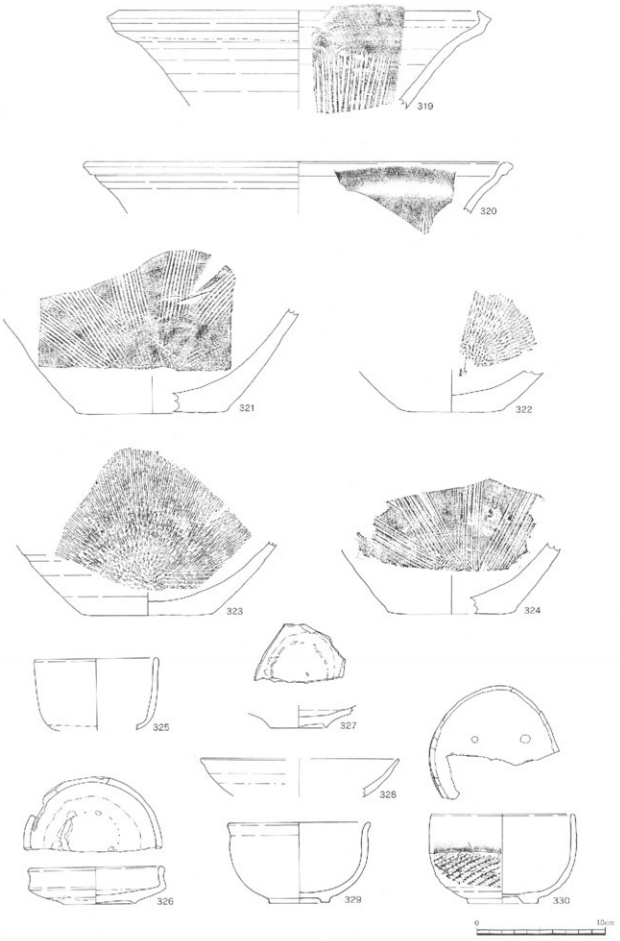
第62図　栗田遺跡（第12・15次）　遺物実測図(17)　(1/3)



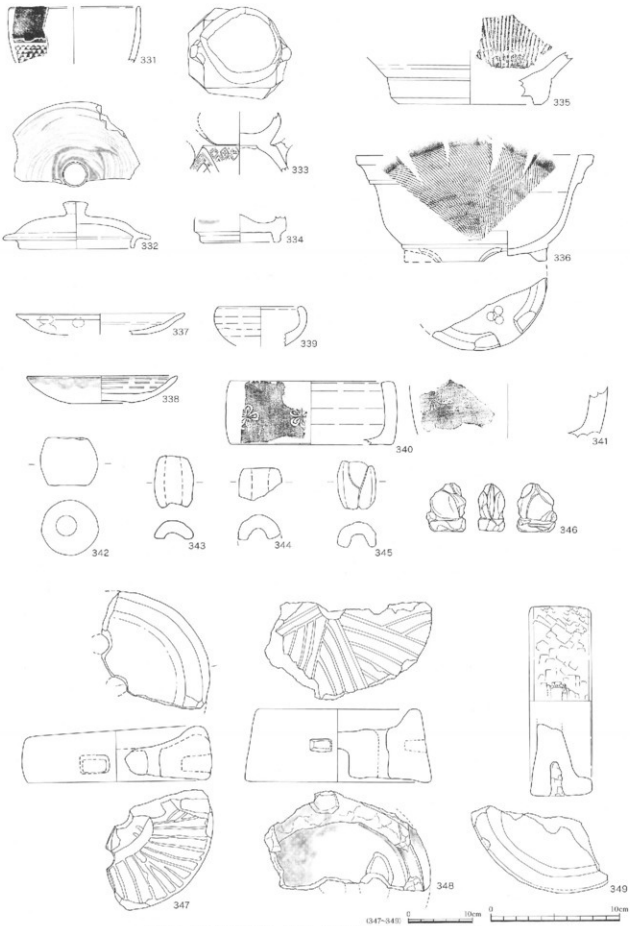
第63図　栗田遺跡(第12・15次)　遺物実測図(18)　(1/3)



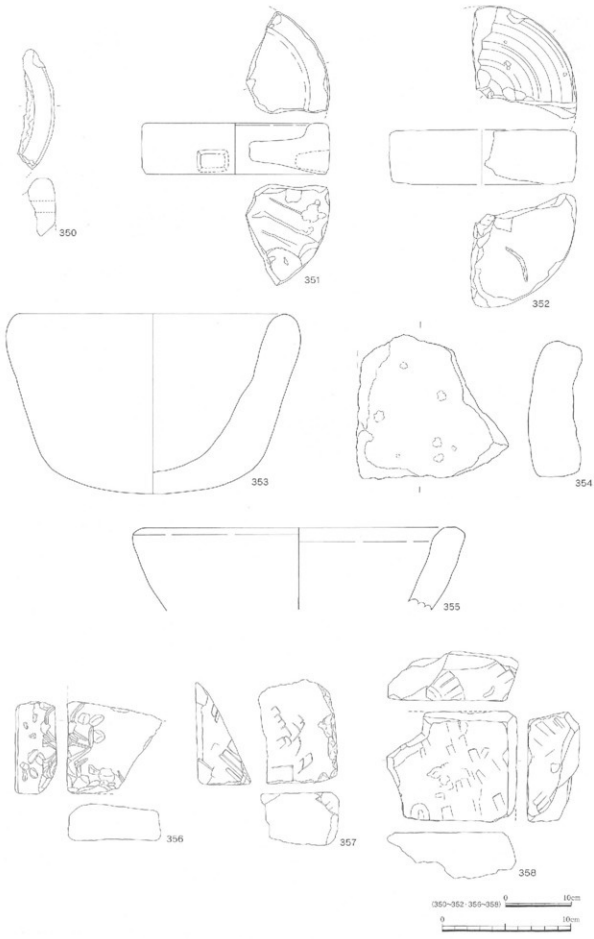
第64図　栗田遺跡（第12・15次）　遺物実測図(19)　(1/3)



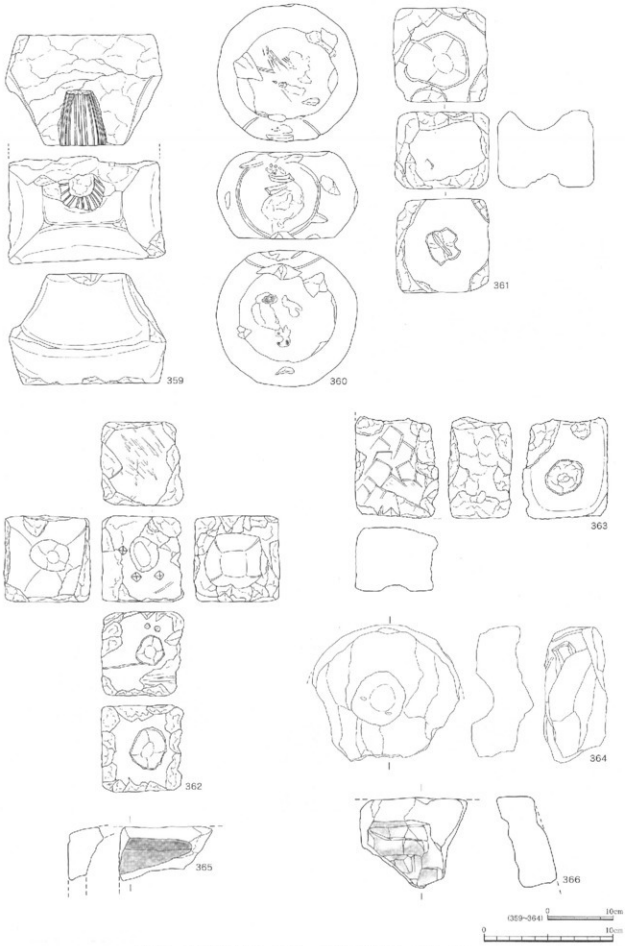
第65図　栗田遺跡(第12・15次)　遺物実測図(20)　(1/3)



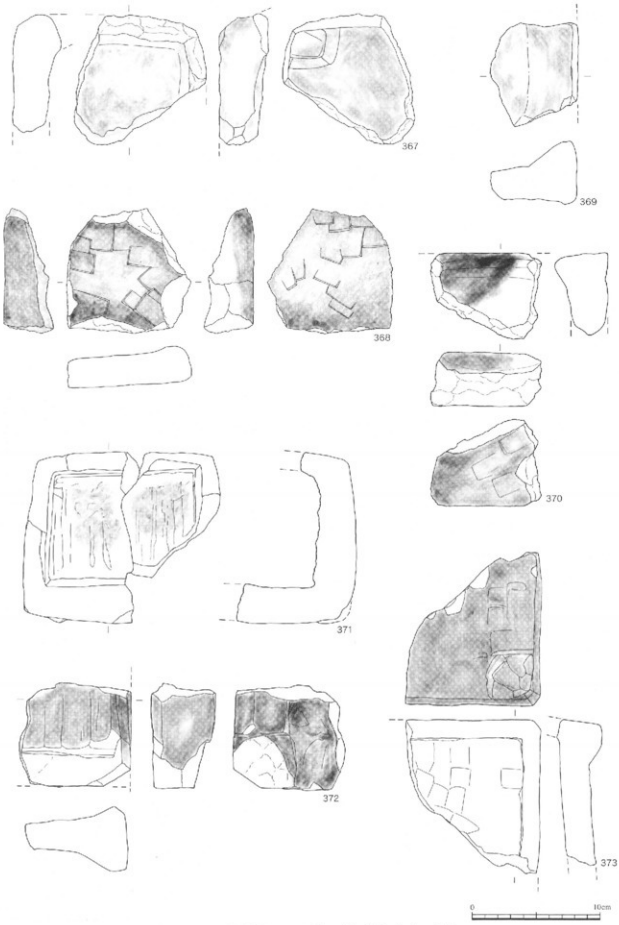
第66図　栗田遺跡（第12・15次）　遺物実測図(21)　(1/3、1/6)



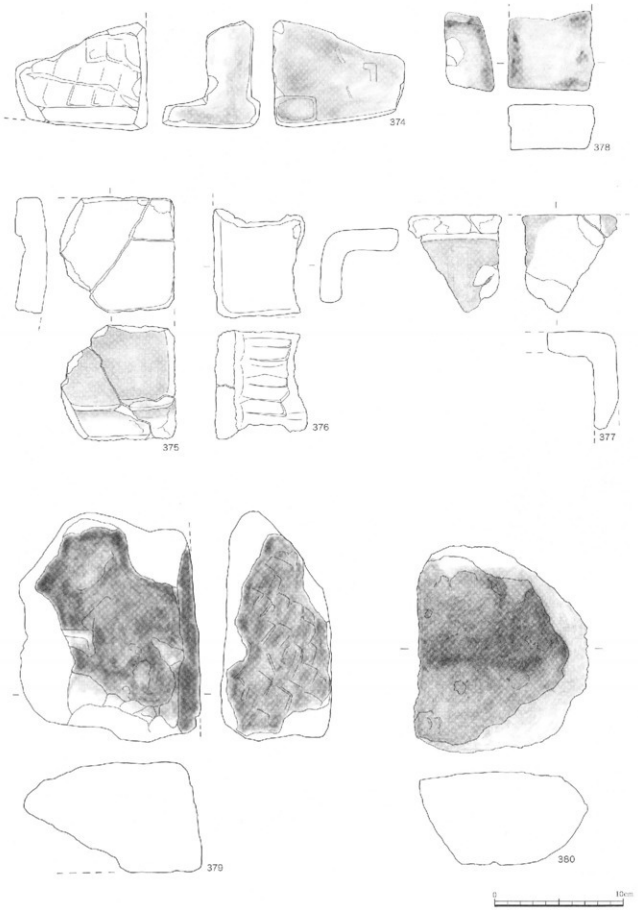
第67図　栗田遺跡（第12・15次）　遺物実測図(22)　(1/3、1/6)



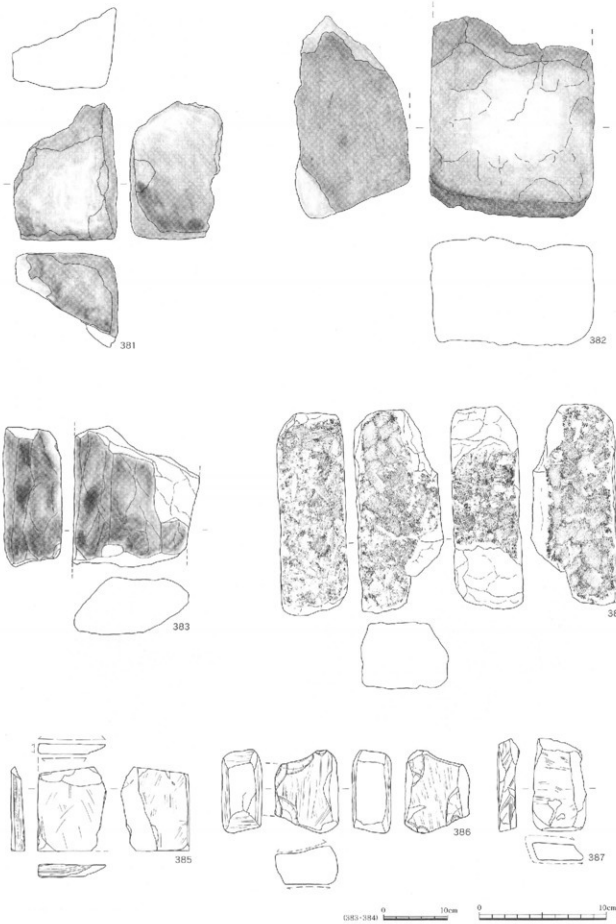
第68図　栗田遺跡（第12・15次）　遺物実測図(23)　(1/3、1/6)



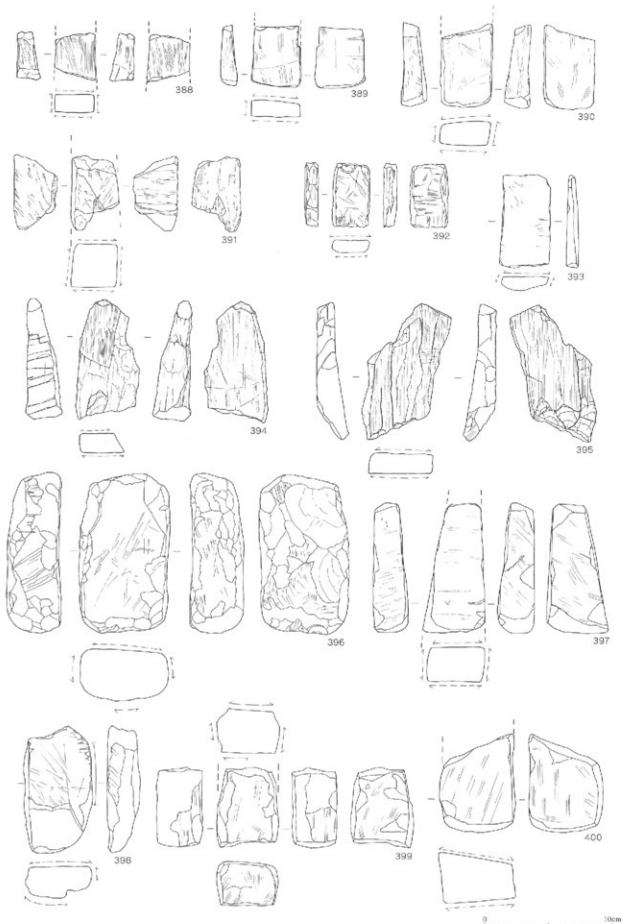
第69図　栗田遺跡（第12・15次）　遺物実測図(24)　(1/3)



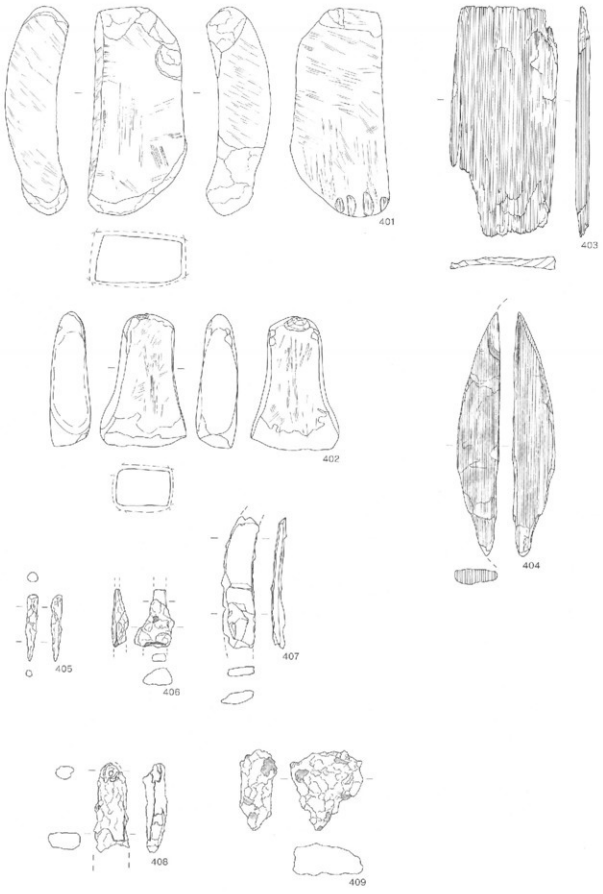
第70図　栗田遺跡（第12・15次）　遺物実測図(25)　(1/3)



第71図　栗田遺跡(第12・15次)　遺物実測図(26)　(1/3)



第72図　栗田遺跡（第12・15次）　遺物実測図（27）　(1/3)



第73図　栗田遺跡（第12・15次）　遺物実測図(28)　(1/3)

A区全景（北西から）

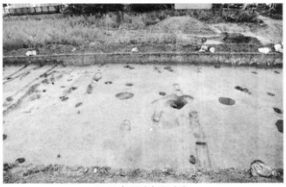
B区全景（北から）

C区全景（西から）

C区全景（西から）

D区全景（東から）

E区全景（南から）


F区全景（南から）

G区北側全景（北から）

G区南側全景（北から）

H区西側全景（東から）

I区西側全景(北から)

1号掘立柱建物AW(12)①(北から)

3号掘立柱建物AW(12)③(北から)

7号掘立柱建物AW(15)①・2号竪穴建物AW(15)①(南から)

8号掘立柱建物AW(15)②・3号竪穴建物AW(16)②(南から)

10号掘立柱建物AW(15)④(南から)

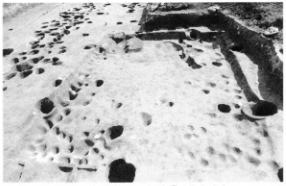
11号掘立柱建物AW(15)⑤・12号掘立柱建物AW(156)⑥(南から)

13号掘立柱建物AW(15)⑦(南から)

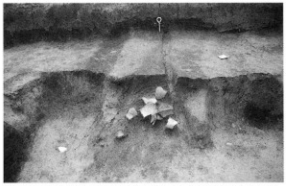
15号掘立柱建物AW(15)⑨・5号竪穴建物AW(15)④(北から)

16号掘立柱建物AW(15)⑩(南から)

17号掘立柱建物AW(15)⑪(南から)

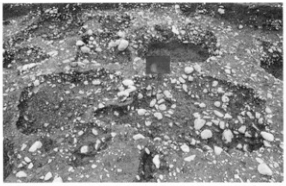

4号竪穴建物AW(15)③(北から)

6号竪穴建物AW(15)⑤(南から)


6号竪穴建物AW(15)⑤カマド付近遺物出土状況(北から)

溝AW(15)218(北から)

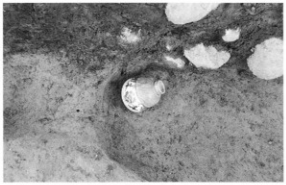
平行溝群E(南から)


竪穴状遺構AW(15)2052(右奥)・2053(左奥)・土坑AW(15)2051(右手前)(西から)

竪穴状遺構AW(15)2114(西から)

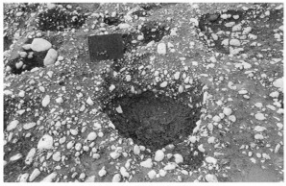
竪穴状遺構AW(15)2149(東から)

竪穴状遺構AW(15)2202・土坑AW(15)2214(東から)



土坑AW(15)2214青磁碗・青花碗出土状況(東から)

土坑AW(15)2032・2034断面(西から)



土坑AW(15)2047(東から)

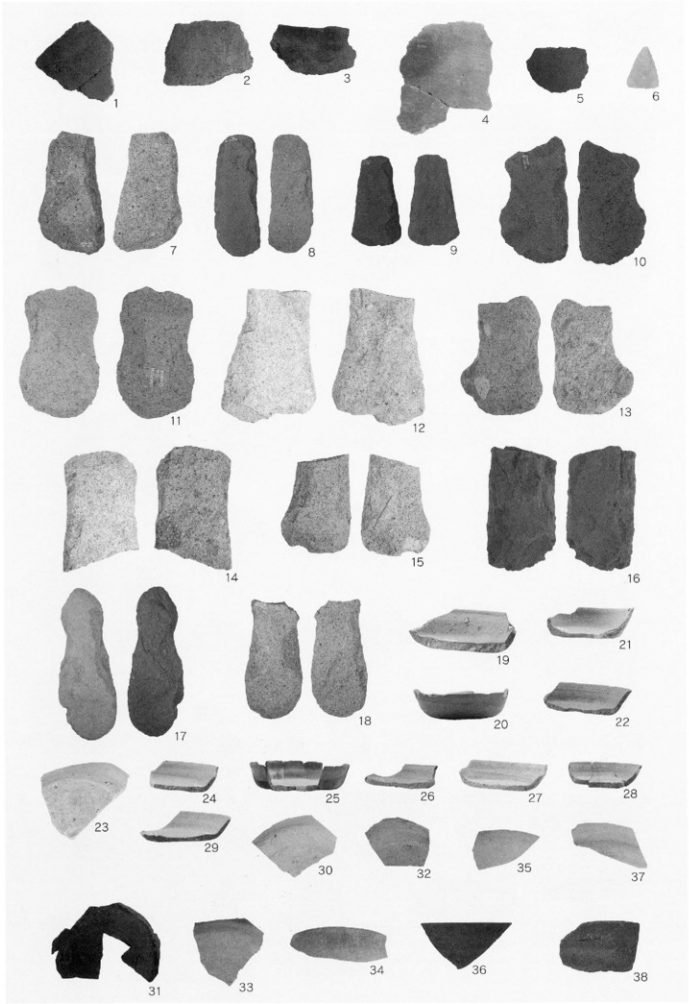
土坑AW(15)2102—C(西から)

土坑AW(15)2182(東から)

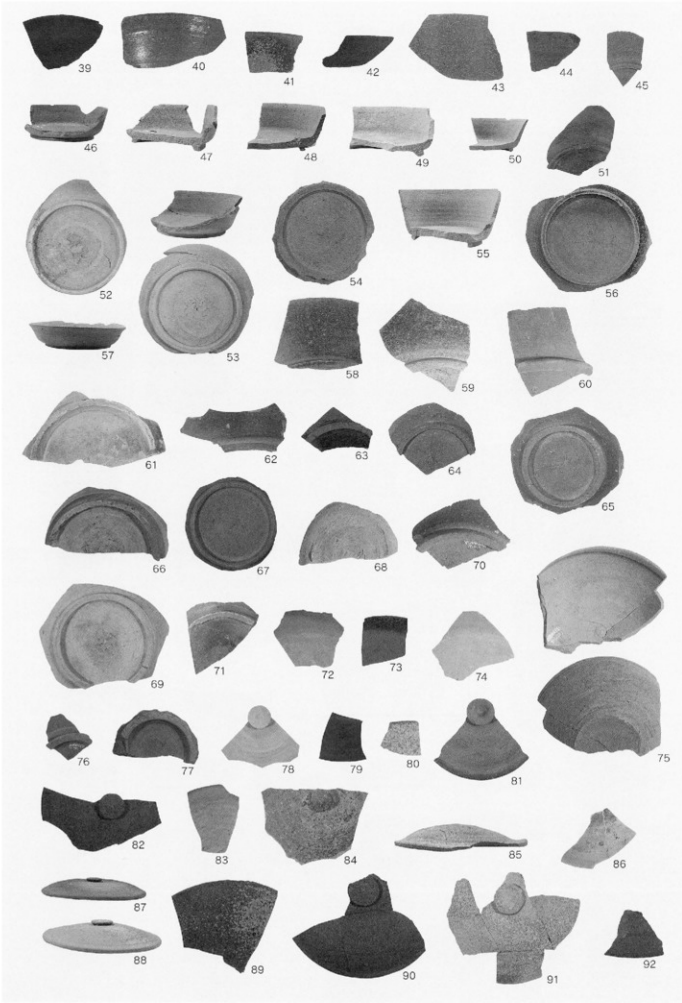
土坑AW(15)2194・2195(東から)

土坑AW(15)2421・2437(北から)

B区調査風景


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
32
35
37
31
33
34
36
38

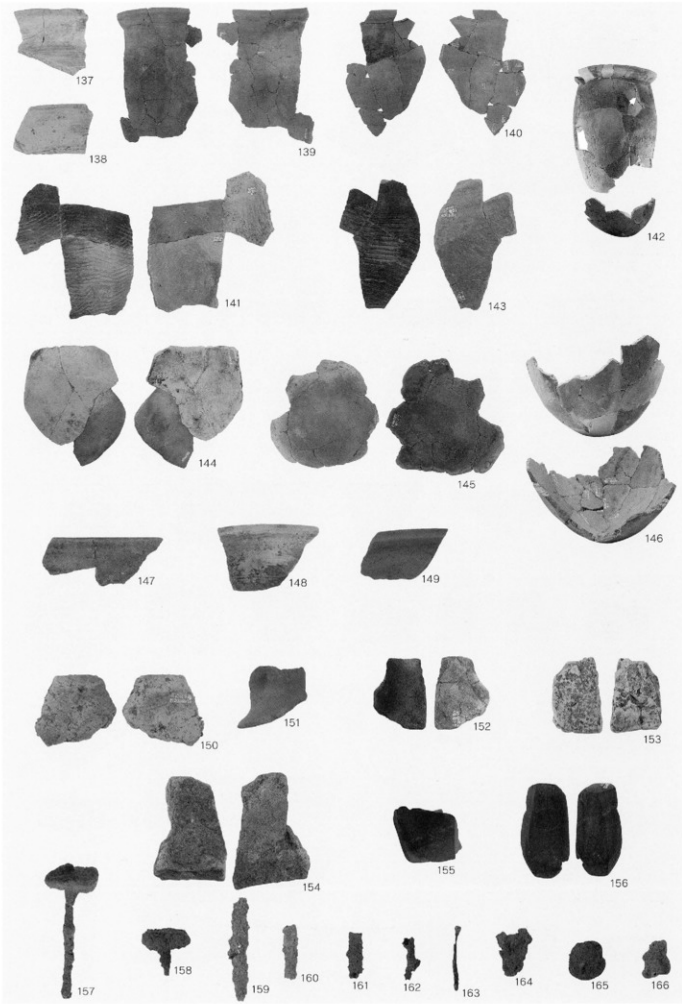
遺物(1)


39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
70
69
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92

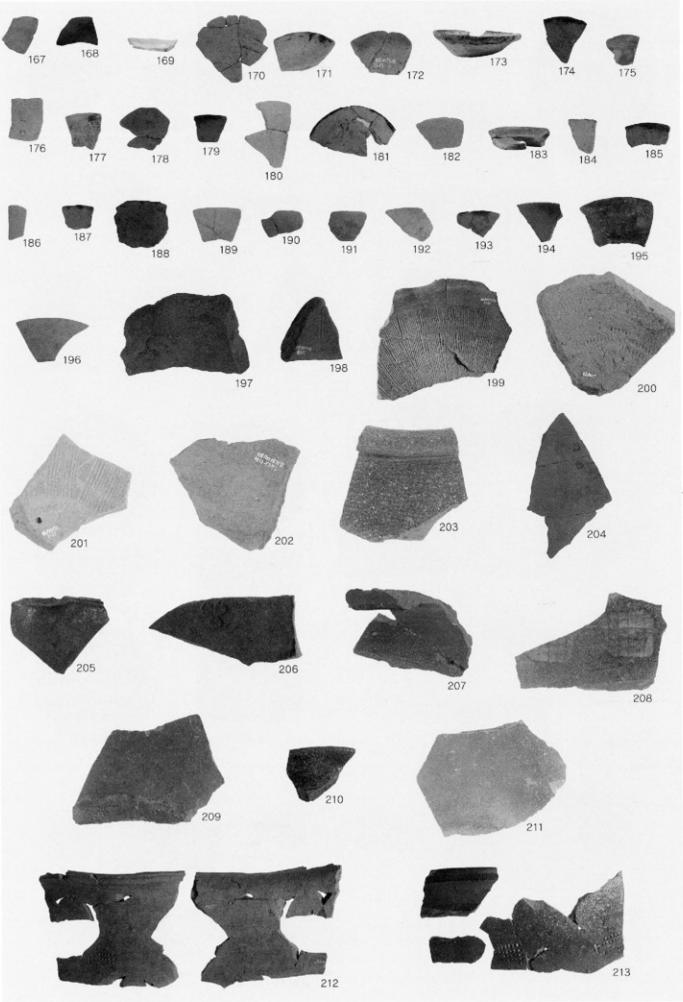
遺物(2)

93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136

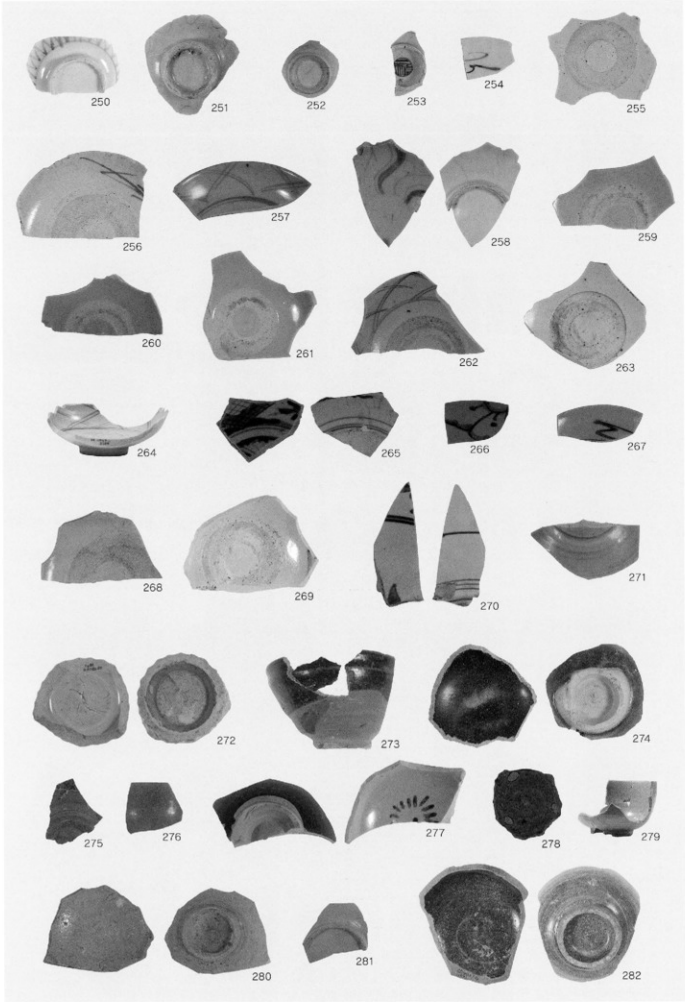
遺物(3)

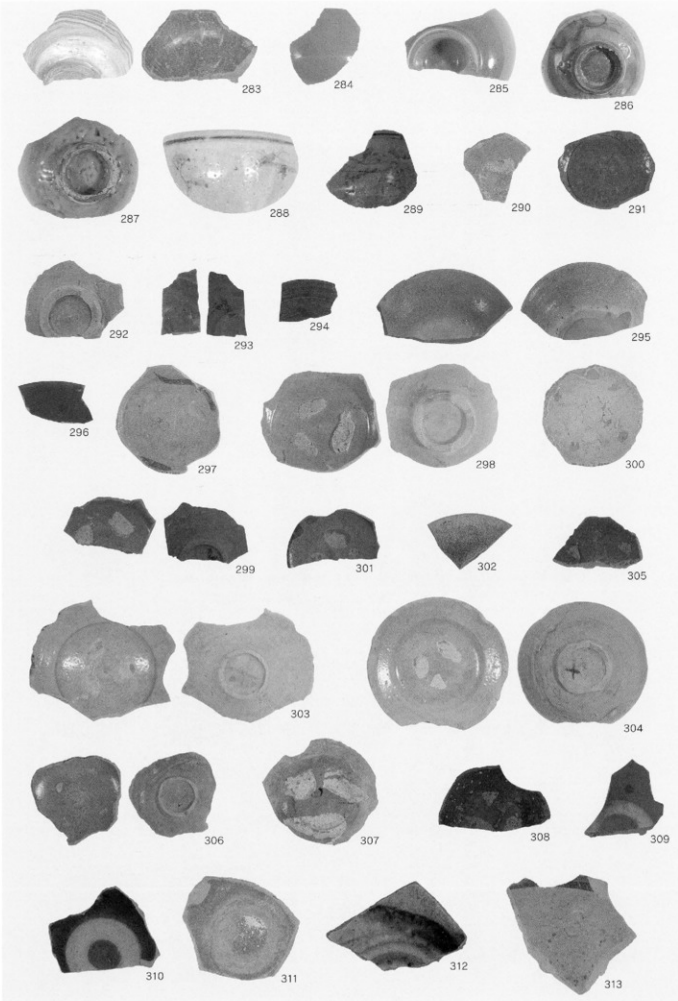

137
138
139
140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166

遺物(4)

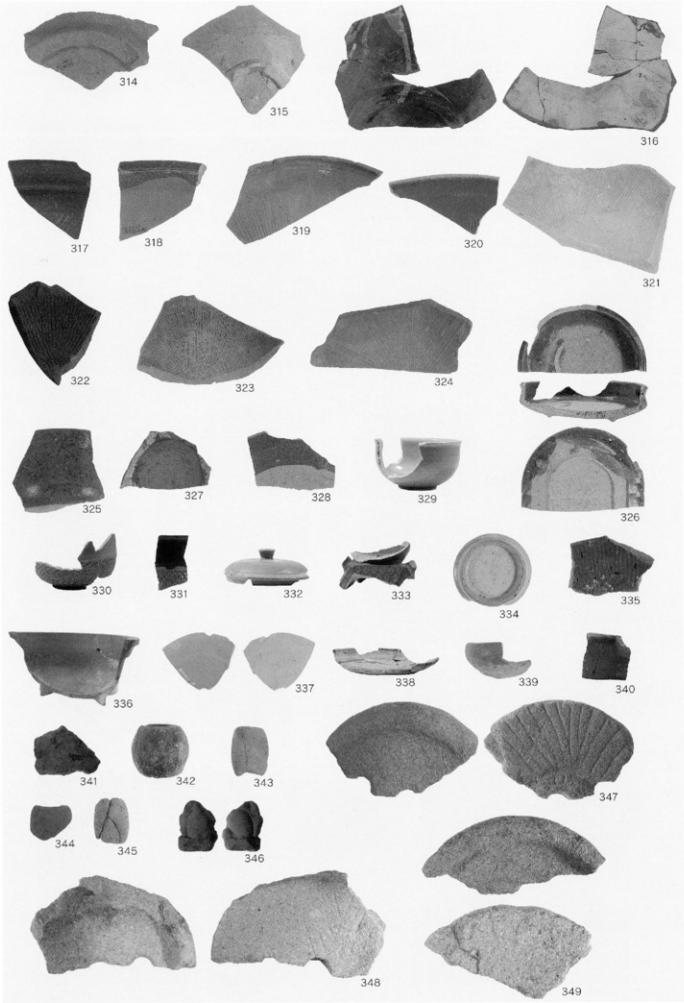

167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
212
213

214
215
216
217
219
218
220
221
222
223
224
225
226
227
228
229
230
231
232
233
234
235
236
237
238
239
240
241
242
243
244
245
246
247
248
249

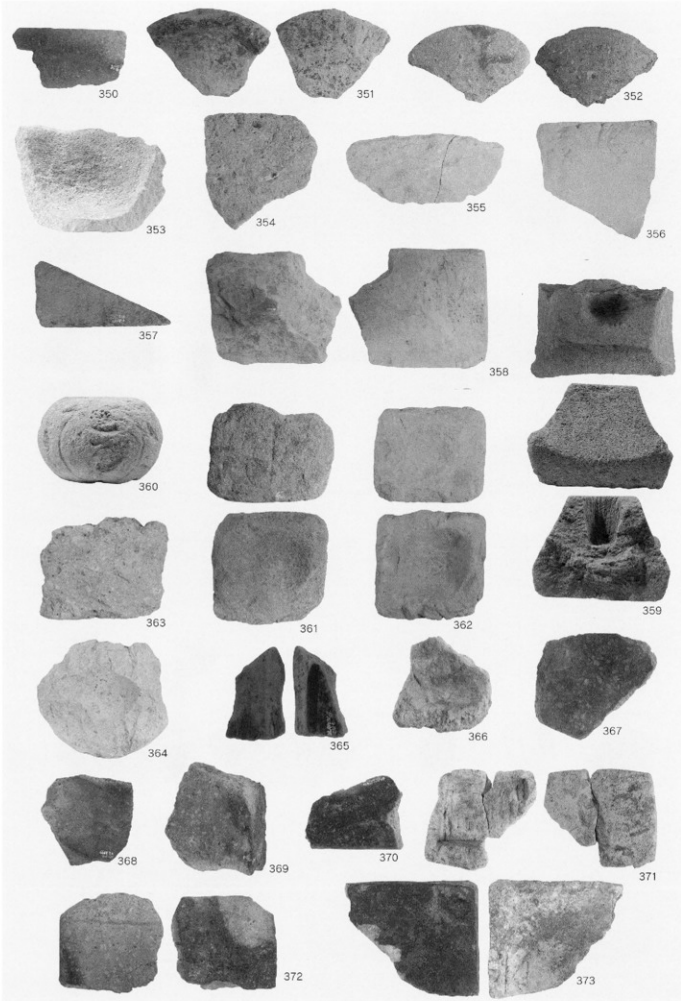

250
251
252
253
254
255
256
257
258
259
260
261
262
263
264
265
266
267
268
269
270
271
272
273
274
275
276
277
278
279
280
281
282


283
284
285
286
287
288
289
290
291
292
293
294
295
296
297
298
300
299
301
302
305
303
304
306
307
308
309
310
311
312
313

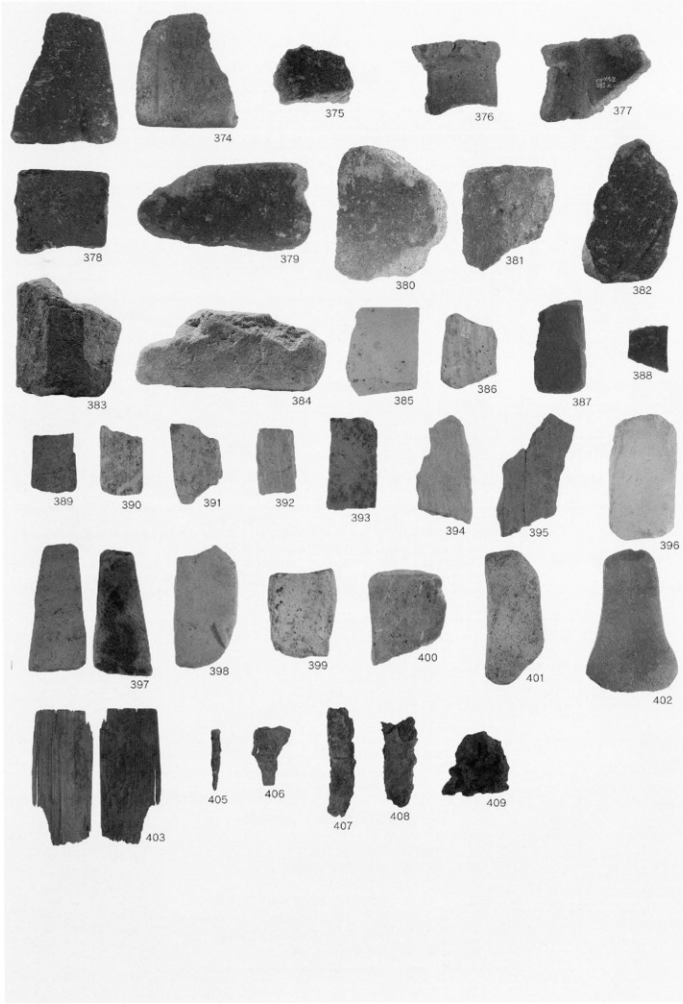
遺物(8)


314
315
316
317
318
319
320
321
322
323
324
325
327
328
329
326
330
331
332
333
334
335
336
337
338
339
340
341
342
343
347
344
345
346
348
349

遺物(9)


350
351
352
353
354
355
356
357
358
360
359
363
361
362
364
365
366
367
368
369
370
371
372
373

遺物(10)


374
375
376
377
378
379
380
381
382
383
384
385
386
387
388
389
390
391
392
393
394
395
396
397
398
399
400
401
402
403
405
406
407
408
409

報告書抄録

ふりがな	あわだいせき
書名	粟田遺跡
副書名	野々市町中南部土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	3
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	永野　勝章
編集機関	野々市町教育委員会
所在地	〒921－8510　石川県石川郡野々市町三納18街区1　Tel：076－227－6122
発行機関	野々市町中南部土地区画整理組合・野々市町教育委員会
発行年月日	西暦　2008年3月31日

所収遺跡名（フリガナ）	所在地（フリガナ）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
粟田遺跡（アワダ）	野々市町（ノノイチマチ）粟田（アワダ）	17344	16008	36°30′30″	136°36′40″	20000630～20000802	680	区画整理
						20050516～20051206	3,339	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
粟田遺跡	集落跡	縄文、古代	竪穴建物、掘立柱建物、ピット	土器、石器、陶磁器	

要約

縄文時代晩期から弥生時代にかけての短期的活動地点、古代の集落跡・耕作地、中近世の集落跡を確認した。古代の集落跡は、竪穴住居と掘立柱建物が数棟ずつ点在しその周辺に耕作地が広がる散居村的な様相を呈している。中近世の集落跡は扇状地特有の礫原に重複して所在する。遺構は竪穴状遺構と土坑を主体とし、中世では珠洲・越前・加賀・瀬戸及び中国製の陶磁器などが、近世では肥前陶磁器での外、越中瀬戸やその他の陶磁器が少量出土している。また砥石や行火・石臼などの石製品も出土している。

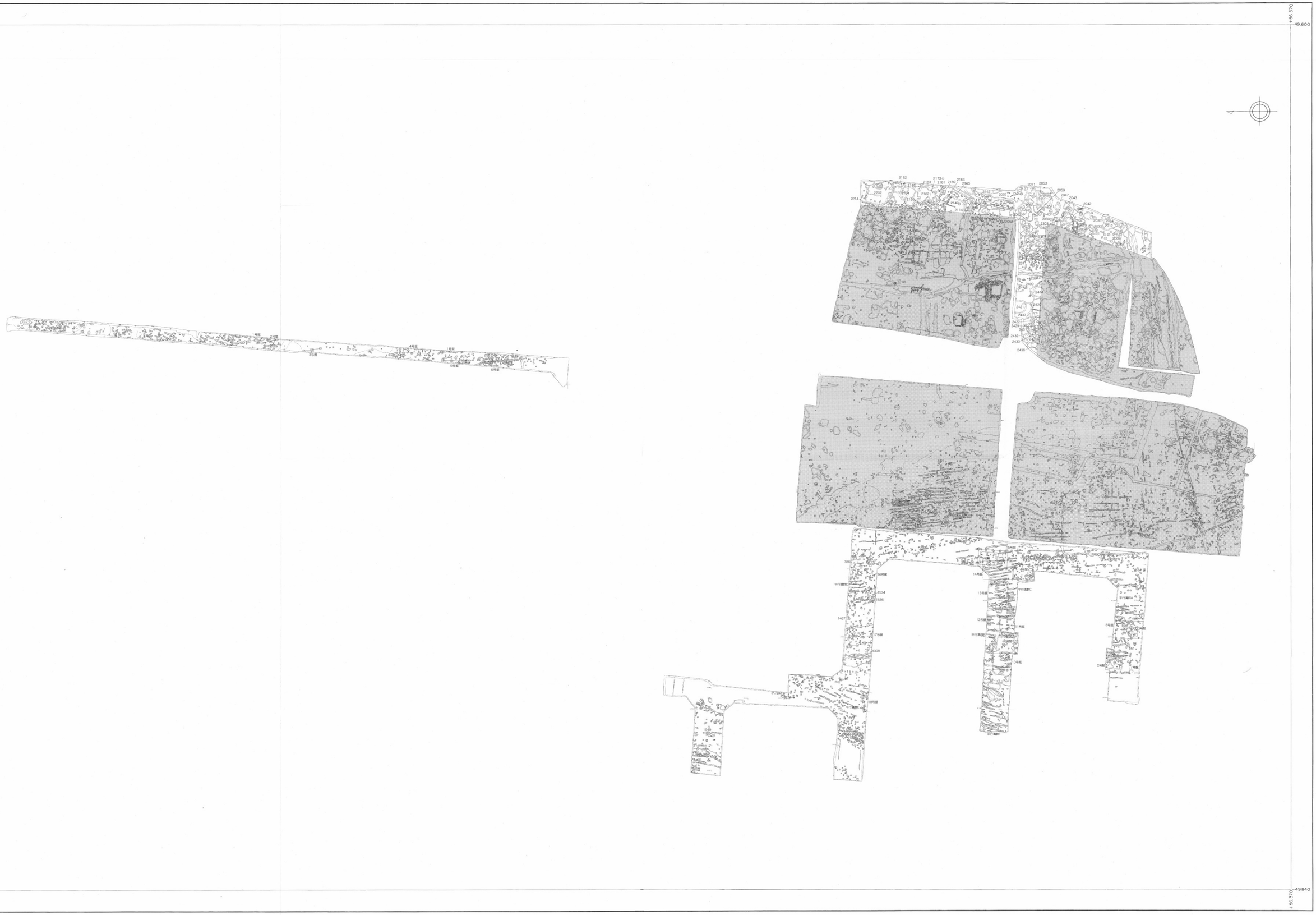
野々市町中南部土地区画整理事業に係る
埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ

粟田遺跡（第12・15次調査）

発行日　平成20年3月31日
発行者　野々市町教育委員会
〒921－8510
石川県石川郡野々市町三納18街区1
電話　076-227-6122
bunka@town.nonoichi.ishikawa.jp
印刷　高桑美術印刷（株）

粟田遺跡遺構図

平成18年3月作成



1:400

0 10 20 30 40 50m

株式会社 太陽測地社調製

野々市町教育委員会